
ナシツフテ世界樹日記

すたりむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナシツフテ世界樹日記

【Nコード】

N3151W

【作者名】

すたりむ

【あらすじ】

年明け早々、幼なじみの手によって無理やり冒険者にされてしまったイシャス。そのせいで家は追い出されるわ金は幼なじみが勝手に使っていくわとさあたいへん。しかし冒険者である以上、樹海に潜らないと金が稼げない。俺、別にただの市民なんだけどなあとか思いつつ、生活費のためにイシャスは幼なじみと共に樹海に挑むのであった。

（世界樹の迷宮IIIの実プレイを元にした二次創作です。）

（作者の m i x i 日記等でも公開してあります。）

ナシツフテ世界樹日記―1

・皇帝の月、4日

新年あけましてそこそこな昨今、ドーやら幼なじみが冒険者をやるらしい。

これからのトレンドは冒険者だよイシャスちゃん、と言われたので、よかったねえがんばって、と無難な言葉をかけたら、え、君もやるんだよ？ とか言われた。解せぬ。

んでずるずると引きずられてギルド登録所へ。うさんくさい担当のおっさんからなんかギルド名付けろと言われ、幼なじみは途方に暮れた目で俺のほうを見た。……いや。いやいや。そのくらい自分でつけろよ。と言いたかったがなんか泣かれそうだったので仕方なく、じゃあなんでもいいから好きなものの名前でも付けろと言ったらアイス！ と即答された。……おまえね。アイスじゃいくらなんでも一般名詞すぎるだろ、と言ったら、じゃあすごいアイス！ と言われた。解せぬ。

んで、いろいろ揉めたあげく、俺たちのギルド名はアークアイスになった。……まあ、すごいアイスっぽい名前だし、いいよな。たぶん。

ギルドに登録したところで、さっそく元老院へ。地元出身の冒険者は珍しいらしく、けっこういい扱いしてもらえた。とりあえず、新人は1階の地図を作る仕事から始めるらしい。

……嫌だなあ。その、いろんな噂聞くんだよね。地元出身だからオオヤマネコの爪はヤバいとか。カモノハシの毒は死ぬとか。そういうのばっか。

そしてついでに実家を追い出されるはめに。解せぬ。

冒険者って言ったら宿だよイシャスちゃん、と言われた。まあ、同じ冒険者が集まるから情報収集に有利ってのはわかるんだが……

金かかるだろ。と言ったら、冒険者には割引が利くんだとか。なるほど……世の中うまくできてるなあ。

・皇帝の月、5日

ギルド登録所から問い合わせが来た。おまえらのクラス聞いてねえぞ、と。

……クラス、たってなあ。俺たちただの一般市民だぜ？　と思つたものの、いちおう制度なんで答えなきゃいけないというはめに、俺はすばしっこさが比較的自慢なので、シノビかパイレーツか……まあシノビかなあ。という感じでシノビと答えた。ちなみに幼なじみは嬉々としてモンクと答えていた。……いいのかおまえ。殴る蹴るとかぜんぜんできないはずなんだが。

んで答えたらいきなりクラス訓練所に叩き込まれた。解せぬ。

クラス訓練所の主、ロッドテイルからむりやりにいろんな技能を叩き込まれる。……いや。いやいや。あんたフランクスだろ。なんで俺の指導とかやってんの、と言ったら殴られた。解せぬ。

そうしてむりやりクラス推奨の衣装を着せられる。……いや。まあ、身軽で動きやすいっちゃ動きやすいんだが。これでおまえも立派なシノビだ！　と言われてもなあ。俺一日走らされて衣装換えただけだぞ？　ちなみに幼なじみは楽しそうにモンク衣装であちよーとか言ってた。あちよーて。

・皇帝の月、6日

樹海探索一日目。

とりあえず、現状だと俺たちはまだ冒険者と認めてもらえてすらない状態。冒険者として小金を稼げるクエストも、馬鹿にして受けさせてもらえない。仕方ないのでがんばってまずはミッションこなすか、というわけで樹海へ入ったらいきなり死にかけた。解せぬ。

いや、カエルが辛いんですよ奥さん。マジでマジで。あいつに飛びつかれるのが超痛い。ばっちーんて来る。幼なじみは情けないなあと笑っていたが直後にばっちーんと食らって昏倒していた。ザマミロばーか。

そんなこんなで撤退。あー身体痛い。

・皇帝の月、7日

樹海探索はお休み。

筋肉痛がどうしようもないレベルに来てへばったのですはい。こればかりは慣れないとなあ。いちおう樹海の獣の死体をバラして持っていたらそこそこの金で買い取ってもらえたので、それを元手に少しだけ装備を拡充。短剣を新しくした。幼なじみの棍棒は据え置き。

そして今日は終わり。あー身体痛い。

・皇帝の月、8日

なんとか治ってきたので樹海探索再開。

俺としては慣れるまでしばらくは地味ーに出入り口付近の獣を狩ってるのが妥当だと思ったんだが、その地味さに幼なじみがぷっつん。奥に行こうとか言い出した。……えー。オオヤマネコ先生どうするんだよ。と思ったがずるずる引きずられて奥へ。

んで、実は地元民である俺はこのあたりの地形は地図なしでもだいたい知っているので、無難に書き進めることができるのでした。隠し通路もばっちり……ってオオヤマネコk t k r！ どーするよどーしよう助けてー。

結果。無難に撃破。あれ？

陽炎の術で出した幻影に相手がじゃれている隙に俺と幼なじみで突撃フルボッコ終了。なんか幼なじみは一撃食らってたがふらつき

ながらもなんとか無事。すげー。俺たちすげー。

……まあ、即座に帰ったけどな。痛いものは痛い。怖いものは怖い。あー怖かった。

・皇帝の月、9日

超速で地図を仕上げていく。オオヤマネコに会わないよう祈りながらこっそりこそこそ。

きっちり仕上げて、監督人の兵士の元に行っていく。無難に合格。すげえ。ひょっとして俺たち才能あるんじゃない？

とか言いながらボロボロで帰還。すいません調子こいてました。やっぱ長期間の探索は身も心もボロボロになるわー。幼なじみは探索中えらく楽しそうだったけど。なんでこいつこんなにぴんぴんしてるの？ と思ったら帰った直後ぶっ倒れた。解せぬ。

んで以前アルバイトしてた酒場へごー。稼げそうなクエストを適当にチョイス。ひなたぼっこに適した場所ねえ……なんか樹海舐めてんのかテメエ。と言いたいところだがここは抑えて、とりあえず無難な場所を。まあ、途中オオヤマネコ銀座を抜けていかなきゃいけないが、冒険者と違って普通人でも、逃げに徹すれば1階はそこまで危険じゃなかる。

それとネイピア商会って店で、アリアドネの糸とかいう便利アイテムを売ってくれるようになった。これを持っておくと迷宮から安全に帰還できるスグレモノなんだとか。へー。

・皇帝の月、10日

2階に到達。

……いや。いやいや。ぜんぜんそんな急ぐ気じゃなかったんですよ。でもね、なんか幼なじみがイシャスちゃんここに抜け道ある

よーって言って勝手に抜けていったら気がついたら階段の前にいた。
解せぬ。

んで即座に帰還。すげーでかい鳥がぎゃーぎゃー言ってた。こえー鳥こえー。

・皇帝の月、11日

噂だと鳥は夜寝てるって話だったので出発時間をずらしてみた。
が、夜でも十分辛いよ2階！　なんだあのトノサマガエルって奴は。
解せぬ。

それはともかく、なんか元老院所属の親切なひとが忠告してくれた。
あの巨大なトカゲはやばいから近寄るな……て、言われなくても
も近寄らんわああああ。あんな怪獣に手を出すとかどんなんだよ。

とか言いつつ、ちゃっかり怪獣の巣の奥へごー。そして……割引
券？

なんでこんなもんが迷宮内にあるんだ。しかも箱に入って。ネイ
ピア商会謎すぎる。

・皇帝の月、12日

ふはははは。クエストにあったムカデの多脚ゲット。……の、代
わりに撤退。幼なじみがあっさり伸びたせいでメデイカ使い切っちゃ
まった。

つーか2階すげーたいへんだな。本当に人間が探索できる場所な
のか？　と思ったが、酒場にいた占星術師と戦士のコンビが2階に
生えたキノコを食うべきか否か激論を交わしているのを見て嘆息。
単に俺たちの実力不足だな。

・皇帝の月、13日

また樹海内部で親切なひとに遭遇。オランピアさんというひとは、俺たちに安全に野営できる場所を紹介してくれた。……なんでカラー油渡されたけど。解せぬ。

それはともかくお礼を言っ、野営ポイントで休んでいるときに気づいた驚愕の事実。アリアドネの糸買ってない。

しぎやーもうダメだー！ という気持ちを隠し、ともかくうまく抜け道みたいなのを探してみようといういろいろ試行錯誤した結果、奥へ。ぬかるんで動きにくい大地を渡り、トカゲにおびえながら進んだ先にあった箱の中にアリアドネの糸。解せぬ。マジなんなんだこの迷宮。

……いいけど。無事帰れたし。

・皇帝の月、14日

探索継続。

ムロツミとかいうギルドの女の子、カナエと遭遇。どうやら相棒を捜しているらしい。……相棒探して1人で2階うろつけるのか。すげーなムロツミ。俺たちも早くそんな風になりたい。とか思いつつ普通に撤退。体力が尽きるのが早すぎる。

・皇帝の月、15日

ぎりぎり3階に到着するも、探索する体力が残っておらず撤退。らしい。らしいというのは、俺そのとき伸びてたから。幼なじみががんばってひとりで探索して切り抜けたらしい。えらいぞ。

……えらいぞ、はともかく。なんかもう金残ってないんですが。どうしよう。なんか尽きるの早すぎね？ と思ってギルド登録所のおっさんに相談したら、「採集で稼がないからだ」と怒られた。……んなこと言われてもなー。金になる草がどれかなんてしらねーっつーの。

・皇帝の月、16日

樹海で見つけたなけなしのブレイバントを売っぱらって金を確保。そんなでもって探索再開。幼なじみが昨日見つけたという抜け道を通って奥へ。ネローナとかいう戦士の女の子に事前に聞き出しておいたキノコ狩りポイントに移行。ふはは、楽しみにしていたキノコ食の時間だー！ と襲いかかったら逆に襲いかかられた。解せぬ。んで勝利。なんとかこの程度の魔物だったら対処できる。でも辛かった。次は、次こそはキノコを……！

・皇帝の月、17日

巷ではペイルホースとかいうギルドが行方不明になったとかで大騒ぎらしい。

まあ、俺たちには関係ない。最近気づいたことだが、2階に入っただばかりのあたりはわりと稼ぎポイントとして優秀だ。鳥が出なければ、の話だけど。

そして店で新発売の新素材防具、シミーズを購入。したら金が本格的に尽きた。アリアドネの糸はおろか泊まる金にすら困る。解せぬ。野営道具一日分売り払ってかろうじて宿代を工面することに。こりゃ本格的に金策が必要だな。

・皇帝の月、18日

うおおおおお鳥撃破あああああ。

すつつつげえギリギリだったけど。なんだよ夜は寝てるんじゃないのかよ。と思ったらギリギリまだ昼のタイミングで突撃しちまったっばい。間抜けな話だが、まあ生き残れたのでよし！

攻撃を二回も食らった幼なじみは不幸としか言いようがないがな。

俺は陽炎の術で逃げまくった。当たってたら終わりだったと思う。そして金がない。どうするべ。

・ 皇帝の月、19日

幼なじみが本を読んだのでなんだそれと聞いたら、伐採して採集するのに適した樹木を調べてた、だと。

……金策か。たしかにもうなりふり構ってられないからな。この際しようがないか。

ちなみに最近、覚えた分身の術をようやく有効に使えるようになってきた。分身即ラインヒール。これ。困ったら肉弾。

・ 皇帝の月、20日

幼なじみの真似して、金になる草花を調べてみたところ、どうやらネイピア商会の店主がネクタルの素材となる花を求めているらしいことに突き当たった。

金の臭い！ というわけでいろいろがんばって覚えて樹海へ。花を摘んで無事帰還。いえーい大儲けだ！ と思ったら本日すげー高いナイフ入荷……解せぬ。あれ欲しいけど金なさすぎる。590エソ。

・ 皇帝の月、21日

ええい葉なんているかー！ とばかりにアムリタとマドラとハマオを売ってむりやりマングーシュゲット。金はもうない。げふ。

まあ、おかげで超強くなったけど。やっぱ樹海は装備だよね！ 装備を制する者は樹海を制する。

そうして今日も楽しく採集ライフ！ そして帰ってきたら強い棍棒が売り出してた。マジ解せぬ。どれだけ出費しろと。

・ 皇帝の月、22日
棍棒買った。以上。
いや、もう、宿代もないです。どうしよう。

・ 皇帝の月、23日
現在の所持金…1エン。

もうどうしようもないので、半ば諦めて探索を続行することに。
幸い装備だけは整ったので、3階へ。

歩いていたら血まみれのバックパック発見。うわ物騒だと逃げようとしたところにトノサマガエル達の強襲を食らって大ピンチ。幼なじみはあっさり昏倒し、残った俺だけで分身と肉弾でかろうじて仕留めたが、もうどうしようもない。ともかく血まみれのバックパック（ペイルホースと書いてあった）の主を捜して奥に行ったらカバに襲われるわキノコに襲われるわで散々な目に。かろうじてたどり着いた野営地には盛大な血の跡。あー間に合いませんでしたかー。仕方ないのでアリアドネの糸で撤退。

それで、そういやペイルホースって行方不明になってたんだっけかわいそうに、と思って酒場に行ってその話をしたらいつの話だと失笑された。どうやらペイルホース、はるか前に帰ってきていたらしい。野営地の血の跡は奴らが血祭りに挙げた魔物のだってさ。解せぬ。

そして金がない。虎の子のアリアドネの糸使ったせいで探索もできない。ぐはあ。

・ 皇帝の月、24日
現在残り7エン、バックパックの中は野営用品一式（買値100

エン、売値40エン）だけという悲惨な状況を打破すべく樹海へ。狩って狩って狩りまくって、なんとかアリアドネの糸の代金を確保した。

……まあ、うっかり朝までいたせいで鳥に襲われたりしたけどな。ハハハマジ死ぬかと。

・皇帝の月、25日

いよいよ探索再開。

3階を回り、無難に立ち回りながら近道確保して撤退。なんか急にうまく回り出した気がする。なんでだろう？

・皇帝の月、26日

今日も元気に探索続行。

……のはずが、なんか行く手に見覚えのないシノビっぽいガキの姿。名前を聞いてみたらアガタと言われた。ムロツミの奴か。おまえね、相棒心配してたぞ……って言ったのだが、聞く耳も持たず。カバがうっとおしくて抜けられないからアンタらなんとかしてくれよ、とか言ってきた。……おまえね。知るかそんなの。と言いたかったがこっちも進まないといけないことには変わらない。しかたないから適当についてこさせて、グルグル回って突破したらえらい感謝された。いや、感謝はいいから帰ってやれよ。

それで4階に到達。したらなんか、前に会った親切な人が通行止めしてやがる。なにがあったんだと思ったら元老院に聞けだってさ。仕方ないのでいったん撤退。

・皇帝の月、27日

どうやら、元老院は本当に強い冒険者かどうかを試すために、4

階でテストを行っているらしい。

……うーん。テストかあ。

ぶっちゃけ、俺たちって強いんだろうか。いや、いろいろわざわざ話を収集する限りではそこそこ強いっぽいんだけど。ただ、ひとつのギルドの探索適正人数は5人って言われているらしいんだが、俺たちはたった2人。だいぶその点で能力が足りないんだよね。

とか言いつつ、探索適正人数の揃ったギルドを見たことがない俺たちであった。なんかこの街の仕組みおかしくね？

まあ、無難にテスト受けるかってことで、いったん受理。ただ、もうちょっと3階回るかなあ。

・皇帝の月、28日

3階回って帰ってきたら店に新作入荷！ またかよ。ていうかなんだよライトメイス860エンで。無理に決まってるだろ。

と言いつつ、実はけっこう最近金回りがよくなってきているのでありました。なんでだろう。やっぱ装備整えて楽になったからかな？

・笛鼠の月、1日

4階探索開始。

おっかない鹿がぐるぐる回っているのをさくつとスルーして奥へ。なんか高そうな宝石ゲット！ したら直後に魚の大群に襲われてすげえ痛かった。解せぬ。

それはともかくさくさく進む。いい傾向だ。

・笛鼠の月、2日
なにあの蛇。

すっげえ固かった。切っても切っても牙で攻撃受けるし、殴っても殴っても効きやしない。分身使ってなんとか撃退したけど、すっげえ苦戦した。もう二度と戦いたくない。

あんなのが普通にうろついているのか……4階怖いなあ。

・笛鼠の月、3日

美食家のエスピオルとかいうおっさんが、ベッコウバチの巣を食べたいと言ってクエストを出してきた。

それだけならいつものことなのだが、報酬が破格。600エンで。喉から手が出るほど金が欲しい我々としては、もうとにかく行くしか！ というわけで4階にれつごー。

結果、野良蛇にかまれて幼なじみがぐんにやりしたりしたものの、その幼なじみを引きずってなんとか巢ゲット。600エンいただきー！ そして即帰還。ぐう。

なお、ちょうどそのあたりにいたムロツミの2人から、4階の試練について共闘を持ちかけられた。まあ、2人のギルド同士だし悪くないか……て貴様ら、なに戦わないつもり？ 情報収集するから倒すのはおまえがやれって？ 帰れ。

・笛鼠の月、4日

ライトメイスげとー！

……所持金62エン。解せぬ。

まあ、でもこの実力で試練に挑むのはさすがに無謀。というわけで、無難に2階のトカゲに挑戦してみることにした。結果、勝利。すげえやるじゃん俺たち！

幼なじみ、伸びたけどな。

その回復代で金が飛んで、泣きながら素材狩りするはめになったけどな！

解せぬ。

・笛鼠の月、5日

試練にチャレンジするための条件として、まず相手を観察しないといけない。条件として出された課題、魔魚ナルメルは臆病なので、湿地帯を逃げ回る敵とのバトルになる。土地勘がないと厳しい。

というわけで、ムロツミの2人がそのへんをなんとかしてくれ、完璧な地図を手に入れた！……共闘断ったはずんだけどなあ。なんで働いてるんだてめえら、と聞いたら、幼なじみから了承を得たと答えが返ってきた。解せぬ。

それはそれとして俺たちは今日もトカゲ狩り。無茶しなければちゃんと勝てる。

・笛鼠の月、6日

なにやら4階で、かみつき魚の乱獲大会が開かれるという噂を聞いた。

大会とかそういうのに目がない幼なじみはやる気満々。俺も、優勝品のアムリタ×5に興味津々。というわけで、れつつこー。

結果、無事1位になりました。すげえ。

まあ、イビルフィッシュはかみつき魚呼ぶからね。それをある程度見越して狩りまくれば楽勝。なにげに一回伸びて幼なじみのリザレクトに頼ったりしたけど。気にしない！

・笛鼠の月、7日

今度は鹿に突貫。何度も変なステップに同士討ちを誘発され、マドラとテリアカβを消費しながらもかろうじて勝利。やったー！
てか俺たち強いじゃん！

……幼なじみに何度も何度も分身殴り殺されたけどな。いつか仕返す。

・笛鼠の月、8日

ギルド登録所のおっさんに、なんかうちのギルド打たれ弱いんだよねーという話をした。いやね、主たる火力は幼なじみのライトメイスなんだけど、幼なじみ回復に回らないと死ぬじゃんの感じでジリ貧になるんだなこれが。という話をしたら、そりゃ回復アイテムがないからだろうと呆れられた。メディカ持ってたておまえが連打すればいいじゃんのな。

そんでがんばってメディカ買った。10個も。それで金が尽きたのでまた探索開始。うがー金がねー。

・笛鼠の月、9日

いま生きてるのがわりと嘘くさい。

いやね、今日も変わらず金を漁りに4階に繰り出したんですよ。そんで、手頃な鹿に喧嘩を売って見たらなんかしばらくして別の鹿が乱入してきて。鹿二体と戦うはめに。解せぬ。

幼なじみはあつという間にぶっ倒れ、俺だけがメディカ飲みながら戦うはめに。よく生き残れたなあ。かろうじて生還したけどメディカ2個しか残ってねえよ。どうするんだこれ。

・笛鼠の月、10日

とりあえず金稼ぎ。泣きながら甲殻を集める簡単なお仕事です。おかしいなあ冒険者ってこんな地味な仕事だっけか。

・笛鼠の月、11日
今日も金稼ぎ。

そういえば今日気づいたんだが、なんかトカゲ復活してるね……
奥から出てきたんだろうか。迷惑な。

カバに喧嘩売ろうかと思うも、あれは別格という噂を聞いて自重。
勝てる目算があれば戦うんだがなあ。

・笛鼠の月、12日

なんとか金が貯まってきたかなーと思ったら幼なじみが鹿の毛皮
でできた兜を調達してきやがったせいでぜんぶおじゃんにああああ
あ。テメエすっからかんじゃねえか！　なんだよ所持金3エンて！

・笛鼠の月、13日

おかしい。おかしいぞ諸君。なんで金稼いで来たのに所持金が残
ってないの？

とりあえず幼なじみを問い詰めてみたら、どうやら武器を鍛冶使
って強化したんだって。雷の付与効果を付けて。……へー。ところ
で宿泊代金はどこですか。

というわけで、アムリタを売り払ってベッドを確保。大会マジあ
りがたいわー。アレの商品がなかったら今頃野宿しかかった。

・笛鼠の月、14日

酒場でいつも一緒に飲んでるおっさんに昨日の話を愚痴ったら、
雷があるなら4階のホシゾラウミウシで荒稼ぎできるという話を教
えてもらった。超、ありがたい。

というわけで乱獲開始。あつという間に、500エン以上溜まっ
た。それを使って20個のメデイカを買いあさる幼なじみ。……止

めなきや宿代まで使ってたなこいつ。

さて、そろそろ挑み頃だ。魔魚と呼ばれた恐るべきナルメル、その住処に殴り込みをかける時が来た。

・笛鼠の月、15日

魔魚ナルメルは、近づくと思はれる習性がある。

ぬかるみの多い大地を跳ねたり飛んだりするものだから、とにかく戦うまでが一苦勞。……のはずなのだが、今回はムロツミの2人の全面協力がある。おかげで、効率よく端に追い詰めておいて、後ろから強襲することに成功した。

即座に分身を整え、ラインヒールで陣容を完成させる。だが今回の作戦はここからが真骨頂。相手が行動する前に、もう一度分身！それを後方に置いて、招鳥の術！これで、相手はそちらにくぎ付けになった。この状態を維持しつつ、分身と幼なじみと一緒にボコスカ殴るのが今回の作戦。

——なのに、いきなり本体がぶん殴られて意識が飛んだ。解せぬ。かろうじて復活し、アムリタを使って気付けを確保。後衛の分身がメデイカ無双をしている隙に、相手を叩いて叩いて叩いて叩く。なんとか動きがぶくなくなって——と思ったときだった。相手が、沼地に身を没しやがったのだ。

これはまずい。なんでもこの魚、沼にいと大地震を起こすらしい。周辺の木が倒れて下敷きになったりしたら一巻の終わりなので、なんとしても短期決戦を挑まなければならない。分身総出で片っ端から沼を探って回り、見つけ出してフルボッコ！

そしたら逃げだしやがった。解せぬ。

そこから先はもうグダグダ。なぜか湧いて出たへんな虫たちを必死で避けつつ、またナルメルを端に追い詰める。そうして背後からあたつく。もう逃がさないとばかりに……って、必死にやり過ぎて分身消しちまった！　なんてこったい。

あとはもう、またがんばって分身を用意し、陣容を整え、とにかく殴って殴って殴って殴った。また沼に逃げたのを踏みつぶし、ナマズ髭を鞭のように振り回す攻撃をいなし、激戦の結果、かろうじて勝利。いやー、さすが試練だけあるわ。強かった。

……けど、やっぱメディカ20個はいらねーよ。幼なじみ、買いすぎ。

そんでもって5階へ。……なんか水の中なのに息ができる！ ぶしぎ！

ナシツフテ世界樹日記ー2

・笛鼠の月、16日

いきなりだが、ギルドのメンバーが増えた。

……あんまりハッピーな話じゃないが。ギルド登録所のおっさん曰く、新米なので適当に揉んでやってくれとのことだがそれはなんか使えないのを押し付けたと言わないか。と突っ込んだらはっはっはと笑っていなされた。やっぱりか。

そんで会いに行ったら、ジロニアというその新メンバーは日光照る部屋の中、バラの花を持って佇んでいた。この時点で解せぬ。幼なじみはきゃー美形k t k rとか言って喜んでる。答えようとしたジロニアはそこで脈絡なく血を吐いた。……おい。本格的に迷宮とか入れない体質のひとつじゃないのかこれ。

・笛鼠の月、17日

1階にトカゲどもが進出してきたということで元老院指令発動。

第二階層探索許可を持つギルドは大至急1階に赴いてトカゲを一掃せよ。だってさ。へー。え、あれ、ウチも？

というわけで新人ジロニアを連れて討伐開始。急行軍にも、ジロニアは文句ひとつ言わず着いてくる。この辺の根性はいちおう及第点か、と思った矢先に血を吐いて倒れた。おい、無理なら限界来る前に言えよ！？

そしてトカゲ3体討伐完了。まあ、いまさらこいつで苦戦はしない。一ヶ月前に言ってたこととは大違いだが気にしたら負け。

・笛鼠の月、18日

今度は4階、ナルメルの住処跡に虫が大量出現。まあ、べつにそ

のレベルの場所なら迷惑じゃないし放っておいてもいいんだが、どうやら希少な虫らしく、死骸をそれなりの高値でネイピア商會が買い取ってくれるとのこと。だったら行くっきゃねー！

というわけで乱獲してきた。気づいたんだが、俺が後ろで敵の注意を引いておいて残りの全員でタコ殴りという戦法は実に安定する。最初からこの手で行けばよかったかな……

あと今日わかった事実。ジロニア、鉱物系の目利きはそれなりにできるらしい。ほほう。稼ぎ源もうひとつゲット。

・笛鼠の月、19日

金もそこそこ貯まったので探索再開。

5階には樹海磁軸というのがあって、ある仕組みによって迷宮の外からそこまで直行できる。なので、わりと気軽に探索を再開したり中断したりできるのだった。たいへんありがたい。

元老院では、第二階層の奥には深都という伝説の都があるが、そこまで生きて抜けた者が誰もいない魔の階層だと脅された。……のだが、正直ぜんぜん怖くない。ていうか、金欠より怖いものがあるかー！ 幸いここの魔物は強いことは強いものの落とす部位の金がかなり高い。素晴らしい。神様ありがとう。

そんなわけで適当に探索して撤退。一度、フグの毒に当てられて同士討ちの挙げ句全員ぶっ倒れる直前まで追い詰められたが、その程度の修羅場はもうくぐり飽きるほどくぐっている俺たちには苦でもない。ちなみにジロニアは普通にガクブルってた。未熟者め。

……待て。単に俺たちって不幸慣れしてるだけなのか？

・笛鼠の月、20日

探索続行中。

途中で出てきたワニっぽいなにかは華麗にスルーで。ああいう迷

惑なのは逃げるに限ると俺の勘が告げている。そんなわけで普通に探索を続け、6階への道筋に当たりをつけたところで撤退。

そういえば今日、ムロツミのふたりに会った。なんか、ゾディアックのカナエのほうが変なトラウマ抱えて困っているとのこと。：まあ、無茶しないようにな、とだけ言っておいた。こういうとき、気の利いたことを言えない自分が憎い。と言ったら幼なじみに大爆笑された。解せぬ。

・笛鼠の月、21日

3階の鉱物が不足しているので持ってきてくれとネイピア商会の店主に言われ、3階へ。うろついてたら不用意に変なところに入ってしまった、気がついたらカバが背後にいた。解せぬ。

はい必死で倒しました。わりといまの状況だとカバにも安定して勝てるんだな。びっくりだ。

そして目当ての鉱物は手に入らず。解せぬ。

・笛鼠の月、22日

今日こそは！ というわけで、3階は諦めて4階へ行くことに。

途中、鹿に絡まれて同士討ちを連発したり、俺が分身の使いすぎでへたったり、幼なじみが足をくじいたり、ジロニアが血を吐いたりというハプニングがあったものの、無事に鉱物ゲット。なんとか帰って宿に行こうと思ったら宿代がない。何故に。と思ったら幼なじみ曰く、ジロニアの防具を新調してあげたんだーかつこいいですよ、だと。解せぬ。

……がんばって金を工面して宿代手に入れました。残り所持金は2エン。

・笛鼠の月、23日

今日も素敵に殴り殴られ冒険者生活。最近後衛で招鳥使ってるせいで攻撃がばんばん飛んできてすごい痛い。

なんとかならんかと思っていたら流れ弾であっさり幼なじみが飛んだ。慌ててジロニア連れて帰宅。そしてすごいこと発覚。たったこれだけ潜っただけなのに、十分泊まれる金がある！

……いや、普通なことなだけどな。なんで俺たちこんな宵越しの銭なし生活続けてるんだろ。

・笛鼠の月、24日

どーも当たり所がかなり悪かったようで、幼なじみは今日もダウン。

仕方ないので昔のバイト先に頭を下げて金を工面する方向で。酒場で働いてるといろんな話が聞ける。最近はクーラスクスの喉の相場が上がってるとか、6階に不思議な石像があるとか、いろいろ。

……クーラスクスの喉、ねえ。

というわけでバイトをそこで切り上げ、ジロニアとふたりで樹海へ。貧弱な攻撃力に泣きながら、なんとかクーラスクスの喉ゲット。売り払ったらすげえ高値がついてびっくり。1500エンでこれならもうしばらく暮らせるな。

……代償としてえらくボロボロになったが。ひどい攻撃力だよあいつ。

・笛鼠の月、25日

幼なじみが回復しきってないので、大事を取って今日も休み。

暇ができたのでギルド登録所でおっさんと会話。ハイ・ラガードとかエトリアで発見された別の「世界樹」について。あっちはかな

り探索が進んでいるらしい。その冒険者たちがこっちにも流れてくるんじゃないのかと思っていたがそうでもないとのこと。なんでだと聞いたら、安心できる航路が確立されていないからじゃないか、と言う。……あー。そうなんだ。地元民にはそのへんはわからないが、たしかに10年前くらいに海流の流れが変わって、北の大陸に行きにくくなったって話は聞くな。

まあ、それでも来ている人間はいるみたいなんだけど。ギルド作りたての頃にしごかれたロッドテイルっておっさんも歴戦の勇者なんだそうだ。へー。

そんな話をしていたら、なんとなく海を見たくなって港へ。

いちおう俺たちもそこそこレベル高いギルドなので（というか、第二階層を歩いている時点でエース級なのが実情だ）、港で船を与えられている。一切使ってないけど。港の管理人のおじさんは苦笑していたが、まあそれもありだよ、としみじみ言われた。なんでも、冒険者の中には樹海潜りをほぼ諦め、かといって航路の開発も行わず、ただ日がな一日漁だけして暮らしている連中が多いらしい。それなんて漁師？

そんなことを聞きつつ海岸線を歩いていたら、海からざばーんと打ち上げられた人間発見。うわどぎえもんだーと思って見てたら普通にむくりと起き上がって目が合った。解せぬ。

見るからにゾディアックな彼女は名前をツスクルと言うらしい。そしてそれ以外の記憶をぜんぶ持ってなかった。……うーん。まあ冒険者なんだろうけど。でも記憶がないんじゃないかなあ。とりあえず身体はぴんぴんしていそうだったので、当座のバイト先として酒場を紹介しておいた。

そんなこんなで一日終了。まあ、こんな日もいいだろう。

・笛鼠の月、26日

幼なじみも無事復活したので探索再開。

いま探索しているのは6階なわけだが、ここは海流がひどく強くて迷いやすい。うろうろしていたら以前出会ったラー油のひと、オランピアさんと出会った。なにやってるんですかここで、と言ったら、ここは海なのでラー油が使いにくいですなーと返ってきた。解せぬ。ていうかラー油って使うものなのか。

それでオランピアさん曰く、世界樹の秘密を発見したらしい。奥の通路にすごい怪しい階段があるのだが、そこに向かって帰ってきた冒険者がいないのだとか。えーそりゃ行きたくねえなあ。と言ったが幼なじみが、なに言ってるんだよイシャスちゃんこれチャンスだよチャンスチャンス！とせっつくので仕方ないから奥へ。

そしてボロボロで帰還。なんか魚の化け物が大量にいるんだけど。それに入り組んでるし。勘弁して欲しい。

・笛鼠の月、27日

今日もオランピアさんの応援に応えて6階の奥を探索。

古代魚の群れを華麗にスルーし、強烈な海流に飲まれながらなんとか逃げ込んで、たどり着いた先にはひとつの広間。……階段ないじゃん。ていうか白骨死体が大量に転がってるんですけど。そして気がつくと後ろに大量の古代魚。解せぬ。

こりゃもう駄目かな。と思ったら古代魚の群れを見たジロニアが血を吐いて、そしてその血に古代魚が一斉に群がっていった。チャンス。というわけで古代魚が血とたわむれている隙に一目散に脱出。危機一髪だった。セーフ。

と思った直後にハイオンネプの群れに襲われて死にかけた。解せぬ。

・笛鼠の月、28日

いつものように樹海へ行くと、なんかオランピアさんが信じられないものを見る目で、なんで生きて帰って来た、とか言われた。：なんで、って言われてもなあ。強いて言うなら虚弱体質のせい？まあ、もうさん付けする必要はないだろう。オランピアは、憎々しげにこちらを見やって、あの数の古代魚相手に生き残るのは計算外だった。とか言った。……なるほど。やっぱはめられたのか。

なにが目的だ。と聞くと、オランピアはその言葉を無視して近くの木に一撃。すると、さほど力を入れた風にも見えないのに、ばきばきばきと木は折れて倒れてしまった。うげげ、こいつめっちゃ強い。ていうか、こいつが直接出張るだけで俺たち倒せたんじゃないのか。

オランピアは、これ以上深都に近づくならばおまえたちがこうなる、と言って、その場を去っていった。……うーん。なるほど。じやあ近づかないでおこうか。

と言ったら幼なじみにぶん殴られて、志が低い、と説教された。解せぬ。いいじゃん近づかなければお互いハッピーだし、案外この階層金儲けには適してるし、と言ったらばかばかぶん殴られた。どうでもいいがすげえ痛い。昔はこうじゃなかったんだが、モンクになってから変わったなーこいつ。

ともかく、あったことを元老院に報告。するとミッションを発動された。女の行方を追って身柄を確保しろ、……って無理だろうそれ。あれどう見ても超人ですよ？

……それはいいとして、だ。なんで9エンしか残金ないの？

幼なじみはにこにこしてる。また貴様か。稼いでも稼いでも装備に金が消えていく。これが冒険者。

・天牛の月、1日

今日は気合い入れて潜るぜ！ と意気込んで行ったところをワニ

に強襲された。解せぬ。

んでがんばって退治。なかなか手強かったが、ジロニアの号令が意外と強いんだよな……これが陣形効果ってやつか。うちのギルド、長期戦にはけっこう向いているのかもしれない。

そして材料集めて撤退。しようと思っただけで7階まで進出したらアリアドネの糸持ってなかった。解せぬ。そういや金無いから買ってなかったんだなあ。としみじみ。幼なじみ、なんで消耗品より装備先に買うんだろ。とりあえず必死で撤退したが、生きてるのが不思議なくらいの惨状だった。かろうじて動けるのが俺だけで、しかもリザレクト直後だったのであと一発受ければ即昏倒だった。あぶねー。

なお、7階では親切な人一号ことクジュラさんが指揮を取ったので挨拶だけしておいた。こっちはいいひとだなあ。襲ってこないし。

・天牛の月、2日

ムロツミのカナエから、アガタには6階の古代魚の巣窟のことを教えないで欲しい、と言われた。……なんでだろう。まあ、言わなくてもあんな物騒なところには近づかないが吉だ。どうせなにもないし。

それはともかく今日も樹海。に行く前に、ちょっとツスクルの様子を見に酒場へ。宿屋の息子が釣ったという魚を食べながら話を聞いたところ、冒険の話をいろいろ聞いていたら少しだけ記憶が戻った気がした、という。やっぱり冒険者だったのかねえ。

そして横にいたスコット博士というひとから、7階のヒトデの生態が気になるから調査して欲しいと依頼された。おいおいなんでそんな面倒そうなことを、と言ったら、だって7階まで行ってる冒険者なんてほとんどいないから、頼めるひとがいなんだよ、と言われた。……そうか。実は俺たち、もうエース級なんだな。実感はぜ

んぜんないが。

宿屋に戻って、息子に魚の礼を言う。いい漁師になるって酒場の主が言ってたぞ、と言ったら苦笑いしてた。まあそりゃなあ。宿屋だし。そんなこと言われても困るだろう。

で、宿屋の息子はオランプピアの名前だけは聞いたことがあるように、樹海でしか会えないそうですですがずっと野宿なんでしょうかね、と言われた。まあ、そうなんだろうな。ラー油持って野宿してるだろう。

そして樹海探索。7階は危なっかしい鱗竜が多くて困る。あれがいなければ楽勝で探索できるんだけどな……困ったもんだ。

・天牛の月、3日

今日も探索。6階のいろんな箇所を回り、7階でアモロ染めとやらの染料を取ってきたりした。

クジユラさんと話したところ、7階には衛兵の一個小隊が出張って来てるのか。一個小隊で60人くらいか。でも練度が高くないので助けてやって欲しいとか言われた。無茶言うな。こっちだってギリギリですよ？

6階ではレイピア売ってるへんな衛兵がいた。4000エンで。さすがに無茶すぎる価格設定だと思ったが黙っておいた。とりあえずうちにはそんな余裕はない。むしろ4000エンあったら遊んで暮らせるんじゃない？ ……と思ったが無理だ。最近は俺たちのギルドも評判が上がって、宿でも割引してくれないんだよなあ。必死で稼がないと金がすぐ尽きる。

——まあ、それ以前に、必死で稼いでもすぐ使う馬鹿をどうにかしないとどうにもならんのだが。

そして6階中央でへんな空間を発見。なんか泡ぼこぼこ出てたがあれ放置していいのかね。いちおう元老院に報告しとこう。

・天牛の月、4日
アガタが死んだ。

発端は例の、古代魚の巣の話だ。アレをどこかで聞きつけたアガタが、また無茶をして突貫したのだった。なんでも、カナエが冒険者を志した理由は彼女が記憶喪失で、ただ樹海のどこかのぼくぜんとした記憶があったのでそれを探してって話で、その記憶とよく一致した特徴があるから行ってみよう、ということだとか。

んで当然、古代魚の大群に襲われた。カナエは必死で助けに行ったが助けきれず、逆に重傷を負ってしまう。2人とも死亡のピンチに、アガタはなにかが乗り移ったかのような大奮闘。並み居る古代魚を軒並み倒し、最後の一匹と相打ちになって倒れ、事切れた。

後でわかったことだが、その場所はカナエの父親が死んだ場所でもあったらしい。たぶんオランピアに誘い込まれて死んだのだろう。カナエはそのとき父について行って、かばわれて死なれたらしい。これは記憶が戻ったカナエから聞いた話だ。

……冒険者が死ぬのは当たり前のことではある。よく言われることだが、冒険者になった人間の半数はきつすぎて耐えられずやめていき、残り半数は樹海の藻屑と消える、と。だから覚悟して当たり前ではあるんだが、やはり知り合いが死ぬとなると堪える。幼なじみは泣きじゃくった挙げ句部屋に引きこもって出てこない。仕方ないので今日はジロニアと酒場でずっと話していた。奴が血を吐いて病院に運ばれるまで。

それにしても、こんなことになるなら失った記憶なんて戻らないほうがいいのかもな。とか思った。ツスクルの奴は大丈夫なんだろうか。今日も静かにウェイトレスの仕事をしつつ、少しずついろいろ思い出してきたと語っていたけど。

・天牛の月、5日

とりあえず、こっちも後追いなんてことになったら目も当てられないので、準備は万全に。

最近の戦闘パターンだと、俺が追い詰められて幼なじみが援護に回って火力が足りなくなってるジリ貧、というタイプのピンチが多いので、幼なじみなしで回復できるように、というわけでメディカを5つくらい買い込んでいったら安定する安定する。すげえ。

……金は多少余分にかかるが。やっぱ金の切れ目が命の切れ目だな。無駄遣いはなるべく省こうとおもっているんですがあのー幼なじみくん。その真新しいぴっぴかの鎧はなんですか。

というわけで、アークアイスは今日も金欠です。ぐすん。

・天牛の月、6日

なんか死体よく見るなあ。と思ったら、7階に展開した部隊が次々やられているらしい。

オランピア、どうやってか知らないが魔獣の類を誘導する術があるみたいで、強力な魔物に襲われて何人も兵士達がやられていったようだ。

その死体の回収だの負傷者の手当だのをやってたら探索がちっとも進まねえ。ただ、代わりに迷宮中で金目のものをいろいろ拾ったりした。これならしばらく安泰！ と思っていた頃もありました。ジロニアが新しい突剣持って優雅に佇んでいる姿を見るまでは。解せぬ。

……金、ないよ？ どうするんだこれ。

・天牛の月、7日

探索が一段落してきたので、スコット博士から頼まれた、7階のヒトデの生態調査に着手。

どうやら夜にその現象は起こるらしいので、夜まで待って行動開始。あらかじめ目星をつけておいた場所に隠れて様子を見る。すると集まってきたヒトデは周囲のサンゴを食べ散らかした後、いきなり群れの一匹を食べ始める。しかしその一匹は食べられて減るどころかどんどん増えていき、やがてひとつの大きなヒトデになった。そして儀式が終わり、順当に彼らは解散——とはならなかった。でっかくなったヒトデに見つかってしまったらしく、周囲の群れ全体が一気にこちらに襲いかかってくる。ええい厄介な！

はい死ぬ気で戦いました。そしてかろうじて勝利。奴らのぐにゃぐにゃした身体には剣はあまり効果がなく、殴りのほうが効くんだよね。なので幼なじみの棍棒が唯一の武器だった。メデイカがなければ危なかっただろうな！。

・天牛の月、8日

8階に進出。

塩の柱をうまそうだと思って舐めて後悔したり、傷ついた衛兵を手当したり、ジロニアが血を吐いたりしながら進んでいって、古代魚の群れをかわして7階へ。どうやら竜が塞いでいていけなかった場所に行けるようになったっぽい。すげえぞ俺たち！ というわけで撤退。体力とメデイカが、尽きた。

しかしまあ、おかげでなんとか無難に稼げたみたいで、金がわりと貯まってきた。と帳簿をつけながらほくほくしていると幼なじみの声。イシャスちゃん新しい防具買ってきたよーってあほかあああああああ！ 金が！ 金が！

・天牛の月、9日

ネイピア商会が新素材の武器を一斉公開した。

……まあ、金ないけどな。幼なじみはすげえ不満そうだが、ない

ものはない。マジでないので勘弁してください。な？

ちなみに樹海では、8階でオランピアの足跡が見つかったとか言われた。ただ、その場所が古代魚が大量にいる危険な場所なので、兵士たちではもう探索できそうにないとか。

そろそろ大詰めか。メディカを十分に買い込んで挑もう。

・天牛の月、10日

8階の奥に、ぽっかりと空いた広間。そこにオランピアはいた。やはり深都を目指しているのね、と言われたので、違っておまえを探していたんだ。と答えると、オランピアは不思議そうな顔をした。……いや。そこ疑問に思うことかな。冒険者を罠にかけて殺して回っている相手なんて、危険だから捕まえようってのは当たり前のことだろうに。

そう言うと、彼女は目を閉じて、冒険者が深都を目指さなければ、わたしはなにもしない。と答えてきた。

なんで？ と問うたが、答えはない。代わりに、オランピアはこう提案してきた。

アーモロードの当局が深都を目指すことを諦めれば、わたしは冒険者を狙うのをやめる。むしろ、探索を手助けし、富を増やすことに貢献することを約束しよう、と。

……富を増やす、ねえ。

魅力的っちゃ魅力的な言葉だ。うち金欠だしな。

でも、たぶん海都の元老院は受け入れないだろうし、それ以前に俺たちも受け入れられない。

冒険者というのは、探索し暴く職業だ。ただ素材を金に換えて過ごすだけなら、それはもうただの漁民と変わらない。

それじゃあ、たぶん冒険者たちは納得しない。いや、まあ、実際漁だけして暮らしてる自称冒険者たちは納得するかもしれないけど。まっとうな冒険者たちは、たとえ元老院になにを言われようと深都

を目指す。

そして、深都を目指す人間をおまえが片っ端から殺していくというのなら、それは冒険者の敵だ。元老院の、ではなく、俺たちの敵なんだ。

そしてそれ以上に、おまえを放置しておくことは冒険者たちの屍に対する冒瀆になる。

アガタや、カナエの父がなぜ死んだのか。深都を目指して殺されたのはなぜか。それを考えれば、ここで引くという選択肢は取れない。

オランピアは静かにそれを聞いていたが、ふと顔を上げて、ではあなたは、すべての冒険者の死をひとりで背負い込むつもりですか。と尋ねてきた。

……いや。そんな気持ちじゃない。つもりもない。俺たちがやらなければ他の冒険者がやる。すべての冒険者の死は、すべての生きている冒険者が背負うものだろう。

それを聞いてオランピアはくすりと笑い。

それではあなたはわたしには勝てない。

わたしは深都を背負っている。背負っていない者には、負けることはあり得ません。と、告げた。

そして気がつく、彼女は目の前から消えていた。

後には不思議な珠が残っていて、それを見て俺は、どうやら引き返せないところに来てしまったらしい、と直感した。

たぶんこの珠は彼女からの挑戦状で。

俺たちには、挑戦を受ける義務があるのだろう。

なんてかっこつけていたら直後にワニに襲われた。解せぬ。

かろうじてそれを撃退し、戻ってクジュラと相談する。すると、元老院と相談するようにと指示された。なるほど。たしかにこれは

もう俺たちだけの問題じゃない。元老院を巻き込むのは、当然の選択か。

・天牛の月、11日

鯨。

それも白い鯨。それが、海の底で俺たちを待っている。

という夢を見た。いや夢なんだけど。なんか印象深かったので幼なじみに話してみたら、幼なじみも同じ夢を見たんだとか。

不審に思っているいろいろ聞き込みをしたが、白い鯨の目撃情報はなし。諦めて元老院行こうかと思っていたときに、立ち寄った酒場でツスクルにその話をしたら、それは海王ケトスと呼ばれる鯨の王だろう、と言われた。

……記憶、戻ったのか。と聞いたが、それ以外のことは思い出せないらしい。ただ、おそらくそれは深都に俺たちが来るのを待っていて、深都にたどり着くに足る者かどうかを試そうとしているのだとか。

ちなみにジロニアは血を吐いて倒れていま宿の2階の診療所で介抱されてる。

それで俺たちは元老院へ。オランピア捕獲のミッションはいったん棚上げになるらしい。というか、おそらく現状行ける範囲がそうとう深都に近いから敵がアクションしてきたのだろう、ということで、探索を優先するべき、という指令が下された。深都へ一番乗りした人間には褒賞が出るという。

それで珠の話をしたら、どうやらその珠ときっちり合いそうな台座が6階で見つかっているらしい。聞いてみたら以前行った、泡がぼこぼこ言っているとところだとか。怪しい……次回はその探索だな。

・天牛の月、12日

泡ぼこぼこの中に珠を入れたら、あら不思議。海流がすげえ緩くなりましたよ？

これによっていままで行けなかった場所をいろいろ探索できるようになる。8階の奥にも行けるようになった。すげえや。珠の不思議パワー半端ねえな。

……でも撤退。なんか敵強いんだよね。

・天牛の月、13日

8階で生態系が壊れるほどの怪物が暴れ回ってるのでなんとかしてくれという依頼をスコット博士から。……いや。いやいや。なんとかできるのかそれ。と思いつつ行ってみたらすっげえわかりやすく大暴れしている亀が。解せぬ。

そして死ぬ気で撃破。なにあの巨大獣。ほぼぴんぴんの状態から全滅間際まで追いやられた。ファイアームスが有効だということに気がついたジロニアはえらい。

なお、そうして稼いだ金はまたたく間に装備に消えていきました。……うん。まあ、そうなんだよね。実際装備ないと探索できないしね。わかってるけど金がねえええええええ。どうしろと。

・天牛の月、14日

なんか困って酒場に行ったら、1階から4階までの魔獣大掃除の依頼があった。

どーせならこれやろうぜ。ということで、大物限定で狩り尽くすことに。虫、鹿、トカゲをメインに目につく限りを狩って、だいたい金を得た。

……すぐ装備代にもってかれたがな。解せぬ。

・天牛の月、15日

今日は疲れていたのか寝坊しちまったなあ……と思いつつ下に降りていったら幼なじみがすげえ泥だらけで帰って来てた。

なにやってんだおまえ、と聞いたら、ひとりでナルメル狩ってきた！ とかすげえこと言いやがる。なんでも、できるかどうか酒場の連中と賭けをしたんだと。これでたんまりお金が手に入るよイヤスちゃん、と言ってるそばから頭を拳で挟んでぐりぐり。てめえ勝手に無茶するんじゃない！

まったく無茶もいいところだ。つーかよく生きて帰ってこれたなあ……ウィップリッパーとか、集中して来たら俺だったらまず死ぬんだが。こいつも丈夫さは取り柄だな。

・天牛の月、16日

装備も整ったことで8階を探索、奥への道を確保して撤退。

たぶん次あたり、海王ケトスとの戦いになるだろう。気合い入れていかないと。

・天牛の月、17日

巨大な白鯨、海王ケトス。そいつは、8階にある大きな広間の中央で、俺たちを待っていた。

——待っていたぞ、人間よ。

頭の中に声が響く。すげえな。これが海の神秘ってやつか。

——深都に向かう者を止めるよう、深都の王に依頼されている。

——小さき者よ。主らが深都を目指すのであれば、まずは我にその力を見せよ。

そう言って、ケトスは笑った、ようだった。

戦いが始まった。

直後、俺は4つに分身。幼なじみとジロニアが前線で食い止めている間に後方からヒットアンドアウェイで仕掛ける。斬りつけられ、鯨の巨体から血が吹き出る。が、相手もただやられているだけではない。巨体を活かして突撃し、またすさまじい打撃を浴びせてくる。

打撃で動きが鈍ったところに突進を食らうと終わる。そう直感した俺たちは、基本長期戦の構えで防御を敷きながら、慎重に戦った。途中分身が一匹飛ばされたりしたがその程度は誤差の範囲。地面を凍らせて足を封じる特殊攻撃を仕掛けてきたが、幼なじみがモンクの練気法で吹き飛ばす。眠りを誘う超音波を仕掛けられたときはひやつとしたが、ジロニアの一喝で幼なじみが食いしばって耐え、そしてその幼なじみの声援で俺と分身たちが持ち直して事無きを得た。そうして切り結ぶこと数十度。永遠に思えた戦いの果て、とうとうケトスは悲鳴を上げて地面に倒れ伏した。

——見事だ。勇者達よ。

息も絶え絶えという様子で、ケトスが語りかけてくる。

——この先に進めば、深都がある。行って、王と会うがよい。

……どうやら、俺たちのことを認めてくれたらしい。ケトスは傷ついた身体を横たえて、休眠に入った。

進んだ先に、その街はあった。

巨大な樹。あれが世界樹なのだろう。そのふもとにいくつもの建物、軒を連ねている。

深都。

本当にあったんだな——と思っていたと、道の向こうからオランピアがやってきた。

とうとう来てしまったのね。と言いつつ、オランピアの目に闘志はない。

どうしたんだ、と問うと、深王から戦いを止められている、との

こと。どうやら、冒険者を殺すのは一時中断したらしい。

そうしてオランピアは、自分の着ているマントをはだけ――

そこに、機械の身体があった。

見ての通り。わたしは人間ではない。

世界樹からもたらされた技術。その力で生み出された、人ならざる戦闘機械。

そして、深都にはこのような秘密の技術があり、それを使って100年も昔から闘争を繰り返してきたのだと、彼女は言った。

……闘争って、誰と。と聞いたが、彼女はそれを答えず、代わりに頭を下げた。

――どうか帰って。

そして、伝えてください。深都は存在しない幻の都であった、と。

樹海磁軸を使って帰って一息入れようとしたところに、クジュラさんがやってきた。

元老院から呼び出しだそうだ。なんですか、と聞いたら、

深都について報告するように。

だと。……さて、どうしたものか。

考えるまでもなかった。俺たちは、素直に深都について報告した。ただし、相手がこちらを拒絶していることも含めて。

どうせここで隠してもすぐバレる。なら、隠さないほうがお互いのためになる。そう思っただけのことだ。

結果、俺たちは海都の姫、グートルーネさまと面会することになった。

100年も昔から海都を治めているグートルーネ姫だが、姿形は若いままだった。

まあ、王族だしな。神秘の延命術とかあるんだろう。

それで彼女は、俺たちをお願いしてきた。深都に行き、こちらの

贈り物を渡し、交流を持ちたいというメッセージを伝えてくださいと。

……むむむ。そう来たか。

平和的に出る限りは、相手も邪険には扱わないかもしれない。そう思って、俺たちはその申し出を受けることにした。

贈り物を用意したネイピア商会の従業員さんと一緒に、深都へ。オランピアはあんまりいい顔をしなかったが、素直に深王の下へ案内してくれた。

深王はこちらの贈り物と親書を受け取り、目を通すと、事情は理解した。熟慮したので、今日は泊まっていくように。と言って、用意した宿に俺たちを押し込んだ。
……んで、いまその宿の中にいる。

正直、事態が早く動きすぎてついていくのがやっとだ。

深都はなにを望んで、なにと戦っているのだろう。

海都は、その深都になにがしたいのだろう。

俺たちは——ただ、探索がしたいだけだ。

だけど、その探索に待つ物が、なんであるのかわからないとしたら。

——俺たちは、探索を続けていいんだろうか？

ナシツフテ世界樹日記―3

・天牛の月、18日

探索を続けていいんだろうか、とか言ってたら、深王から探索依頼がきてしまった。

どうも深王、このまま冒険者を拒絶し続けるよりはその力を活かして敵と戦おう、という方面に切り替えたい。……いいのかね。冒険者の中には深王を恨んでいる人間もかなりいるそうなんだけど。思ったが、横でがっしょんがっしょん油飲んでるオランピア見てなんとなく納得。その程度は問題にしない自信があるってことね。

それで、まず敵を確認するためということで、10階にある敵を捕らえた檻に行ってみてくれ、と言われた。了解したところ、なんと深都の秘術でこちらの力を強化してくれるとのこと。これによって俺たちはクラスふたつ分の力を使えるように進歩した。俺は盾を使いたかったのでフランクス一択。幼なじみは鎚をもっと効率的に使うためにウォリアーを。ジロニアは火力を上げるためにバリスタを取った。

それから、冒険者をひとり追加でギルドに入れることになった。名前はシ・フォセ。なんでも、傷ついて樹海で倒れていたところを深都に運ばれて、本来なら記憶を消してアーモロードに返す予定だったらしいのだが、その前に俺たちが来たんだとか。せっかくだからおまえたちが面倒を見るがいい、って……うーん。いやまあいいんだけど。いいんだけどあんま金ないよ？　うち。

シ・フォセのクラスはビーストキングとファーマー。樹海で採集できるものについてのそうとう詳しい知識を持つ他、催眠梟とウーズというふたつの強力な魔物を呼び出せる。すげー。でも大けがした影響か、まだあんまり調子を取り戻せていないんだとか。

・天牛の月、19日

いきなりだが9階はすげえ熱い。

いや、マジで暑いじゃなくて熱い。溶岩流れる灼熱の洞窟は、歩いているだけで体力が消耗していく。それに敵も強い。あつという間に追い詰められて、あわてて帰還。

……うーん。実力不足。そして装備不足。最近のネイピア商会の新製品はやたら高くて、簡単に手を出せないものばかりだ。と深都の従業員に愚痴ったら、そりゃそうだよとたしなめられた。なんでも、このクラスになるとほぼオーダーメイドなんで、量産品と比べて手間とコストが半端ないらしい。……そういうもんかねえ。

・天牛の月、20日

今日も巨大な蛇に追いかけられる仕事はーじまーるよー。

ノイローゼになりそう。なんとかしてくれ。

追い詰められたと思ったら小さい抜け道を発見したり、天の恵みもないではないんだけどなー。抜けた先も熱かったりして裏切られた気分になったり。あと落盤起こった時はマジ死ぬかと。

そんなこんなでなんとか樹海磁軸を探り当てて帰還。いや。もう、限界。

・天牛の月、21日

どうにも装備が足りてない気がする。

という幼なじみをいい加減抑えられなくなったので、金稼ぎに7階へ。ちよっとは稼げるだろうと思ってうろついてたらうっかり鱗竜に喧嘩売ってた。解せぬ。

そして勝った。ぎりぎり。もー死ぬかと思ったが。高い部位ゲツトで多少なりとも楽ができるか……と思ったらあっさりジロニアの

弩に費やされて消えた。まあいい。これで多少楽になればなあ……

・天牛の月、22日

とにかく当面の問題はO・K A・N E。金がなさすぎてもうどうにもならん。

というわけで金稼ぎ用にみんな集まって相談。シ・フォセの知識によって採集はけっこうはかどってくれるんだけど……それだけじゃ足りん。どうしようと思ったところで幼なじみが、古代魚でも狩ろうか、と言い出した。なるほど……あの量なら確かに、そうとうな額になるかもしれん。

というわけで6階へ。古代魚3匹と死闘を繰り広げ、かろうじて勝利。あいつらマジうざい攻撃ばっか出してきやがって……まあ、おかげでこっちも新しいナイフを調達できたので、よしとしよう。

・天牛の月、23日

珍しくアーモロードに戻ったのでいろいろ挨拶回りしてたら、宿屋の息子に緑死病とかいうやっかいな病気の薬の作り方を相談された。なんでも、文通している相手の国で流行っていて、どうにかしたいんだと。

薬ねえ……とりあえず、知り合いを片っ端から当たってみたが収穫なし。こういうとき、俺たちだけの人脈とかあったら様になるんだけどな、とか言ったら幼なじみが、そうだよ深都だよイシヤスちゃん！ と騒ぎ出した。なんだよ、深都？

……なるほど。そりゃ確かに、俺たちだけの人脈だわ。まだ冒険者の中で深都にたどり着いたのは俺たちだけだしな。

行ってみたら確かに、ちゃんと特効薬のレシピがあった。すげえな深都テクノロジー。宿屋の息子には超感謝された。やべえ俺たちヒーローっぽい。

……金はないけどな。

・天牛の月、24日

古代魚狩りも一区切りついて、ちょっとは金に余裕が出てきた……気がする。

せっかくなのでネイピア商会が主催する第一階層の素材狩りに参加。シ・フォセ加入以降、こういうのは劇的に得意になったうちのパーティであった。おかげでレア素材大量ゲットでほくほくでした。
……え、明日も参加するの？

・天牛の月、25日

調子に乗って2階を探索していたらなんかへんな綿毛の魔物と遭遇。

なんだったんだろう。あれがかの有名なケセランパサランなんだろうか。なんでも幻の魔獣で、出会うと幸福になれるとか何とか。ついでに調子に乗って2階の奥にある、最近発見された魔境とやらに挑戦。そして恐ろしい状態変化攻撃を仕掛けてくる金色の石像にあえなく敗退。石化はマジ勘弁。

・天牛の月、26日

深都に行ったら、ぼちぼち他の冒険者たちもそのあたりにたどり着いてきたらしい。

が、やっぱり9階の難易度は相当のようで、みんなかなり苦戦しているみたいだった。

こちらも、装備が揃ってきたので9階の探索を再開。

ア리가たかっていたへんな果実を仕入れたり、きれいな枝を手に入れたりしながら奥へ行き、10階へのルートを確保して退散した。

うーん。やっぱ装備整ってると難易度が違うな。冒険は、金。

・天牛の月、27日

昨日の枝と果実は両方ともたいへん高額で引き取ってもらえた。特に果実。美食家のエスピヨルさん今回もありがとう。おかげでしばらく安泰と思って家計簿つけながらほくほくしてたら、イシャスちゃん新しい棍棒買ってきたよーってあほおおおおお！金が！金が！

・天牛の月、28日

がんばって採集して探検して帰ってきて散財して泊まる金に苦労する毎日。

……いや、その。まさかメデイカまで売らなきゃいけなくなるとは。幼なじみ、今度はえらく高い盾買ってきやがった。ジロニアさんが痛そうにしてたからってあんなあ、痛いのは俺たちの懐だっつーの！ 解せぬ。

・王虎の月、1日

10階は溶岩洞窟だけあって、いろいろな温泉がある。

魔物いっぱいで行けたもんじゃないので観光地になるのはまず無理なのだが、どこかの酔狂な研究者がその情報を聞きつけて調べようとしているらしい。なので、快く相談に乗ってやることにした。

適当に3箇所くらいチョイスして情報提供したら大感激。3000エンも報酬を支払ってくれた。……て、3000エン!? なんだそれ。どこから出てくるんだそんな大金。

おかげで多少懐に余裕ができた。いやー助かるわー。

・王虎の月、2日

10階の中央部はとても熱い。冗談じゃないほど熱い。あまりに熱くて消耗が激しいので、とてもじゃないが一度で回れやしない。さしあたり適当なところで切り上げて撤退撤退。ちくしよう、もうあそこ行きたくないなあ。

でも目的地はその中心部なんだよな。敵、か。なにがいるんだろ。

・王虎の月、3日

今日も今日とて溶岩地帯の探索はーじまーるよー。

ギリギリの体力で進むこと数刻、脱水症状で倒れそうになって帰還。マジ熱い。助けて。

ところで、それとは関係なく最近俺の新スキル、影縫が大活躍。なんか突進してくる相手の出鼻をくじくのにすげー役に立つ。おかげでだいぶ探索が楽になった。

・王虎の月、4日

溶岩地帯の中央部のさらに中央部に、小さな部屋がある。断罪の間と深王が呼ぶそこで、オランピアが待っていた。

……ラー油飲みながら。

好きなのかそれ、と聞いたら、

これがないと一日が始まりません。

という、すごい微妙な答えが返ってきた。そういうもんなのかー。そして、彼女は俺たちを断罪の間の中に入れた。気をつけてください、という言葉と共に。

中にいたのは、一匹のちびっこい魔物？ だった。

そいつは、俺たちのほうを見て邪悪に笑うと、

贅か。

と言って、自分の身体から肉片を落とす。

それがみるみるうちに大きくなって魔物の形をとってええええええええええ！？ うわあなんだこのキモいの！？

慌てて戦闘態勢を取る。こういうときは経験が生きた。まず催眠梟で相手のコンビネーションを攪乱し、氷使いの女性型魔物を狙い撃ち。削りきった後、男性型のほうを今度はウーズに集中攻撃させている間に殴り倒し、無事なんとか倒しきった……せ、せーふ。なんかけっこう強かったけど。

んで、このちびっこはなんなんだ。とオランピアに聞くと、それが我々の敵、フカビトの王です、と言う。

子供のほうはフカビトという言葉にいい顔はしなかったが、基本的に呼び名は好きにしているということだった。じゃあおまえフカオな。と言ったら本気で嫌な顔されたけど。フカコのほうがよかったのか？

フカオ曰く、自分は正確には王子あるいは王女に類するもの、らしい。よくわからんが、いきなり襲いかかるのは心臓に悪いのでやめてもらいたい、と言ったら、いきなりじゃなかったらいいのか、と言う。いいよそのときはダッシュで逃げるから、と言ったらさすがに苦笑していた。そんなこと言う人間は初めて見た、だと。

まあ、ともかく敵と呼ぶものを見ることには成功したので、俺たちは改めて深王の下へ。

深王曰く、100年前に大地震と共に異変があって、アーモロードは外界と切り離された。それ以降、あのフカビトという魔物が活発になってしまい、それと戦うために深王は少数の兵士と樹海の底に潜り、戦う道を選んだのだとか。実は深王はアーモロードの元王族で、世界樹と心を通わせることができる能力の持ち主なんだと。

なんでそんな、味方をわざわざ減らすようなことを、と言ったのだが、どうやらフカビトにとっては、人間の恐怖心こそがエネルギー

1の源であるらしい。だから多くの人間がフカビトについて知ることは、よりフカビトが強化されることに繋がるのだとか。だから、深王は深都に人間が近づくことを防いでいたし、いまなお冒険者以外にはこれらの事実を隠そうとするのだ。

……面倒な話だなあ。と思うのだが、たしかにあんな調子でばんばん魔物を量産されたら人間の暮らしはめちゃくちゃになってしまう。深王の言うことには、一定の理はあるように聞こえた。

そしてその深王から依頼。俺たちが10階でグダグダしている間に、そのさらに深部へと足を踏み入れた何者かがいるらしい。そいつを見つけ出し、それ以上深部へ向かってフカビトを刺激するのを止めてくれるように、と依頼された。むむむ……受けるしか、ないか。

正直、一市民だった頃とは比べものにならないくらい、大事に巻き込まれている気がする。

このまま進んでいいのかなあ。幼なじみはまったく意に介さずにつっこしてるけど。うーん。

ナシツフテ世界樹日記－4

・王虎の月、5日

11階に進出。

……さすがにすげえな。溶岩洞窟と呼んできたものの、本気で流れる溶岩がある地帯とは思わなかった。びっくりだ。

まあ、今回は様子見だけで撤退。つーか10階のラストで体力を使いすぎた。もうダメ。

・王虎の月、6日

なんだか9階でアリの巣があつて、そこで多くの冒険者が犠牲になっっているらしい。

まあ、近づかないのが身のためだ。正直そこまで手が回らないつつーの。とりあえず元老院には、そっち側には近づかないように冒険者たちに通達を出してもらっておいた。そのへんが限界だろう。

そして11階を探索。なんかすげえ珍しい鉱石とかがつぽがつぽ見つかってびっくり。おかげでかなり懐が潤った。シ・フォセは大活躍にもかかわらず謙虚な感じで笑っている。うーん奥ゆかしい美少女。嫁にするならこういう子だな！ と熱く語ったら幼なじみに棍棒でクラッシュされた。解せぬ。

なお、11階は明らかに入れない溶岩は置いておくと、実は10階より暑さがましだったりする。こりゃ探索が進むわ。

・王虎の月、7日

11階の奥、溶岩流れる広間に立っていたのは、知った顔だった。クジユラさん。俺たちが何度もお世話になっている、異国の戦士風の人物だ。

……なるほど。俺たちより先にどんどん進めるひとつて言ったら、やっぱこのひとか。

クジユラさんは俺たちを見て、
深都の兵が来ると思っていたが、おまえたちが来たのか。
と、微妙に残念そうに言った。

いやまあ俺ら深都の使いっ走りですけどね、と答えるとクジユラさんはやりと笑い、

おまえたちは深都の者とは言えんよ。

あれらにはあれらの思惑がある。そしておまえたちは、その思惑さえ知らないのだろう。

と言った。

……思惑、ねえ。

クジユラさんが言うには、自分が迷宮の深部に進むのは姫様のためだ、という。

詳しい話を聞きたかったが、それは元老院で聞けと言われた。それまでクジユラさんは先に進むのを止め、ここで待っていてくれるとのこと。

そういうわけでいったん帰還。元老院を尋ねることにした。

そこでグートルーネ姫様から聞かされた事実。深王——いや、100年前のアーモロードの王、ザイフリートの孤独な戦い。姫様はそれをなんとかして助けたいと思い、そのために手を尽くしているのだと言う。

フカビトとの戦いをなんとかして助けたい。そのために、自分の力を使いたい。そう姫様は語った。

どうしたもんかと考えた結果、いまの話をそのまま深王に伝えることにした。

そしてすげなく拒絶された。フカビトは人の恐怖を糧とする。フカビトと戦うのに最も合理的な手段は、誰にも知られないことだ。

と。

うーん。筋は通ってるんだけど……と思いつつ、クジユラさんの下へ帰還。

クジユラさん曰く、どちらにも相応の思惑がある。だからおまえたちはおまえたちの思惑で、どちらに付くか決めるがいい。だと。

それだけ伝えて、クジユラさんは洞窟の奥へ去っていった。どうやら、探索を再開するらしい。

——困ったな。

実のところ、理にかなっているのは深王のほうに見える。

姫様の主張は情としてはあるんだろうけど、フカビトが言われる通りの性質を持つのなら、なるほどたしかに深王の戦い方より効率的な手段は見当たらない。

だけど、なあ。

実際のところ、深王ってあんまり信用できないんだよね。

深王自体もすべてを語っていないような気がするし……それ以上に、世界樹がうさんくさい。

深王は世界樹と心を通して方針を決めていると言うけど、もしそのフカビト情報が根本的に誤っていたとすれば。

そして世界樹が、深王を騙してフカビトと戦わせていたりすれば。そうすると、深王の合理性はすべて崩れてしまう。

さらに言えば、冒険者と深い友好を築いてきたいまの元老院と違って、深王は冒険者との付き合いが薄い。

となると、都合よく働かされた挙げ句、後ろからぶすつ、ということになりかねない。

元老院に付いて、様子を見たほうが得策かなあ……べつに深王と敵対するつもりなわけでもないし。

考えてもうまく答えが出ないので、酒場でだべる方向に。
すっかりバイトが板についてきたツスクルにこの話をしたら、

どっちにも関わらないという手はないんですか。
と言われた。

……盲点だ。それは確かに、そんな手もあるだろう。
だけどそうなると、クジユラさんと深都の戦争みたいになっ
てしまいう可能性が高い。

いまは深都にも冒険者が相当数集まってきた。だから冒険者
自体と深都が戦争になる方向性は避けると思うが……クジユラさん
は無茶するだろうし、深都はなんとしても暗殺しようとするだろう。
その戦いを、座して見ているのか。

それはできない相談だ、と思う。不要な殺し合いは、できる限り
止めておきたい。

そうすると後はどちらに付くかだが……振り出しに戻った。どう
しよう。

うーん……と困っていたら、幼なじみが笑って、
簡単だよイシヤスちゃん。より深く進めるほうを選べばいいんだ
よ。

と言ってきた。

——より、深く？

あー、なるほど。そりゃ冒険者っぽいわ。より探索できる範囲が
広がる選択肢を選ぶ、と。

じゃあ元老院一択だなあ。深都は下に進むのを小うるさく妨害し
てきそうだし。

なんだかあっさり方針が決まっちゃった。

合言葉は冒険者らしく。そのために、俺たちは俺たちの道を進も
う。

・王虎の月、8日

元老院から、12階で深海との間に立っている巨兵ゲートキーパ

ーを討ち、さらなる深部へ進むようにとの通達を受けた。

ちなみに深都の人間は巨兵ゲートキーパーを守るようにとの指令を出してきたが、そっちは適当にお茶を濁しておいた。まあ、いずればれるにしろ、いまずぐ深都との友好関係を捨てるのはちよつと度胸がいる。

そんなわけで今日も探索。

溶岩洞窟を進む。途中、竜がいったむろしていた地帯をスルーし、奥へ奥へ。

なんか最近スムーズに進みすぎだなあ。大丈夫なのかこれ。

・王虎の月、9日

無茶しすぎて幼なじみがノックダウンしたりジロニアが血を吐いたことを除けば平穏な一日。

最近金にはあんまり困らなくなってきた……というか、装備が高すぎて買えないために宿代が圧迫されないというか。今日もシ・フオセの槍を買ったが、それ以上買えなかったので宿代は無事。

まあ、しかし冒険者だったってここまでカツカツの生活送ってるのは俺たちだけだろうなあ。なんでなんだろう。いちおう、俺たちっていま海都最強のギルドのはずなんだけど。急いで進みすぎているせい？

・王虎の月、10日

ごくごく無難に12階に到達。

……した途端、なんか大きな竜に行く手を阻まれましたよ？

あれ反則じゃね？ なんつーか、一応他意はなさそうなんだけど、こういう習性してるんだろう。

いっそ喧嘩売ってやろうかとも思ったが、さすがに勝てる気がし

なかったのだったん退却。

思ったより早く帰ってこれたので後の時間はオフに。

つってもどうせジロニアは血を吐いて倒れるし、シ・フォセは動物たちとおとなしくしてるし。特にやることないなあ。と思っていたら幼なじみがすごい大量の金を持ってやってきた。おおお、おまえなにやったんだ！？　と言うと、

賭け事で稼いで来た。

という答え。なんでも、某強い魔物を一匹で倒せるかどうか賭けたんだそうな……ナルメルを。おまえまたやったのか。そしてそれ既に一度やってるし詐欺じゃないのか、と言ったんだが、調べないで賭けるほうが悪いんだよイシャスちゃん、と言われた。……案外、こいつかなり黒いのかもしれん。

ともあれ、おかげで大量に新装備を調達することに成功した。うおおなんか超パワーアップした気分！

・王虎の月、11日

なんでも新素材に困っている人間がいるということで、ミツシヨンをいったん中断して素材集め。

フリーズアームズを使って取れる限りの溶岩塊を取り尽くして撤退。すげー荷物が重かった。これ、集めたはいいが、実際のところたいした金にならないんだよなあ……

ていうかこんなことやってるから金がいままで経ってもないんじゃないのか。とかちよっと思った。まあ、そんなこと言いつつ順調に装備貯まってるけどな。

・王虎の月、12日

とりあえず行けるところまで猪突してみよう、ということ突進

した結果、あっさり幼なじみが戦闘不能になって撤退。
アクリイの攻撃力が高すぎる……正直、あれなんとかならないものか。

・王虎の月、13日

どうにかこうにか逃げ回りつつ、かろうじて12階の奥への通路を確保して撤退。

途中手に入れた財宝のおかげで防具を買い揃え、どうやら準備は整ったと見ていいようだ。

次が決戦、だな。

・王虎の月、14日

12階の中央部。そこに、クジュラさんが立っていた。

……立ってはいるが、血まみれだった。明らかに立っているのがやっとなという感じの彼は、しかし幼なじみの手当てを拒絶した。俺はいいから、おまえたちであのゲートキーパーを倒してこい、と。
すげえ根性だなあこのひと。やっぱ姫様好きなのかな。とか言う
と殴られそうだったので、おとなしく先へ。そこに、巨大な動く人形が立っていた。

戦いが始まる前に、事前に仕入れたゲートキーパーの特徴。

まず、腕からビームを出す。このビームがクジュラさんの怪我の元だ。すさまじい威力だが、事前に予備動作を行うのでタイミング自体は見切れる。あとは防御の号令で前列を強化し全員防御でしるぐ。

次に、頭と胴体が分離する。この状況のほうが危険だ。手数が増えるのはやっぱり脅威。しばらくしてくっつくまで耐えながら、打撃に比較的弱い頭部を狙うのが吉。

というわけで、作戦は立った。メインウェポンはジロニアの前陣迫撃砲術。それを攻撃の号令とともに、いかにタイミングよく撃ち込めるかが勝負だ。

と思っていたらそのジロニアが頭と胴体の集中砲火であっさり飛んだ。解せぬ。

だあああてめえなにやってんだ！ と叫びつつ、ネクトルで気付け。している間の火力が足りないのが困りものだったので、限界まで分身して本邦初公開の超必殺、多元抜刀――！ 相手は超ひるんだが次の瞬間に合体してビーム。パーティヒールが間に合わなかったら終わってた。

どうにか態勢を立て直したところで幼なじみが、イシヤスちゃんこっち限界！ と叫ぶ。虎の子のアムリタIIの使い時のようだった。そしてそれを使って立て直して砲術で着実にダメージを与えていく。

都合、ビーム5撃、分離5回。その5回目に頭をたたき落とし、残った胴体が自爆して決着がついた。自爆で前線の幼なじみとジロニアは吹っ飛ばされたが、俺とシ・フォセは日頃の行いがいいせいか無事。よかった。

報告は後回しにして、進んで13階へ。

樹海磁軸を探り当てて帰還。これで次からは、暑苦しい溶岩地帯を抜けなくても済むようになった。

深王は面会拒否。まあこれは当然か。海都のほうからは多額の恩賞が出た。さらにはクジュラさんから、家宝の采配指南書とやらを譲り受けた。これを参考に戦うといい、とか言ってる。

……さて。

これで、本当によかったのかねえ？

ナシツフテ世界樹日記ー5

・王虎の月、15日

いきなりだがまたギルドのメンバーが増えた。……ここんこ、毎階層ごとにひとり増えてないか。

名前はナナナ。本来、俺たちが一番先を進んでいることはかなり情報統制されていて一部しか知らないのだが、それをぐり抜けてかぎつけてきた強者だ。すげえ偉そうなのでひよつとしてプリンセスなのか、と聞いてみたら、ジャーナリストです！ と答えが返ってきた。解せぬ。

……まあ、ジャーナリストなんてクラスはないので、登録はファーマーで済ませているみたいだったが。ちょうどいいので、深都でなにかサブクラスを……と思っただらオランピアにばったり。

オランピアからは、特になにも怒られたりしなかった。ただ、第四階層はフカビトの巣。フカビトは手強いので十分に注意するように、と言われた。――それでいいのかこいつ。と思っていると、

私は深王と共にありますが、深王も私も結果としてフカビトが倒ればそれでいい。

だから、好きにするとよいでしょう。

と、すげなく言われてしまった。ぬぬ。

そうしている間にナナナは勝手にクラスを決めてしまっていた。

ショーングン……そんなクラスあったっけ？ と思っただが、まあ気にしないことにする。力を得たならそれでよし。

それで酒場に繰り出したら、すごいハプニングがあった。なんとナナナ、ツスクルに面識があったのだ。

なんでもツスクルはエトリアじゃ超有名な冒険者だったらしく、世話になった人間は数知れず。人望もあり、呪術師としての腕は右に並ぶ者なしだそう。あたしの師匠のカチドキさんとどっこいく

らい有名さー！　と言われたがカチドキなんて知らねえよ。誰だそれ。と言ったら殴られた。解せぬ。

ツスクルのほうは、わりと記憶が戻ろうと戻るまいとどうでもいいようで、いまの生活を気に入っているようだった。まあ、そういう生き方もアリなんじゃないかな。たぶん。

・王虎の月、16日

ナナナ初動一日目。

ジャーナリストとか言うだけあって、こいつは冒険者としての素養は下の下でしかない。つか弱い。

だが、知識は相当なもので、金目の物をかぎ分けるスキルがめちゃくちゃ高い。おかげで当分金には困らなそうだ。

ちなみに今日宿に帰ったら、宿屋の息子が挨拶もそこそこに港の主について熱く語っていた。いつか釣り上げてやると息巻く少年の姿は完全に漁師——ていうかもう転職しちゃえよ。とか思った。海のロマンねえ。俺たち一切港に手をつけてないからよくわからんなあ。

・王虎の月、17日

元老院から、新たな指令が下った。

なんでも、姫様の体調が悪いらしい。薬になる花はかつて海都にあったのだが、100年前の異変で海に沈んだ。——つまり、洞窟の中にあるってことだ。

洞窟って言っても、いまいる13階は神殿の跡だ。そこにならかつて咲いていた花がまだあるかもしれないという。搜索できるのは、いまのところ俺たちしかない。他の冒険者たちはまだ第三階層で苦戦しているからな。仕方がないというわけだ。

というわけで探索初日。なんか鉄格子のトラップが多くて面倒な

場所だなあ。あと魔物は確かに強い。フカビトも普通に徘徊してる。厄介な場所なのは確かだ。

・王虎の月、18日

ナナナ大活躍。

ショーグンのたしなみとか言って覚えた陣形、乱れ竜の陣が強い。あのおかげで手数が異様に増え、素晴らしい戦果を上げられるようになった。

……まあ、あいつ自体はなにもしてないんだけどな。指示出すだけ。あとびっくりするほど打たれ弱い。さらには疲れやすくてあつという間にバテて帰りたいと泣き出す。困った子だね、と苦笑してた幼なじみだったが直後にフカビトからいいのを一発もらって昏倒した。おまえまで打たれ弱くてどうする。

そんなわけで撤退。ぐぬぬ、なかなか探索が進まない。

・王虎の月、19日

13階の檻の中には、なんか果てしなく怖い大怪獣が潜んでいる。怖すぎるので、とりあえず先に進む時は必ず檻がしまっている状態にして、とにかく刺激しないように。あんな無理だって絶対。

ナナナは相変わらず大活躍。そして大昏倒。目利きとしてはかなり優秀なんだけどこいせん冒険には向いてなさすぎる気がする。

まあ、ジャーナリストだしな。仕方ないか。

・王虎の月、20日

逃げ回りながらなんとか14階への抜け道を確保して撤退。

どうやら後続の冒険者もほとんど神殿跡に入ってきているみたいだった。やっぱゲートキーパーがいなくなったおかげってのが大きい

いのかな。

・王虎の月、21日

14階は怖い怖いフカビトが山ほどたむろしている恐怖の場所だった。

なんとなく階段がありそうな方向に進もうとしたらすげえごつついモンスターみたいなフカビトに阻まれ、慌てて撤退。ありえねー。こえー。

そう言いつつ、なんか気がついたらえらく進んでいた俺たちだった。珍しい石の採掘場まで見つけて財布がだいぶ潤ったりして。こりゃすげえ大金持ちだと思って帳簿を付けてたら下からイシャスちやーん見て見てシ・フォセさんの新しい槍だよーってもういいよこのオチはよおおおおお！

・王虎の月、22日

クジユラさん曰く、古い記録では目的の花は15階にあるという。その記録が正しいかどうかはさておき、ともかく15階には進出したいと思っていたところだったのだが……こんなに複雑な迷路だとは。ところどころで敵を牢獄ばい場所に追い込んでおかないと殺されるあたりが超物騒。

途中、お宝っぽい骨董がうず高く積まれた場所を見つけ（重いのは運べないということで、燭台一つだけ失敬した）、石像が落ちてくるトラップを解除し（近くの壁にあるボタンを片っ端から押していったら解除できた。なんだこの仕掛け）、うろろうとうろつきまくったものの最後には大量の巨大フカビトに囲まれそうになって慌てて退散。あそこ抜けないといけないのか……ぐぬぬ。厄介な。

・王虎の月、23日

昨日拾った燭台が超高値で売れて俺たち大満足。

一気に裕福に……とは、残念ながらまだいかないものの、当座の装備を調えるのによい金額を手に入れた。よっしゃー！これで探索が楽に……なるといいなあ。

なお、今日はそういうこともあって久々にオフにした。俺は港に宿屋の息子と一緒に釣りに行き、息子が昔から釣りたがっている主とやらを拝みにいったが、その目の前で主が巨大なダイヤモンドカに食われているのを目の当たりにしてしまった。解せぬ。宿屋の息子は標的が変わったと大興奮。すげえガッツだなこいつ。ていうかもういっそ漁師になったらどうだ。

・王虎の月、24日

か、かろうじて14階突破……

危なかった。やばいフカビト4体に囲まれたときはマジもう駄目かと思った。ぎりぎりのタイミングで鉄格子が降りてくれてよかったわー。あれがなければいまごろお陀仏だ。

そういうわけで突破したわけだが、15階は穴がボコボコ空いていて進みにくそうだな。ということ、とりあえず通り道を確保していったん撤退。深層のフカビトから手に入れた素材で、新しい武器を新調する。……え、金？ まあ、今回ばかりは仕方ない。なんせ明らかに攻撃力不足だもん俺たち。

そういうわけで新しいナイフをゲット。これで楽になるといいんだけどなあ。

・王虎の月、25日

15階の穴から飛び降りて16階と行ったり来たりしてたら、あっさり幼なじみが昏倒したので撤退。

うん。やっぱ攻撃力だけじゃなくて防御力も足りないわー。どうするかな、と思ったらナナナから提案があった。俺が前に出て囃になり、さらに後ろにウーズを配置して囃にする二重囃作戦とかどうよ、と。

……うまく行くのかなあ。まあ、やるだけやってみるか。

・王虎の月、26日

昨日の作戦、集団攻撃以外に対してはびっくりするほどうまく機能した。

まあ、集団攻撃はどうしようもない。というわけでしばらくこれ採用。しめしめうまくいったと思った矢先にフカビトから列攻撃食らって前列の全員が吹っ飛んで撤退。解せぬ。

……はあ。まあ、戦術だけでどうにかなるほど甘くはないか。そりゃそうだな。

・王虎の月、27日

目的の花は、15階北の広間に咲いてあった。そして、その前にオランピアがいた。

彼女に、その花を取りたいのでどいてくれと言うと、彼女は冷たい目でこちらを見て、

海都に裏切り者がいる。

と、告げた。

彼女によると、アマラントスの花は古来よりフカビトが自分の能力を保持するために用いてきたものだという。そして、それを元老院がほしがる理由は、彼の地にフカビトが隠れ住まう理由に他ならない。

フカビトの目的はただひとつ。海都を内側より崩壊させ、世界樹を打ち倒すこと。そうなる前に止めなければ、とオランピアは言い、

俺たちに、あなたたちも気をつけなさい、と言って去った。

……ともかく、花は手に入れたのでいったん撤退。

海都に戻り、花を元老院に献上すると、俺たちは姫様に謁見を許された。

姫様曰く、この花は自分の延命術に必要なもの。そして姫様の目的は、世界樹に囚われ、目的も見えない戦いに邁進する兄を正気に返し、ふたたび会うことだと言う。

——そのために、フカビトの力を手に入れたのですか。

そう聞くと、姫様は否定しなかった。

……自分は、ただ兄にまた会いたいだけ。

フカビトなど、どうでもよいのです。

そう、彼女は告げた。

そこにクジュラさん登場。彼によると、深王が部下を連れて神殿下部に向けて移動しているという。

姫様曰く、あそこには白垂の森と呼ばれる、王家の秘部への転移装置がある。おそらく彼らの目的は、そこへ侵入することだろう。それを防ぐために、転移装置を確保して欲しい。という。

——いよいよもって入り組んできた人間関係にクラクラしつつも、とりあえず了承して宿へ。

なにをすればいいのか。正直、判断しかねる状況ではあった。

たぶん姫様はフカビトの力を手に入れている。とすれば、深王の目的はその姫様の首。でも姫様は深王に元に戻って欲しくて、そのためにフカビトの力を手に入れた。

深王がフカビトと戦うのをやめれば、姫様もフカビトの力を手放すのだろうか。……だとすれば、これはかなり皮肉な構図になる。

とはいえ、姫様はともかく普通のフカビトが人間にとって脅威なのは確かだ。それは神殿で直接相対している俺たちだってわかって

いる。だから、深王に戦いをやめろと簡単に言うわけにもいかない。――ともかく、16階に行つて、転移装置を押さえるのが先か。それさえうまく行けば、少なくとも深王を足踏みさせることには成功する。彼はフカビトのことを地上に明らかにしたくない。だから直接海都と戦争を起こしたりして大事にするのは避けるだろう。彼が試みられるのはあくまで暗殺であつて、その手段さえ挫けばなにもできなくなる。

当面の目標はできた。なにが正しいのかは、その後でじっくり考えることにしよう。

……ところで。なんで所持金が162エンしかないんでしょうね？ 幼なじみは、イシャスちゃん―新しい盾だよーと言ってにこにこしてる。殴りたい。ていうか宿泊費どうするんだテメエ。

・王虎の月、28日

なんでも鑄型職人が新しい武器の資料を集めて欲しいということで、フカビトが使っている武器をある程度集めて欲しいという依頼。まあ、金ないしね。というわけでその依頼を引き受けてみたはいのだが、フカビトがでてこーないー。解せぬ。おまえら前はそんなにハッスルして出てきたじゃん！

で、いろんな場所を転々としてみた結果、材料はろくに集まらなかったが、代わりにナナナのおかげで金目のものが大量に集まった。とりあえず資金難は脱出。ふう。

・素兎の月、1日

どうやら13階、中央付近がいちばんフカビトが集まってるっぽいという情報を得て、そっちでハンティング。

はい、集まりました。そしてお礼にと超強い棍棒ゲット！ これ

で樹海探索も楽になる！……というわけではない。

いや、楽にならないって意味じゃなく。実はこのところ、いろんな場所を流しながらナナに素材発掘をさせてたら異常に金が貯まりまして。20000エンて。おかげで金に物を言わせてものすごい散財したら装備が爆発的に充実したのであります。ははは。もうこれこの辺で採集だけしてればいいんじゃない？　と言ったら幼なじみに足四の字を決められた。志が低い、だいたい受けたミッシヨンを忘れたか、だって。……はいはい。まあ、実際これだけ深入りしちゃあここで引退とはいかないよなあ。

・素兎の月、2日

15階で亡霊みたいな武者を追いかけたり、へんな石版が収まる場所を探していたら普通に一日が終わった。解せぬ。

まあ、亡霊のほうは解決したけど。亡霊武者が巡回運動してることに気づいて先回りして追い詰め、倒したらそこに一本の剣が立っていた。なんでも、依頼主の相棒が昔使っていた剣なんだと。不思議なこともあるもんだなあ。と言っていたら幼なじみが泡吹いてぶっ倒れた。あーそういえばこいつ怪談は駄目でしたね。ちなみにジロニアも脈絡なく血を吐いてぶっ倒れた。シ・フォセは平然と。ナナは面白そうな話に目を輝かせて、依頼主にもっと詳しく話を聞かせろと迫っていた。……このパーティ、外から見るとどう見えるんだろう。ときどき不安になる。

そんなこんなで今日も変わらぬ一日がしゅーりよー。資金繰りが安定しているので心も落ち着いている。楽でいいなあ。

・素兎の月、3日
金が、尽きた。

こんなことってあるのかよチクショ―。

いやね、例のネイピア商会の強欲店主、最近金回りがいいからって幼なじみに高価で強力な新武具一覽とか見せつけやがった。そして幼なじみは当然暴走し―はい。すっからかんに。

正直明日の宿代にまた困るとは想定してなかったぞこんちくしよ。仕方なく数日かけてこつこつ金でも貯めようかと思っていたら元老院からさっさと進軍しろと催促。うが―どうすりゃいいんだよ。解せぬ。

・素兎の月、4日

なんでもゲートキーパーが復活したらしい。

世界樹の力すげえな―。まあ、そんなこと言っても俺たちはもう神殿に樹海磁軸確保してるから関係ね―か―と思っただら、幼なじみがこれだよイシヤスちゃん！ と意気込んでいた。嫌な予感がしつつも聞いてみると、つまりゲートキーパーの身体の一部なら高値で売れるからまたぶっ壊してこよう、と……いいんだろーかそれ。まあ、いいけど。

というわけで腕ビームの乱打に耐えて今回もやってみましたよゲートキーパー。おかげで超儲かってウハウハ。信じられないことに金がある。不思議！

いや、マジで幼なじみの提案で金ができたことにびっくりだわ。

こんなこといまままでなかったのに。天変地異の前触れか。

・素兎の月、5日

15階をさまよっているうちに、本命っぽい階段にようやく到着。ついでに、なんか年代物のボロっちい鎧を手に入れた。骨董品として売ろうかと思ったが、素材がいいのでそのまま使うよう知り合の冒険者に言われて、ジロニアが使うことに。これでかなりパワ

ーアップ！ 財布も傷まなかったのだからパワーアップ！ 現在の所持金は3000エン！ ……あれ？ 一桁少なくていいや、マジでなんでこんなに少ないの？ と聞いたら幼なじみの野郎、見てみてこんなにいっぱい買ったんだ！ とか言いやがるキエー。貴様なんてことしてくれる。

・素兎の月、6日

16階にて、深王たちのキャンプ跡を発見。

どうもこの先でなにかやってるっぽい。いったん元老院に報告し、今日は早めに休むことに。

……下手すると、明日、戦いになる。
念入りに準備していこう。

・素兎の月、7日

神殿の奥の奥。白亜の森への転移装置の目の前で、俺たちは深王に追いついた。

どうやら転移装置の起動に手間取っていたらしい深王は、オランピアに時間稼ぎを命令し、俺たちの目の前で転移装置に入って消えた。最後に、私は海都と人間たちを守る、と言い残して。

そうして相対したオランピアは、しかし単なる時間稼ぎだけで終わらせようとは、残念ながら思っていないようだった。

深王はあなたたちを害になるとは思っていなかったが、わたしの考えは違う。

そう言って、オランピアは武装をこちらに向け——その間に、閃光のようにクジュラさんが割り込んできた。

こいつの相手は俺がする。おまえたちは深王の後を追え。そう言ったクジュラさんだったが、直後に舌打ちした。オランピアが放った球体状のなにかから、強大な生物が現れ、俺たちに襲いかかって

きたのだ。

その生物――キリンは、恐るべき力を持っていた。拡散ペイント
レード――傷に応じて攻撃の威力が増す呪術火砲を一定時間おきに
撃ってくる他、こちらの自由を様々な手法で奪い、その奪い取った
自由を使って根こそぎ体力を奪い去っていく術式で、こちらを苦し
めてきた。

対抗して、こちらもがんばって応戦。敵の攻撃が集団戦用に特化
している以上、ウーズの守りは通用しない。シ・フォセはここぞと
ばかりに切り札の新戦力、荒野の獅子王を呼び寄せ、その力で相手
を縛る。ナナナの指揮に合わせた一斉攻撃、ジロニアの前陣迫撃砲
術がうなりを上げ、幼なじみがバインドリカバリとパーティヒール
で全員をサポート。すさまじい激戦になった。

最終的には、拡散ペイントレードでほぼ全員が吹っ飛ばされなが
らも、ジロニアの火砲によってかろうじて勝利。最後の瞬間、立っ
ていたのはジロニアとシ・フォセだけだった。なんてー強敵だ……

オランピアはキリンが倒されると形勢の不利を悟って、その場か
ら撤退。

クジュラさんも俺たちもボロボロだったので、いったん俺たちも
撤退し、元老院に帰ることになった。

どうやら姫様は延命術式の都合上白亜の森に滞在しなければなら
ない時期だということで、このままでは深王とはち合わせてしまう。
それを止めるための密命が、俺たちに下された。深王を追い、姫
に至る前に追い返せ、と。

……無茶だと思うけどなあ。あの深王が、もはや説得でどうにか
なるとは思えない。姫様を前に帰らせるためには、倒すしかない。
それでも、それしかないんだろうか。

……まあ、悩んでも仕方ない。やるべきことをやるだけだ。
幼なじみは普段行けない白亜の森を探索できるなんてすごい！

とか叫んでる。おまえもちよつとは悩めよ。

ナシツフテ世界樹日記―6

・素兎の月、8日

白亜の森を進むと、案の定オランピアから襲撃を受けた。

で、でっかいカマキリを仕向けられました。超怖かったので素で逃げた。無理。ああいうのは、無理。

そんなわけで探索もそこそこに撤退。マジでボロボロですよ。

……ところで。元老院から報酬をもらったばかりなのに、なんでこんなに金がないの？

幼なじみはえへーと笑っている。もういい加減突っ込むのも馬鹿らしくなったけど、やっぱりテメエか。つーかなんで最近の武器はこんな高いんだ、と商会の奴に聞いたら、最近探索範囲が広がって冒険者が増えたことで品薄が続いて値段が高騰してるんだと。……くそ。なんか言いくるめられてる気配がする。

・素兎の月、9日

猪の突進食らって幼なじみが昏倒したので撤退。

なんつーか、野生だなあ。白亜の森すごい野生。ネズミですら手強い敵ってどういう進化よ。

まあ、その分なんか大量にレア素材が手に入るんだけど。と思っ
てほくほくしながら売りに行ったら売値が暴落してた。解せぬ。な
んでも、白亜の森への転移装置が他にも見つかったそうで、大量の
冒険者が入り込んでいるそう。元老院としてもどうにかしたいも
のの転移装置を封鎖するにも人手が足りず、また立入禁止という触
れを出そうにも俺たちが入り込んでいることは広く知られてしまっ
ているらしいので、下手にそんなことを言えば一部の冒険者が特別
扱いされている！ と暴動が起こりかねない状況なんだそうだ。……

：頭抱えるなあ。そりゃ。

まあ俺たちにはあんまり関係ないけどな。関係あるのはむしろ懐具合だ。なぜに157エンしかないんでしょうね幼なじみさん。こら逃げるな。

・素兎の月、10日

またオランピアの置き土産とおぼしきカマキリをやり過ごして、18階に到達。即座に撤退。

カマキリ怖いことを除けば、わりとうまく活動できてる気がする。ただ、花がなあ……集団でこられるとけっこう厳しいんだよね。どうもあの花は昼にしか活動しないみたいだし、いつそ活動時間を夜に変更するか？

・素兎の月、12日

やるんじゃないかった……

あ、日記の日数が一日ずれてるのは仕様です。夜に出てみた結果がこれだよ。日にちをまたいで昼過ぎまで迷宮にいた。もう駄目だ。ちなみに夜の迷宮は雷を操る大量の狐たちに阻まれました。死ぬかと。夜は駄目だ。昼がいい。

それでもまあ、これだけ迷宮に潜っていただけあって、大量の戦果がありました。そのおかげで財布の中も3466エン——幼なじみいいいいいいいい！　また使い込んだな貴様！

・素兎の月、13日

ちくしょうまた金に困る生活かと思ったところで、幼なじみが面白い話と称するなにかを持ってきた。なになに、ナルメルをひとりで討伐できるかどうかの賭け——ってこれ前にもう2回もやった

じゃん。いまさら引つかかる奴がいるのかって聞いたら、イシヤスちゃんはまだやったことないでしょってエントリーされてるの俺かよ
おおおおお！ 解せぬ。

まあ、べつにいまさらナルメルじゃ苦戦しないよなあと思いつつ
行ってきたて狩ってきたて終了。多元抜刀一度で終わりの超ヌルいお仕
事でした。こんなんでも、樹海入りたての新米には新鮮に映るらしい。英雄扱
いされた。……たいしたことやってねーんだけどなあ。
白亜の森じゃ俺たち、いつもカツカツよ？

ともあれこれで金も潤って3388エン——なんで減ってるんだ
！？ またかよ！ 解せぬ。

・素兎の月、15日

あ……朝帰り……

疲れた。

いやね。幼なじみがまた、金儲けのタネとやらを持ってきたんで
すよ。エルヴァルとかいう金持ちが主催する第三階層での敵討伐大
会。

それで気合い入れていくベ—と大ハッスルして、ポイントの高い
巨大怪獣どもをばったばったとなぎ倒し、なぎ倒し、なぎ倒し——
という感じで、途中テントによる休息をはさみながら狩り続けた結
果、なんと426ポイントというスコア。ちなみに二位は250ポ
イント。圧勝。

ふはは見たか俺たちの力。という感じで、足がガクガクする身体
をひきずって優勝賞金ゲットして宿に着いたら倒れ込んだ。もーだ
め。死ぬ。

ちなみに賞金はジロニアの弩の代金として消えました。もうやだ。

・素兎の月、16日

なんだか1階2階あたりで出てくる危険な石化ブレス使う石像の部位が高く売れるとのことで、それを聞いた幼なじみ大ハッスル。止めたらひとりでも行くといい出したので仕方なく付いていくことに。

というわけで、予防の号令でガチガチに固めてフリーズアームズで殴り勝つという堅実戦法にて、多少の事故もあったもののおおむね狩れて大儲かり。その金は俺の盾に消えていま持ち金が2135エン。……なめてんのか。解せぬー。

・素兎の月、17日

9階でアリによる害が深刻になっていとのことで、元老院から一時的に白亜の森の探索を中止してそちらに向かうよう支援要請。んで、さくさくつとアリを駆除しまくりながら奥に向かっていたら、なんか明らかに格の違う超でかいアリの巣に迷い込んだ。解せぬ。

はい勝ちました。獅子王超つえー。もう獅子王だけでいいんじゃないね、と思うほど無双してくれた。おかげでアリのコンビネーションはろくに発揮されず、虐殺ちつくにガードアリどもを蹴散らし、女王も耐えきれずにジ・エンド。今回のMVPは間違いなくシ・フォセだったな。と言うと恥ずかしそうにうつむいた。うーんおくゆかしい。誰かさんもこのくらい奥ゆかしく金使いを改めて欲しい、と言うと、幼なじみが、え、でも最近わたしシ・フォセちゃんと一緒にショッピング行くんだよ？ 一言。解せぬ。

そういうわけで、たぶんこれでアリ害も大幅に減るだろう。元老院からは感謝状をもらっておいた。……こんなのより金が欲しい。とか思ったのは秘密。

・素兎の月、18日

またエルヴァルが大会を開くというので行ってみたら、今度は採集大会ですと。

ふはははは。エルヴァル破れたり。なんでうちにファーマーが2人いると思ってやがるんですか。というわけで夜半に侵入して16階をうろついて適当に集めたらあつという間にバックパックがいっぱいになった。ほくほくして帰還。

そして朗報。エルヴァルの賞金はたいしたことなかったが、集めたものがすげえ高値で売れた！これで俺たちの財布もなんと2446エンに――幼なじみー！　またか貴様。

・素兎の月、19日

いい加減、本命である深王を追いかける仕事をおろそかにし過ぎなので、樹海へ。幸い元老院情報だと、深王は19階のトラップに手こずってまだそこまでしか行ってないらしいので、急いで追えばまだ間に合うかも。

んでまあ、とりあえずキャンプ地点までの道を確保して無難に撤退。まあ、本格的には明日からだな。

・素兎の月、20日

あ……あーぶーねー。

マジ死ぬかと思った。なんであんなところに羊の化け物がたむろしてんの。2匹もやってきてさあたいたいへん。

というか、アレ相手にちゃんと立ち回れたことが信じられん。よく勝てたなあ。俺たち実は強いのか。まあ、即撤退しないといけな
いほど疲弊したけどな。

・素兎の月、21日
オランピアと会った。

彼女は、いつもと変わらない様子で——というより。この機人がいつもと違う様子のところを見たのは、最初の頃だけだった気がするが——、俺たちに、どうしても引くつもりはないの、と問うてきた。

俺は、姫様に聞かされたことをそのまま話した。彼女がフカビトの力を得たのは、深王に会うためであること。そして彼女には、フカビトの力を使って人々に害をすつもりはないこと。

だが、オランピアは首を振った。

いまの深王に、過去の記憶はない。相次ぐ戦いとそれによる機械化によって、彼は既に人間のときのメモリーを失っている。彼はもう、戦う機械でしかないのだと。

だから姫様の願いはもはや無理。残された道は、凄惨な殺し合いしかないのだと、オランピアは述べた。

——なら、止めるしかないだろ。

そう言うと、オランピアは——笑った、ような、気が、した。深王に仕えるのが私の使命。追ってくるならば、次は敵として相見えよう。

そう言って、オランピアは去った。

……大量の、カマキリを残して。

いや、マジ死ぬかと思った。

かろうじて地形を利用して囲まれるのを防ぎ、逃げ込むように奥へ。一目散に逃げて逃げて、気がついたら19階への階段の目の前だった。

さすがにこれ以上は無理というかジロニアが血を吐いたのでいったん撤退。

さて、ここからが本番——なのかな。

・素兎の月、22日

昨日は早上がりだったんで夜から探索開始。

……いやね。ネイピア商会の姉妹の確執やらなにやりに巻き込まれまして。なんか成り行きで夜行性の銀弧の尾っぽとかいうのを取って来ざるを得なくなったのです。解せぬ。

で、なんとかゲット。銀弧めちゃくちゃつえー。死ぬかと思ったが、かろうじて生き残ってやったぜ。足がまだ笑ってるけどな。

探索のほうも順調に。でっかい狐が徘徊してるパターンが昼と夜で変わるので、それを利用して逃げ回ればなんとか。なんか距離と方角を惑わせる不思議な鳥居のトラップがうっとおしいが。そりゃ深王も苦勞するわな……と思っていたら、帰ってきたところに元老院から指令。深王が20階に到達したそう。解せぬ。くそ、ともかく早めに追いかけないと。

・素兎の月、23日

深王を追って森を進む。

途中、やっかいな地形にめげそうになりながらも必死で突破。致命的な罠は深王が解除してくれているし、これでも恵まれているほうなんだろう。だからって楽だとは思えないけど。

そうして20階への通路を確保して退却。待ってろよ深王。

・素兎の月、24日

待ってろよ、と言っておいてなんだが、アクシデントが起きた。

なんか、一階に異常な量の鳥の群れが現れたらしい。浅い階層にそんなのがいられちゃたまらないってんで元老院は冒険者たちに避難通達。で、エース級である俺たちになんとかしろという命令が出

た。

……くそ。こっちはこっちでほっとけないか。というわけで、がんばって鳥退治に出発。

鳥の親玉はどうやらつがいできてきているらしく、コンビネーションでこちらを苦しめた。……最初だけ。まあ、最初さえ切り切れば後は獅子王様がどうとでもしてくださる。というわけで身も蓋もなく勝利。あと、俺と幼なじみのコンビネーションである影縫いナインスマッシュ初登場。まあ、影縫わなくても獅子王様の麻痺があればどうとでもなるんだけど……あれ。俺、ひょっとしていらない子？

・素兎の月、25日

20階で狐に襲われたり悪臭を放つ花に襲われたりいろいろ苦勞しながら、なんとか中盤くらいまでの道を確保して撤退。この時点でボロボロ。死ぬわ！

魔境だなあ20階。なんか逃げ回るしか対処法思い浮かばんぞ。

深王はこんなとこ力押しで突破したのかな……やべーぞ。

・素兎の月、26日

どうも行き先を狐の怪物がさえぎってるような感じがする……

というわけで夜まで待機。しようと思ったら、幼なじみがそれなら新しい防具が欲しい！　と言ってきた。どこにそんな金があるんだよ。と言ったら、さっとチラシを見せてきた。なにに。ゲートキーパーが復活？　キリンさんが16階でまた暴れ回ってる？　厄介なのばっかじゃねーか！

ということとで押し切られて決行。なんとかして、がんばって退治してレア素材ゲット。金が……それでも、足りない。

しょうがないので手持ちのアイテムを売りさばき、かろうじて強

力な鎧ゲット。しょ、所持金が2ケタ……あれ？ 俺たちどうやって宿泊まるの？

はい。虎の子のハマオIIを手放しました。解せぬ。

・素兎の月、27日

夜から出発し、ほとんどの敵をスルーして20階の奥まで進出。途中、一回だけどうしても抜けられなくてカマキリと戦ったが、辛勝。獅子王さんありがとうございます。まあ、アームブレイカーさえ一発決まってしまう後は雑魚。ボロボロだったけどな。そういうわけで、そろそろ深王の目前まで迫ってきたと思う。まあ、相手も姫様の目前まで迫ってきているんだけど。ちゃんと止められるといいなあ。

・素兎の月、28日

深王が死んだ。

20階の奥の奥。そこで、俺たちはようやく深王とオランピアに追いついた。

俺は直接、前にオランピアに話したことを深王に伝えた。100年間、姫様はあなたに会うために生き延びてきたのだと。そして、そのためにフカビトの力を手に入れただけなのだ。

だが、深王からはそんなものは知らないという答えしか返って来なかった。彼は、妹がいたことなど覚えていないそう。

だから、力尽くで止めるしかなかった。

オランピアは黙って深王に従い、俺たちは深王を止めるために立ちほだった。

戦いになると、深王とオランピアは互いにコンビネーションを組

みながら巧みに戦ってきた。

獅子王によって深王が崩されたこともあったが、それも一度だけ。オランピアの頭部にナナナの一撃が入り、しばらく行動不能になったがそれも一度だけ。

特に凶悪なのが、オランピアの防御剥がしと深王の列攻撃のコンビネーション。これが一撃で幼なじみを昏倒させてしまうため、来ることを予期しない限りあつという間にジリ貧になる。これはクイックオーダーでフォロー。深王は身体強化のスキルを逆用して破壊する技術を持っているため、号令はかけられない。おかげで号令に頼っていたジロニアは力を発揮できず、苦戦を強いられた。

何度も獅子王を呼び続けたシ・フォセが限界を迎え、アムリタⅠⅠを幼なじみとジロニアが使ってかろうじて持ち直した頃、オランピアが限界を迎えて倒れた。後は防御をメインに立ち回り。20階で拾った本を元に編み出した必殺技、スターバスターが何度も炸裂し、相手の体力をゆるやかに削り取る。獅子王もなんとか最後まで保たせ、ついには全員が限界を迎えるギリギリのところで、深王が膝を折った。

なぜ理解できない。フカビトは、人類の敵なのだぞ。

そう言う深王に、俺は告げた。だとしても、あなたが追う相手はフカビトではない。

人でもないが、フカビトでもないはずだ。そしてその精神は、人間に害為す形ではない。

そう言ったのだが、深王はそれでもよろろと立ち上がりながら、なぜフカビトがこの森にいるかわかるか。と言った。

……？ と思っていると、彼は続けた。ここ、白亜の森はフカビトの力を抑える力を持つ聖域だと。

だから、神殿との間の転移装置があっても、フカビトの姿はないのだと。

そして、もし卿らの言うことがすべて正しくて、姫とやらがこの場所にいたとしたら、目的はただひとつ。

そうやってフカビトの力を抑えなければ、姫自体がフカビトとして暴威を振るってしまうからに他ならない。

それだけ危うい爆弾を抱えて、なおも卿らは余に引けと言うのか、と、深王は言った。

――不意に後ろから殺気が溢れて、そちらを振り返ると。

そこには、止めようとしたクジュラさんをズタボロにした、妖氣溢れる姫様が立っていた。

ボロボロになっていた俺たちには、止めようがなかった。

おそらくは深王の侵入に呼応して、フカビトの力が暴走したのだろう。彼の身体を串刺しにし、バラバラにした姫様は、はらはらと泣いていた。

――なぜ、こんなことが起こらなければならないのですか。

その言葉は呪いとなり、周囲の森を急速にむしばんだ。

もはや、打つ手はなかった。俺たちは、怪我をしたクジュラさんと壊れかけのオランピアを連れて、一斉に森から逃げ出した。

恐るべきフカビトの呪いはいま、森をあふれ出して海都を飲み込もうとしている。

オランピアは深都の兵を連れて、最後の戦いに打って出るそうだが、クジュラさんも参加すると言い出したが、全力で止めておいた。あれは動かしていい傷じゃない。

……参ったなあ。

こんな展開、予想だにしていなかった。

オランピアからは、だから止めるなど言ったのに、という嫌みを言われた。うーん……どっか、うまくやればうまく行ったのかなあ。よくわからない。

とにかく、事態はもう俺たちの手に負える枠をはみ出してしまっ

た。これ以上俺たちには、なにもできない。
終わり、か。

・虹竜の月、1日

いま、慌てて飛び出す準備をしている最中だ。本当ならこんな記述している暇はないんだが、なんでか書き留めないといけない気がしたので書いておく。

幼なじみが、オランピアの討伐隊に参加するって言い出して飛び出していきやがった。

あのばか。相談すらせずに行くとは何事か。……と、説教するにも当人がいない。ジロニアとシ・フォセは体力が尽きて動けない状態なので、俺とナナナだけでなんとか合流するまでがんばるしかない。

——まったく、あいつは。最後まで振り回してくれる。

とにかく、追いつくのが先だ。たぶんオランピアも白亜の森の構造は把握しているだろうが、あっちは集団でこっちは少数。急げば間に合うだろう。

願わくば。無事に帰ってきて、俺たちがまた酒場あたりでツスクルの運ぶ料理を食べながら、楽しく歓談できますことを。

さあ、行こう。

ナシツフテ世界樹日記ー7

・皇帝の月、6日

明けましてそこそこな昨今、なぜか冒険者ギルドの登録所から連絡があった。おまえの名前が登録されてるギルドがあるが、クラスがどこにも書いてない――はあ？ 冒険者？

身に覚えがないにも程がある。とりあえず行くだけ行ってみたところ、確かに俺の名前が書いてある。ギルド、アークアイス……マジかよ。解せぬにも程がある。

まあ、ともかくクラスをなにか選べと言われたので、なんだろうと考えた結果、シノビにしておいた。特に理由はないが、すばしっこいのはそこそこ自信があったからな。でも冒険とかする気にはまったくなれず。だって危ないのなんて嫌じゃん？

・皇帝の月、7日

家を掃除していたらへんな古ぼけた日記が出てきて、見てみたらすごいことが書かれていた。

なんと俺を主人公にした、海都の存亡を賭けた大冒険！ な感じの日記。ご丁寧に今年の日付が書いてやがる。うわーすごい黒歴史だ。俺ってこんなヒーロー願望あったっけ、と記憶喪失の振りをしてみたが、うん。無理。おかしいよこの日記。誰だこんな手の込んだいたずらしたのは。

固有名詞もいろいろ出てきてるし、ちょっと調べてみようかなあ。それにしても幼なじみって誰だ一体。見た感じ女の子みたいなんだが心当たりはないぞ。つーか一回くらいは名前出せよ書いた奴。

・皇帝の月、8日

とりあえずいくつかの固有名詞を調べようとギルド登録所にいったら訓練施設に放り込まれました。解せぬ。

で、なぜか大活躍。新人とは思えぬ身のこなしで、訓練教官のロッドテイルと模擬戦闘でいい勝負までした。勝てなかったけど。多元抜刀を全弾パリイとかないわー。……というか、俺はどこで身につけたんだこの技術。謎すぎる。

ともあれ、おまえならすぐにでもエースになれる！ という謎のお墨付きをもらって、無事釈放。調べてみたらナナナってのはどうやら同じギルドに登録されているらしい。残りの名前はなかった。というか、海都の冒険者ぜんぶの名前を当たってみたけどジロニアもシ・フォセもツスキルもない。……うーん。ひとりはいるんだから偶然とは思えないが、でも、うーん。なんだろうこれ。

謎は深まりつつ、とりあえずナナナって奴に伝言を頼んで今日は終わり。酒場にいつものようにバイトに行ったら、冒険者になったんだからまあ飲め！ とか言って酒場の常連にもみくちやにされた。解せぬ。

・ 皇帝の月、9日

なんかアーマンの宿っていう冒険者御用達の宿屋から呼び出しがあつて行ってみたら、アークアイス名義で装備預かってますってー。なんかすげえごつい短刀とか盾とか渡された。え、俺に？

着々と冒険者としての外堀を埋められてる感に苛まれながらギルド登録所に行ってみたら、そこにいた女にいきなりぶん殴られた。解せぬ。ナナナとかいうその女は、なんでわたしが冒険者になつてんじゃないコラ！ と大暴れ。うるせーそんな俺が知るかと言つても聞きやしない。取っ組み合いの喧嘩になつて、とりあえずあつさりのした。……弱っ。

そんな彼女はファーマーとして登録したそうだ。わたしはただ世界樹の取材に来たジャーナリストなのにーとぶーたれてるから、日

記を見せてみたらすげえ興味津々で読み始め、読み終わって、ぽんと俺の肩を叩いて一言。一口乗らせろ。よくわからんがこれは大物になるチャンスだ！

……付き合ってられねえ。と思ったが、まあ確かにこの日記とか冒険者になった理由とかの謎は解かないといけないわけで、手を組むのは悪いことじゃない。それでナナナの意見を聞いたら、残りの固有名詞で出てくる人間がいまいないのは、単に海都にたどり着いていないからなんじゃないか、と言われた。なるほど、言われてみればたしかに、残りの連中は皇帝の月からいるとは書いてないな。幼なじみだけが謎だが。

ということは、海都からいったん離れて調べて回るのもアリか……やるだけやってみるか？

・皇帝の月、10日

港に行ってみたら、既にアークアイスの船は用意されていた。

……管理人のおっさんも困ってたが。いつ登録されたのか記憶にないが、とにかく記録にあって実物もあるとのこと。名前はリッドチッタ号。なんだろうこの不気味な現象。

で、とにかく、最近は海流が変わって近場の港との航路すら確保できてないとのこと、外から冒険者を迎えるのも一苦労なのでどうにかしてくれないか、という依頼を受けた。……つまり、俺たちに航路開拓のための航海をしろと。

まあ、やるしかないんだけどさ。というわけで試しに出航。北に向かって進み、最初の島を見つけたところで俺たちはすごいのに遭遇することになる。

白鯨。

それも、女の子ふたりを乗せて海面を走る、巨大な白鯨。

——おまえたちがアークアイスか。と、白鯨はテレパシーで俺に話しかけてきた。

……海王、ケトス。

日記の通り、彼は実在した。大海原を駆ける、巨大な姿を伴って。

それでケトスに乗っていた女の子たちは船に移ると、レンとツスクルと自己紹介をした。

——ツスクル。あの日記に書かれた、知った名前だ。

彼女は、海都アーモロードにて巨大な呪いが発動したのを察知し、それを調べるために急いでいた途中だという。

国家を破壊しかねないほど巨大な呪いだということで探った結果、ツスクルは俺たちにその呪いが集中していることに気づいたのだそう。うだ。それで、どうにかするために相棒を連れてやってきたのだ、という。

本当は、両方とも戦闘スタイルを変えたばかりだから、冒険をするのに向いた状態じゃないのだけれど、放置しておくといひどいことになりかねないから。

ツスクルはそう言って、俺たちに日記の謎を解く協力をすることを約束してくれた。

予想外の早い助っ人登場にありがたさをかみしめつつ、俺たちは最初の航海を終了。

北側の島では羊たちがたくさんいて、それを管理しているおっさんに柵を作るためのアモロスギとかいう作物を取ってきてくれと依頼された。まあ、これは機会があればってことで。

・皇帝の月、11日

近くに灯台があるのを発見したのだが、その頂上に巣があるとおぼしき怪鳥に邪魔されて近づけなかった。

どうにかしたいのだが、どうすればいいんだろうなあ。と思っていたら、海都の兵士たちが使う乾燥えんどう豆を市場から手に入れ

た。これで食料を補充すれば、もう少し遠くまで船を出せるだろう
って。……まあ、やれることからやるしかないか。

・ 皇帝の月、12日

アモロスギがアーモロードのある島の南の方に自生しているとい
う噂をききつけて、足を伸ばしてみた。

その結果、無事、いい柵の原料をゲット。おっさんに持っていっ
たら超感謝されて、お札にと羊のチーズをもらえた。このチーズは
保存食としてはすこぶる優秀で、長い航海にも耐えられるとのこと。
へえ。じゃあいろんなところに行けるようになるな。高そうだけど。

・ 皇帝の月、14日

なんか航海していると飛ぶように時間が過ぎていく気がするな……
波のリズムがそうさせるんだろうか。

ともあれ、はるか東への航海を無事終えて帰還。ブルアントとか
いう凶暴なアリの襲われたり、干しぶどうが航海の食料には有効だ
と教えてもらったり、いろいろ有意義な航海でした。次もこうだと
いいな。

・ 皇帝の月、15日

海流の動きを読むことにかけて、どうやらツスクルは極めて優秀
みたいだった。

入り組んだ複雑な地形を見事に操船し、怪鳥の裏をかいて西側か
ら接岸。すると、そこには既に同じ志を持った3組の冒険者が待つ
ていた。

忍者、キリカゼはどうやら、目的の物がこの灯台の上にあるかも
しれないのだが、怪鳥のせいで登れなくて困っているのだとか。

カストルとポルックスの学者兄弟は、この灯台から星を観測するべく乗り込んだのだが、やはり怪鳥のせいで果たせず困っているのだとか。

そして残った一組は……北から来たヴィクトリア姫と、お供のアルバートとベンジャミンは、怪鳥のせいで人々が困っているのを見過ごせないと、たったいまここに乗り込んできたばかりだとか。

とりあえずいがみあってもしょうがないので、共闘を提案。残りのみんなが気を引いている間に灯台を駆け上がり、頂上の巣に到達。これで怪鳥も空に逃げるわけには行くまい。さあ、決戦だ！

……一瞬で勝負がついた。解せぬ。

いやー。みんな強いわ。ナナナが号令を出して一斉攻撃し、ツスクルが隕石でぶちのめし、そしてレンが介錯！ と叫んで一刀。終わりー。あれ、これで終わり？ マジで？ みたいな。

そういうわけで、微妙に不完全燃焼ながら決着は無事ついた。灯台は人の手に戻り、航路の安全を確保するための役に立つだろう。

ひとまず、めでたしめでたし……か？

ナシツフテ世界樹日記―8

・皇帝の月、16日

海都から褒美として、かなりよさげなマストを贈呈してもらった。これでより遠くへ航海してくれ、だって。

まあ、言われなくともここで終わるわけには行かない。ていうか、まだ日記の謎はカケラも解けてない。さしあたり、この近くの都市でなにか行ける場所はないかつーことでれっつごー。

結果、東に海流に囲まれた都市発見。後で調べたところバタビアと言うらしい。昔は名の知れた商業港だったらしいのだが、いまだは海流のせいで海都との交流が途絶えてしまったのだとか。

まあ、あれは後回しってことで、とりあえずさらに東へ。結果、難破船を見つけてしまった。……縁起でもない。とりあえず暗礁に近づくのはパスで。あ、残骸からは積荷とおぼしき黒コシヨウが大量に手に入りました。これもなにかの縁ってことでもらっておいた。そんなこんなで帰還したらもう夜。本当に、波の上だと時間が経つの早いなー。

・皇帝の月、19日

バダビア到着。……あれ。早くね？

いや。なにげなーく南のほうに足を伸ばしたら海賊船が見えたんで、怖いから近寄らないようにしようと思っただけで東に足を伸ばしたらあっけなくたどり着いた。なんだ簡単じゃん。

というわけでバダビアとの航路復活。周りからは英雄扱いされた。そんなにたいしたことしたかなあ。と思っただけどこはおとなしく受けることに。ともかく、周辺との航路復活はめでたい。

せっかくなのでバダビアで二泊ほど。なんでも、バダビア周辺では凶暴な魚の魔物が出るせいで、航海に支障が出てたそう。それ

で、いつも馬鹿にされて頭に来てた魔物使いのボーグマン、農作物を輸出できなくて怒り心頭のジャイルズとアガサ、そして密航がばれて処刑同然で魔物の矢面に立たされそうになっていたエイズとヴィゼンとマウマウの3人組たちと協力して、魔物を一掃することに。ここでもレンさん大活躍。つーかあのひと、魔物切る時目が血走ってて怖いんだよな……

あと、前に拾った黒コショウはバダビア船籍の船の持ち物だったらしく、拾った旨を告げたら大感謝されているもらった。これはありがたい。けどこの本なんだろう。博物誌って書いてるからなんか珍しい物が記載されてるのかな。

・皇帝の月、24日

よ……ようやく日記を書く暇ができた。

というわけで、ただいま戻って参りました。今回行ったのは北の商業都市、アユタヤ。北方への門とかつては言われていたらしいが、最近では海賊のせいでいまいちうまく行っていないらしい。

ちよつと猿の一行に食料を荒らされたものの、たどり着くのは比較的楽だった。だったんだが、その後がたいへんだった。変な縁で伝説のサメを退治しなきゃいけなくなって、海賊ドレークと協力して追い込んだはいいが暴れられて取り逃し、ちょうど成人式としてなんかいい得物がないかと探していたカップルがそれに目を付けて無茶をしちまったんで慌てて救出。最後には灯台のときのお姫様一行と協力して、とどめを刺すことになんとか成功した。

それはよかったんだが、今度は大破したいくつかの船を直すために船大工を探してきてくれと言う。なんでも、南のほうで羊の面倒を見るのが趣味だとか——ってあのおっさんかよ。仕方なくそっちまで出向いておっさんを連れ戻し、報酬をもらって帰ってきたのがいまさっき。

とんだ大冒険だった。なんというか、達成感があまりないのがひ

どい。次はなんかアレだ。宝探しとかしたいな。と言ったらツスクルに、本来の目的を忘れてませんかとジト目で言われた。……忘れてないよー。ただちよつとさー。どうせ冒険するならさー。ぶつぶつ。

・皇帝の月、28日

うおー宝の島見つけたぞー！

島の名前はトルトゥーガ島。海賊銀座を抜けていった先にある、かつて大海賊がその根城としていたっていう島だ。そこに行った理由は、実は狙ってではなかった。いや、その。海賊に追われて逃げ込みまして。

そしたら見知った顔が。キリカゼ、今回は新しい宝を探してこの島に来たんだと。あと酒場の常連のトーマのおっさんが、姫系（笑）戦士のデザートを連れて宝を漁りに来ていた。挙げ句にはクロスジャンケ海賊団と名乗る一行まで陸に上がってきて宝の争奪戦の様相を呈してきたところで、にわかに天がかき曇り、すごい時化に。そして霧の中からぼーっと姿を現す幽霊船。

はい死ぬ気で倒しました。マジで生物でない敵は勘弁。と言ったらツスクルに笑われた。それだけの呪いを背負うあなたが、幽霊船ごときに青くなるのはおかしい、だって。うるせー怖いもんは怖いんだ。ていうか実は俺、専門家から見たらシャレにならない状況なんだろうな。怖い怖い。

ともあれ、お宝も無事山分けということで解決してよかったよかった。俺たちには、まだ使えるような大砲を一門、分けてもらえた。……待て。それだけって安くね？

・笛鼠の月、1日

日記を見直していたところ、ムロツミというギルドの名前が目

映った。

アガタとカナエ。このふたりのギルドを、日記の中では結局救うことはできなかったらしい。……待て。現実にいるんだろうかこいつら。前に調べたときは失念していたが、これも調べなきゃいけない対象じゃないのか。

というわけでギルド登録所で調べたところ、たしかにありましたムロツミ。まだ第二階層に入らず困っている……なら、救えるんじゃないか？

——にわか降ってきた使命。第二階層に速やかに降り、奴らが死ぬ原因になる古代魚の群れとやらを排除する。そのために、一気に降らないと。

……できるのかなあ。海の魔物とは何度も戦ってるけど、その、樹海は俺、まだ一度も潜ってないからなあ。

・笛鼠の月、2日

おっかなびっくり樹海に入って……なんだこのザコども。

いやあ。樹海ってたいしたことないっすね。とか言いたくなった。少なくとも海の魔物より格段に弱い。これがいまのところなのか、それともずっとなのかは判断しかねるけど。後者だといいなあ。

と、2階に進出したら親切なひとに忠告された。でっかいトカゲは怖いから近寄るな、って言われないでも近寄らんわ！　と言ったらレンが、

いや、度胸試しにはちょうどいい。斬り殺そう。

と言いだした。一瞬反論しかけた親切なひとだったが、レンのただ者でない気配に気がついたのだろう。なにも言わずに立ち去った。

……後で日記で確認したら、確かに2階には忠告してくれる親切なひとがいたという話書かれていた。クジュラさんと言うらしい。これでまた、一段と日記の信憑性が高まったわけだ。となると、急がないと。

ちなみにトカゲは楽勝でした。戦ってるときのレンの目のほうが数段怖い。

・笛鼠の月、3日

こ……怖かった。マジありえねえ。

いやね。2階で変なところに迷い込んだじゃって。たぶん、日記にもあった像の住処なんだろうけど、勘弁して欲しい。ていうか倒す手段なんてひとつもねーよ！ 解せぬ。

そういうわけで逃げて逃げて逃げまくってかろうじて退路を確保したの巻。超怖かった。樹海もう行きたくないよー。

あ、オランピアさんというひとにも遭遇しました。これも日記通り。そしてラー油をもらった。何故に。

・笛鼠の月、4日

3階に進出。カバ相手に無茶しようとするレンを止めきれず、がんばって戦ってかろうじて撃退。

こんな無茶続けてたらいつか死ぬぞ……と思ったのだが、レンは、それならその程度の器だということだ。と言って聞かない。ツスクルは苦笑しながら、昔はもうちょっとおとなしかったんだけど、エトリアでいろいろあったから、と言う。なにがあったらこんなことになるんですか。解せぬ。

なお、ナナナの採集能力は十全に発揮されました。知識面ではこいつはピカイチだな……

・笛鼠の月、5日

無事4階に進出。したところで、日記どおりにクジュラさんに足止めされた。

もういい加減、この日記の信憑性は疑うべくもないかな、と思っていたが、やっぱり。というわけで冒険者選別試験。ナルメル狩ってこい、だそうな。

まあ、とりあえずさっさと済まして第二階層に入ろう。すべてはそれからだ。

・笛鼠の月、6日

なんか港から呼び出されたと思ったら、近くに勇魚が出てるから取ってきてくれ、だそうな。……漁師の仕事じゃん。思ったが、ナナナが大興奮しているので仕方なくやることに。ナナナ、こういうイベント好きなのな……意外。

というわけで無事、モリでつついて捕獲。けっこう高い額で売れました。実は勇魚、海都の特産品なんだそーで。そういや昔から食卓によく並ぶな、とは思っていたが。

・笛鼠の月、7日

やっぱり日記通り。アガタから、ナルメル討伐のための共闘を持ちかけられた。

最初は止めようかと思ったが、そんなこととしてこいつらが無茶したりしたらかえってやぶ蛇だしな。というわけで、共闘自体は受けることにした。準備が必要とのことで、いったん撤退。

うーん。やっぱ、早めに古代魚の群れを全滅させとくしかないか。

・笛鼠の月、8日

ナルメル倒した。弱っ。

日記にはかなり苦戦した感じで書かれてあったんだけどなあ。正

直、多元拔刀と乱れ竜の陣の前に敵ではなかった。逃げられることすらなかった。つーか俺ひとりで勝てたんじゃないのかこれ。と思ったら、日記の後のほうには俺がひとりで倒したくたりもありましたねハハハ。

まあ、そういうわけで第二階層に進出。ここからだ。ここから。

・笛鼠の月、9日

第二階層を探索中。

クジュラさん曰く、この速度で試験を超えたのは俺たちが初めてらしい。とはいえ、メンバーの名前を聞いたら納得したっぽい。どうもレンとツスクル、エトリアじゃ超有名な2人組だったっぽいんだよなあ。あのロッドテイルでさえ、初めて対面した際には目を剥いて驚いていた。

レン曰く、ロッドテイルが昔いたギルドにはワテナという終生のライバルがいるらしい。無手勝の流儀とやらを使う恐るべき使い手だそうで、いつかそいつに勝つのが人生の目標だそうだ。……へー。でもレンが勝てない相手ってなかなか想像つかないな。樹海の魔物じゃあるまいし。

と言いつつ、ワニを三匹ほど介錯してきて撤退。日記じゃ6階に古代魚の巣があるって話だった。次が山場だ。

・笛鼠の月、10日

6階の奥。オランピアさんは、日記に記された通りの場所にいた。なにか話そうとするのをいきなり制して問う。深都とかはどうでもいい。古代魚の巣はどこですか。そしたらごちなく手で指さされたので、そっち側へ。

死闘と言ってよかった。最初は多元拔刀で処理していたがすぐに体力が尽き、その後はツスクルのダークエーテルでナナナを下支え

しながら、乱れ竜の陣と介錯で叩き切っていった。最終的に、二ケタに及ぶ強大な古代魚たちを全滅させ、かろうじて帰還。

オランピアさんには、あなたたちは何者ですか。と尋ねられたので、こう答えておいた。――冒険者さ。

……冷静に考えると、俺冒険者になったつもりになってるんだなあ。いつの間に。かなり状況に流されてる感があるんだが。と言ったら、ツスクルは笑って、それでいいんですよ、と言った。

流されて、流れ着く先を目指すのも、ひとつの生き方。

なにを背負うでもなく、飄々と先を目指す。そういう生き方もある。時に信念強く追い求める者達と対立することがあっても、そういう者は簡単には相手に吞まれない。それもまた、強さのひとつなのだと、彼女は言った。

だから――日記であるように。

深都を背負ったオランピアは、なにも背負わないあなたに負けたのでしよう。

そんなもんかねえ。と思いつつ、たしかになにを言われてもいま冒険者をやめる気はないのだった。

ナナナ曰く、目標があって冒険者になった者は、目標を達成したらやめちゃうからねえ。だってさ。それもそうだ。目標なんてなく冒険者やっている俺は、だからこそ冒険者なのかもしれない。

とはいえ、さしあたって俺たちの当面の目標である、ムロツミの連中の安全確保は完了した。元通り、航海のほうに戻ろうか。

ナシツフテ世界樹日記ー9

・笛鼠の月、12日

南海の北の方へ。ウガリートという都市を見つけたが、海流が激しすぎてうまく近づけなかった。

しょうがないのでその近辺でいろんなものを手に入れてきた。けっこう海っていろいろあるんだな……魚しかないと思っていたけど。親切なひとには大漁旗まで譲ってもらったりした。嬉しい。

帰ってきたら、ウガリートは西方との交易の要ではあるものの、やっぱり近づくのは難しいのだそう。あの海流、巨大な竜が暴れているというのが理由で発生しているらしい。そのせいで、ここ100年間簡単に近づく術が失われて久しいんだと。

・笛鼠の月、16日

南海の最南端のあたりに、巨大な石でできた古代遺跡がある。

今回の目的はそれだった。歴史学者ボンガロに調査の手伝いを頼まれたのがその理由。途中、海賊船を砲撃で沈め、海流に乗って近道をして到達。

……なんでこんなへんぴなところにまで冒険者がたむろしてるんでしょうね？

姫系（笑）戦士のデザートとお相手の戦士と、そして誰がいちばん術式を使えないかで争っているへんな三姉妹。この辺が集まっていた。解せぬ。ここ航路もない辺境なんだけど。挙げ句の果てにみんなで喧嘩しはじめたところ、島の防衛装置を動かしてしまったらしく、巨大な石兵に襲われた。これはひどい。

で、勝ちました。術式で押して回復をがんばって最後は介錯一刀。恐るべき相手だったがレンの前にはなすすべなく、散っていった。なんか再生とかしてすげえ苦戦したが、相性勝ちと言うべきか。

その後、激しい海流を避けていろんな箇所を回って帰還。海都からは褒賞として、藻を切り裂きながら進める装備を調達してもらった。これでさらに行動範囲が広がる！

・笛鼠の月、18日

藻を切り裂く装備の試し運転として、南海の東のほうを探索。
ハムユイという名前の魚の燻製が保存食としてすごく適していると教えてもらいました。あれはうまい。一見して臭いがすごかったのでうげーと思ったが、味は素晴らしかった。仕入れ値もお手頃。

・笛鼠の月、22日

また南のほうを探索。

勇魚狩りに適したモリが放棄してあるのを発見。装備品に加えておいた。まあ、使うのはまた今度って感じだけど。

あとは南の方で少し釣りを。やっぱこのあたりは豊かだなあ。島には豊かな果実も実っているし、このあたりでずっと暮らしてたら楽しいだろうなあ……とか言ったらツスクルに脇をこづかれた。この前あんなこと言っておいて早速目的を見失ってどうする、と。うん、そうなんだけどね……

・笛鼠の月、24日

び……びっくりした。なんだあれ。

いやね。今日も南で漁してたんですけどね。なんか異様な手応えがあつて、引いてみたらものごつつい大きさのイカが引っかかった。もはや怪物級。

海都に持って帰ったら、このイカはダイマオウイカと言うらしい。……あー。なんか日記に書いてあった気がする。こんなにでかいの

か。そりゃ主も食うわ。釣った俺がガクブルするレベルの巨体だも
ん。海マジ半端ねし。

・笛鼠の月、26日

アユタヤ付近で暴れ回る海賊を撃破。

彼らが奪った交易品とやらをゲット成功した。かなりの量の銀。
これはしかるべき場所に返さないといけないかな。聞いたところによ
ると、シバという都市の船から奪ったらしい。北のほうの、かつ
ては栄えた町だったが、いまは海流の影響で簡単にたどり着けなく
なって久しいそうだ。

・笛鼠の月、28日

北に向かった俺たちが見つけたそれは、天を衝く光の柱だった。

大海磁軸と呼ばれるそいつは、ある技術によって高速かつ確実に
その場所に船体を運ぶ機能を持っている。つまり、航路が確保され
たも同然ということだ。これは海都にとって巨大な貢献となる。と、
港の管理人のおっさんにべた褒めされた。

……まあ、貢献はべつにどうでもいいんだけど。それより航海範
囲が大きく広がったということのほうがでかい。これで、日記の謎
を解くための旅も、一段階進んだ……んだと、いいなあ。

・天牛の月、6日

大海磁軸を見つけてからというものの、あまりに忙しくて時間が取
れない……日記書くの久々だ。

なにをしていたかと言うと、博物誌に記されている伝説の暗黒の
森を発見したり、海流に囲まれた海洋都市シバのまわりを巡って、
抜け道を二つくらい見つけて報告したり、といった仕事をしていた。

あとシバに銀を返して表彰されたりした。

まあ、それはいいんだが、さらに北を目指すには暗礁地帯を抜けないと駄目らしい。抜けるための装備を開発しているからちよつと待ってろと港のおっさんには言われた。うーん。じゃあどうすつかなー。

・天牛の月、8日

た、たいへんだった……

試みにシバの近海で海流を操るって言われている魔物でも見に行くかなーと思ったのが運の尽き。へんな王子に絡まれた。シバの女王に求婚したところ、あの魔物の首を持って帰れば考えてもいいって言われたんだとか……それ遠回しに断られたんじゃない？　と思っ

たが言うに言えず、仕方なく付き合って戦うことに。

魔物を先祖の仇と付け狙う女の子と、どさくさまぎれに漁をしたいからと船を出した地元の漁師を連れて魔物のところに行き、がんばって戦ったところ、なんとか倒せた。レンの一撃を受けたコロトラングルは力なく水面に落ちていった……シバは守られたのだ。完。と言いたところだが、なあ王子さん。水に落ちたら首取れなくね？　そう言ったら馬鹿王子は飛び込もうとしたので慌てて全員で止めに。ひどい茶番だった。もう二度と手伝いたくない。

・天牛の月、9日

カナエが死んだ。

6階での出来事だそうだ。俺たちが古代魚を討ち漏らしたのか、それともオランプピアが新たに放流したのか。ともかく、あの広間にまだいた古代魚によって、冒険者たちの一団が壊滅するという事件があった。ムロツミはそれに巻き込まれ――殺されかけたアガタを、

カナエがかばって、そして、そういう結果になった。

俺の不幸際だ。がんばってもなんの役にも立てなかった。と、すげえ落ち込んだが、ツスクルが真剣な顔でそれは違うと言った。おそらく、この結果には俺たちが受けた呪いが絡んでいるという。

……呪い。

その力はどうやら、俺たちの樹海に与える影響を、可能な限り小さくするように設定されているようなのだ。発動したことでツスクルにはそれがはっきりと察知できた。つまり、今後なにをしても、日記に起こった出来事は似たような形で再現される可能性が高い。とすると。俺たちはどうすればいいんだろうか？

悩んでいると、ナナナから提案があった。とりあえず深都まで行ってみてはどうか。呪いがそういう形で発現している以上、世界樹はなんらかの影響を与えているんじゃないだろうか。あるいは、10階にいたフカビトの王なら、なにか知っているかもしれない。

目標は立った。とりあえず、深都を目指そう。それと、元老院にオランピアさんのことは通達してもらって、冒険者に警告を与えておかないと。でないと、今後被害が出る可能性がある。

・天牛の月、10日

元老院に報告したところ、既に状況は思ったより進展しているらしい。

古代魚を倒しまくったことで焦ったオランピアさんが尻尾を出したのか。ともかく、既に7階での搜索は山場を迎え、オランピアから海珠を手に入れたギルドによって海流が止められているらしい。じゃあ、後追いだ。とにかくできる限り早くそいつらに追いついて、追い越してでも深都に行こう。

7階に潜入し、邪魔な水竜を力づくで排除しながら進んでいく。まずは地形を把握しないと。

いろいろ探索し、数人の衛兵と会って情報交換をしてから撤退。
見てろよ。すぐ追いついてやる。

・天牛の月、11日

世の中は海賊討伐運動とかで盛り上がっているらしいが、とりあえずそれは後回しな。

というわけで8階へ。無事奥への通路を確保して撤退。
次あたり深都かな。

・天牛の月、12日

8階の奥で、海王ケトスは血まみれで横たわっていた。

……ツスクルが見たところ、命はかろうじて大丈夫らしい。できる限りの手当てはしておいた。人間ではないが、知り合いが痛々しい姿になるのは見ていて心が痛い。

それにしても、ああやって見ると冒険者の所業ってのも業が深いな……自然を征服する仕事、か。共存できるかもしれないのにな。

深都に到着すると、既に別の冒険者の一団と話がついた後だったらしく、冒険者は深都に出入りすることを許されている状況だった。

——ひよつとすると、最初に深都に到着した冒険者の中に、「幼なじみ」がいるのかもしれない。と思ったのだが、調べてみた限り複数の冒険者チームが協力して到達したらしく、特定には至らなかった。……ううん。もどかしい。さっさと日記の謎を解いておきたいのになあ。

あ、ジロニアとシ・フォセについては、無事に見つけることに成功しました。どちらもエース級の冒険者として活躍しているらしいが、所属はフリーだそうで。とりあえず日記のことを話し、困ったことがあったら協力してくれるという約束を取り付けた。ありがた

い。

深王にも日記の話をした。

彼は、日記で10階のフカビトや12階のゲートキーパーなどに触れられていること、そして己の死が書かれていることに深い衝撃を受けたらしく、オランピアと共にすぐに協力を申し出てくれた。さしあたって、10階のフカビトとの面会を許可してもらった。ありがたい。

・天牛の月、13日

第三階層はさすがに、力づくで突破とはならなかった。

火の中にいるような暑さに耐えかねて、あっという間に撤退。いちおう道はいくつか確保したものの、きびしいなあそこ……

早いうちに樹海磁軸でも確保しないと、茹だって死んじやいそう
だ。

・天牛の月、14日

途中出てきた邪魔な蛇を片付けながら進み、樹海磁軸まで行って
撤退。

ちなみに、樹海探索ではときどき冒険者に会うんだけど、あの蛇
うざいよねータフだからとか振ったら普通にどん引きされた。なん
で逃げないの？ とか言われた。え、冒険者って敵皆殺しがデフォ
じゃないの？

……やばい。レンの影響受けすぎてるかも。ちょっと反省しよう。

・天牛の月、15日

やっぱり蛇に苦戦してすぐに退却。うーん……どうにかならない

かなあ。あの蛇。うっとおしい。

・天牛の月、16日

シ・フォセから依頼。なんか9階脇のアリの巣を駆除してくれという依頼を受けたのだが、ひとりでは心許ないのでいっしょに戦ってくれないか。だそうな。

まあ、助っ人とあらば行かねばならない。というわけで決行。そして大激闘の末にкауうじて撃破。

日記通り、シ・フォセの獅子王は馬鹿みたいに強かったのだが、それでも苦戦した。わらわらと湧いてくる大量のアリをどうにかしないといけないのも問題だし、なかなか女王アリが麻痺してくれなかったというのもある。レンとツスクルが相次いで崩れ落ち、残った俺とナナナががんばって敵を引きつけて、最後のダメ押しをした。あぶねー。

まあ、なんとか目標も達成したことだし、本業に戻ろう。それにしてもシ・フォセ、強いし奴だし奥ゆかしいし、非の打ち所がないな。嫁にするならああいいう子だろうな。と言ったら、ナナナからは馬鹿にした目で見下され、ツスクルからジト目で見られ、レンからは無視された。あれ、なんで俺こんなに冷遇されてるの？

・天牛の月、17日

蛇とか狩りながら、無事、10階への階段へ到達。

まあ、このへんまでは楽勝。次はいよいよ……だな。

・天牛の月、18日

10階の奥。そこにいたのは、異形の生物だった。

見た目は人間の子供みだったが、明らかに気配が違った。異

様などす黒い鬼気というか、悪意と好奇心が半々のなにかが周りで渦を巻いて——待て。なんか視覚的に見えてるが、そんなこと日記に書いてなかったぞ？

そう思っていると、そいつ（フカオ。日記の名前マジナイス）は口を開いていきなり、

眷属の呪いを受けたのかい。
と言った。

……やっぱおまえのせいか。と言うと、フカオは笑った。

半分くらいは責任を負ってもいいかもしれないが。その呪いは、グートルーネのものだろう？

と言った。……姫様、だって？

フカオの言うことによると、この呪いは、自分と同じ境遇を相手に味わわせるものらしい。同じ境遇ってなんだよ、と聞いたが、そんなの知らないよ、と答え。たしかにそりゃそうかもしれないが、俺は姫様からなんの——

日記、か。

日記の最後の展開を告げると、フカオは薄く笑った。

たぶん、グートルーネは君の幼なじみと戦ったんだろう。そして幼なじみに敗れた。

それで、最後のタイミングに呪いをかけたのだ。同じ境遇を味わさせる——大切なひとに忘れ去られ、最後には殺してしまう呪い。それによって時は巻き戻り——今の状況が、ある。

君、このまま行くと殺されるんじゃないかね。その幼なじみに。そう、フカオは告げた。

どうすれば防げる。と聞いてみたのだが、そんなの知らないよとつれない答え。

——ツスクルが、ぽんと俺の肩を叩いた。
世界を、また回りましょう。

彼女はそう言った。

海は広い。どこかに、呪いをどうにかする術があるかもしれない。それを、拾い集めようと、ツスクルは言った。

目標はできた。呪いを解き、俺の死の運命を回避すること。

そして、幼なじみを呪縛から解放すること。

そのために、必要なことはなんでもしよう。

俺には幼なじみの記憶はないけれど。それでも、たぶん大切な人間だったんだと思うから。

ナシツフテ世界樹日記－10

・天牛の月、19日

港に行くとは海賊討伐キャンペーンの真っ最中で、そして海賊が逆襲のために海都に攻めようとしている状況だった。解せぬ。

んで、強制的に迎撃の指揮を取らされるはめに。海賊討伐旗をかかげ、一気に迎え撃つ。うまく船を動かして戦った結果、海賊はちりぢりになって逃げていった。

……のだが、なぜか港に戻ったら、その海賊一味のボスが待ち構えていた。解せぬったら解せぬ。

んで、決闘を挑まれたので受けて立ち、あっさり多元抜刀一閃。相手はすっかり毒気の抜けた顔で、兄貴と呼ばせてくださいと――あれ。なんでこんな展開になってんの？

というわけで、へたれ海賊のアジサイくんが我がギルドに加わった。どうでもいいが貴様、パイレーツのくせにダークエーテルしか使えねえってどういうわけだ？

・天牛の月、21日

海都の兵隊たちから、暗黒の森を探索しようとしたら強大な魔物たちに襲われているのでなんとかしてくれという要請があった。

それで行って見たら、なんか薬の材料を取りに来た医者たちと、武者修行に来たっていう無茶な戦士がいて、必死で兵隊が止めているところだった。それだけならよかったのだが、その騒ぎを聞きつけて魔物たちが一斉に群がってきたからさあたいへん。あたりは戦争になった。

たまたま、ジロニアさんがオフだったので誘っという正解だったわー。超強い。各種号令もさることながら、前陣迫撃砲術の連打がめっちゃくちゃな攻撃力。すげー強いっすねーと褒めたら、バラを手

に持ってふっと微笑み、そして脈絡なく血を吐いた。解せぬ。

・天牛の月、23日

やりました。暗礁を越え海賊船をかわし、ふたつ目の大海磁軸発見。

北海のさらに北の方。素晴らしい。これで、行ける場所がさらに増えた。この調子で北の大陸まで行ければ、もしかすると呪いの解き方もわかるかもしれない。

さあ、忙しくなるぞ。

・天牛の月、27日

交易都市ダマバンドに到着。

北と南の流通の拠点として知られる街だ。ここまで来たということとは、もはや北の大陸は目前ということでもある。

あるんだが……かなり入り組んでるんだよなあ。いったん迂回路を探した方がいいか？

・王虎の月、1日

南のほうでなにかできることはないかと思って出航したところ、巨大な勇魚発見。

強烈に釣り欲求に駆られて突撃したところ、見事に船をやられて帰還。解せぬ。くそいい気になりやがって。次は見てろ。

ところで、なんか勇魚狩りに勤しんでいるるか向こうに塔みたいな建築物が見えた。あれはなんだろう。

・王虎の月、5日

勇魚を見失ったため、塔のほうを優先して行ってみたところ、勝利の塔と言われる巨大な遺跡であることがわかった。

これも文献でしか存在が確認できていなかった遺跡だそうで、ものすごい感謝された。そして、おかげでさらにいい帆の発注までしてもらえた。これで北の大陸を目指せ！

……でも発注してから納入までかなりかかるって。解せぬ。

・王虎の月、7日

勇魚狩ったぞー！

いやあがっぱがっぱだわこりゃ。北海の勇魚ってこんなにでかいのな。おかげで急激にリッチに。

なんかもう漁師やってりゃいいんじゃない？ とか言ったらツスクルから、それだと死にますけどね、とざっくり。わかってるよ。ちよつとは現実逃避させてくれよ……

・王虎の月、9日

トルトゥーガ島の近くで難破した船の救助という仕事があったので引き受けることに。

んで、行ったついでに、近くの探索をしてみたら面白いお宝を手に入れた。セドナの神像というらしい。漁のお守りなんだそうで、ちようどいいので船体の頭に取り付けることにした。大漁祈願！

・王虎の月、11日

相変わらずトルトゥーガ島で活動中。

前にカルバリン砲をもらったところで、まだ余りがないかなーと思っと思っていたら、サンゴの変な首飾りを見つけた。まあ、これも戦利品ってことでもらっておこう。

そんなこんなで帰還。さて、次は北に行くぞ！

・王虎の月、19日

北の方をいろいろと。

象がいったい死ぬ不思議な谷を見つけたり、地元の漁師と歓談して勇魚のベーコンが保存食としてもよいという話を聞いたりした。あと、でっけえ大漁旗を譲ってもらった。

とはいえ、やっぱり北の大陸に行くには新しい装備が必要かと思われる。どうしたって限界がある。さしあたり、時間を待っている間、なにかして過ごそう。また樹海に入ってみるのもいい。

・王虎の月、20日

久々に深都に行ったら、クジュラさんと冒険者たちによってゲートキーパーが撃破されていた。

深都では対抗するためんやわんやだったが、深王はすべての冒険者が敵とは思っていないらしい。むしろ深都側に付く冒険者を集めるため、積極的に活動しているようだ。

それで、例の呪いについて話す。深王にも呪いを回避するよい手は浮かばなかったようだが、代わりに世界樹と話してみてもどうかと言われた。なんでも、ゲートキーパーが守る場所の奥、神殿の中に世界樹と交信するための施設があるのだとか。なるほど、それはひとつの方策かもしれない。行ってみよう。

・王虎の月、21日

10階を抜け11階を抜け、一晩であっさり12階へ到達。邪魔な竜は動きがぶいので、わざわざ事を荒立てないで済むのが助かるわー。まあ、べつに倒せばいいっちゃいいんだろうけど。

そんなわけで12階へ到達。日記では竜が邪魔で困ったとあるけど、さて。どうなるやら。

・王虎の月、22日

12階を探索。さっさと行かないと竜に邪魔されるのも不快だということとで強行軍の結果、無事に13階へ——なんで復活してるんすかゲートキーパー。

はい死闘でした。いやね、めちやくちやダメージは通るんだけどね。こっちのダメージがね。ものすごい攻撃に前衛が吹っ飛ばされ、かろうじて食いしばって耐えたレンが基盤になって戦列を立て直し、どうにか撃破。あの腕のチームがもう一回来たらアウトだった。

そんなわけで13階到達。無事とは言えない状況だったが、まあそういうこともあるさ。

・王虎の月、26日

なんでこんなに日にちが空いているかというと、港に呼び出されているからです。

いやね。なんか北海の二番目の大海磁軸の付近で海賊船が暴れてるっていうから狩り出されて。しょうがなく大砲ばんばん撃ってばんばん落としてきた。そのついでに、最初の大海磁軸から勝利の塔へ行くルートを開拓してくれと言われて、がんばって探索してたらこれだけの時間に。

まあ、この程度なら寄り道も悪くはないだろうが、あまり遅くなると俺が殺されてしまう。そろそろ神殿に戻ろう。

・王虎の月、27日

檻に閉じ込められた邪魔な大型モンスターを、片っ端から切り倒

しながら進み、14階への通廊を確保して撤退。

……この進み方、本当にいいのかなあ。なんか日記には、すげえ逃げ回りながら進んだような描写があるんだけど。あとレンの目が血走ってるのが半ばデフォになってる感じがして怖いです。

・王虎の月、28日

ダメでした。

いやあ。14階の敵強いねえ。半壊して慌てて撤退。こりゃあ逃げ回らないと無理だなあ。とか言ったらレンがブチ切れた。修練が足らんからいかなのだ。だから修練だ修練——いや、その。マジで？

・素兎の月、2日

海を渡って修練初日。

勝利の塔の魔物相手に奮闘。特にアジサイを重点的に鍛え、もう勘弁してくださいと泣き出したアジサイをレンが容赦なく介錯。ひでえ。

そんなわけで一日が過ぎた。こんなんで強くなれるのかな。

・素兎の月、3日

修練二日目！。

今日もアジサイを中心に。昨日は泣き言を言っていたアジサイは、今日はもうなにも言わなくなった。体力を使うだけだと骨身に染みたんだろう。レン、マジ鬼教官。

こっちはマイペースにやってるからいいけど。いちばんマイペースなのはナナナだったりするが。あいつ、へにゃへにゃに見えてけっこう体力あるんだよな——……

・素兎の月、4日

修練三日目。

なんだかアジサイが日に日に強くなっている気がする。文句も言わなくなった。目が血走ってきた。……いいのかなあ。この修練法で。なにか取り返しの付かない方向へ進化させようとしている気がしなくもない。

俺は今日はツスクルとコンビネーションの研究。前々から思っていたんだが、ツスクルと俺だと、なんか俺が早すぎてダークエーテルが間に合わないことが多いんだよね。なので、そこを經由しないでどうにかなる戦い方をあーでもないこーでもないと議論していた。

・素兎の月、5日

ジロニアさんと勝利の塔で会った。

なんでも、海賊クロスジャンケが強化合宿を行うのに付き合いでついてきたそうな。……強化合宿。なんか気が合うなあ。ここ、やっぱ冒険者の鍛錬場として目を付けられてるんだろうか。

アジサイはだんだん見違えてタフになってきた。なので、今度から招鳥付けて囀にしよう、と言ったら頼むからやめてくださいと泣きつかれた。……体力はタフでも精神が変わってねえな。

・素兎の月、8日

補給物資を取りにダマバンドに寄港したらなんか守護の三首竜とやらが暴れていた。解せぬ。

それで、仕方なく討伐に行くことに。たまたまその場にいたシ・フォセ、竜の生き血とやらを狙ってきた酒場常連のトーマのおっさん、ダマバンドの兵士と、そして武者修行の旅の途中という以前バ

タビアで会ったひよっこ三人組——という、なんとも混沌としたメンバーで挑み、かろうじて勝利。再封印に成功した。

戦法は、メンバーの大半で首を攻撃してコンビネーションを封じている隙に、獅子王とレンが胴体をひたすら攻撃。五輪の剣で見る見る目が血走っていくレンにひしひしと恐怖を覚えながら戦っていたが、なんとかざっくり勝利した。あと獅子王は素で強かったなあ。シ・フォセ恐るべし。

それにしても、こんなやばいのと立ち回れるなんて、俺たち少しは強くなったのかな？ 修練の成果が出ているというのは素直に嬉しい。もうちょつとがんばろう。

・素兎の月、10日

勝利の塔に戻って修練再開。

見違えるようにみんな強くなってきた。特にレンとアジサイが顕著で、レンの五輪の剣はすさまじい暴威を叩き出すようになり、またアジサイはチェイスという新しい特技を覚えてかなり強くなった。ツスクルも順調に術を強化し、俺は俺で進展があった。ナナナは……あれ？

なにも変わってねえ。貴様なにしてた。取材？ なめんな。

・素兎の月、11日

キリカゼと久々に会った。

なんでも、ここに住んでいる高名な坊主が持つ宝に用があるんだとか。でも俺たち、そんなやつ見たことないぞ……まあ、塔の上のほうには行ってないけど。そっちは凶暴な魔獣が住んでるからな、と言ったら、がっくりしつつも諦めきれない様子で、塔を登ると言い出した。

とりあえず装備を整えてくるべき、と言って止めたけど……あれ

は諦めないだろうなあ。無茶だと思うのだが。

・素兎の月、12日

やっぱこれくらい修練を積むと、強さも見違えてくるなあ。だいぶ、自信がついてきた。

ツスクルとアジサイのコンビネーションも冴えてきたし、レンは超強化されたし。これなら、あの化け物にも十分太刀打ちできる……かも。

・素兎の月、13日

キリカゼが、なぜかネローナを連れてやってきた。

なんでも、勝利の塔を登ると言ったらあたしも力試し行きたい！
と言ってついてきてしまったのだとか。そしたら、周囲で合宿中のクロスジャンケがなんか意気投合。みんなで手伝って塔を登ろう！
ということになってしまった。……って、なんで俺たちも巻き込まれてるの？ 解せぬ。

そんで塔を登っていったら下からもんのすごいでかいペンギンが。とりあえず足場の悪いところじゃ戦えないってんで頂上まで行って相対する。ネローナを追ってきたアーウラがその後ろからかうじて追いつき、激闘が始まった。

マジ激闘でした。主火力はキリカゼの多元抜刀。それにネローナのナインスマッシュとアーウラの攻撃、クロスジャンケの大砲。そしてレンの剣とツスクルのメテオ。ジロニアの予防の号令とアジサイのダークエーテルが皆を下支えし、俺とナナナはアイテム持って回復役に。……はい。役立たずですみません。でも俺が分身やるとキリカゼの邪魔にしなければならないからなあ。ナナナは少し反省な。

最終的に、大量に呼び出した眷属もろとも切り倒されたペンギンは悲鳴を上げて塔を落ちていき、俺たちは勝利を掴んだ。すげえ、

勝利の塔を制覇しちまった……びっくりだ。

レンは満足げに、これだけ強くなれば十分だろうと言った。どうやら、修練はこれで切り上げるつもりらしい。まあ、たしかに潮時かな。

・素兎の月、15日

14階に戻って戦闘開始。

でっかい戦士っぽいのと、魔法使いっぽいのをひとり屠ったところで体力が尽きて帰還。なかなか苦戦する。が……その獣にはまったく苦戦しなくなった。アジサイがダークエーテルして乱れ竜の陣とメテオで終わり。

・素兎の月、16日

14階制覇。15階到達。

オランピアさんに、世界樹と交信できるのはこの周辺ですという情報をもらった。ありがたい。次あたり、そこまで到達できるといういな。

・素兎の月、17日

北の大広間で、俺たちはその碑と遭遇した。

——不思議な碑だった。

なにも書いてない、ただの石版に見えるのに、そこに意志を感じる。

ぼけーっと突っ立ってたら、横からオランピアさんがにゅっとなにかを突き出した。えーと……粉薬？ これを振りかけると世界樹と交信できる？

言われるままに、粉薬を使ってみる。

そして、声が聞こえてきた。

——フカビトに囚われた、哀れな人間か。

世界樹の声に、俺はむっとして言い返した。哀れじゃねえよ。何様だテメエ。

すると世界樹は、小さく笑ったようだった。

——気を悪くするな。それに……客観的に見て災難ではあろう。

人間の身に、その呪いは手に余る。

俺はうなずいた。分かっている。だから聞きに来たんだ。どうやったらこの呪い、解けるんだ？

——解呪する手段はないでもないが、時間が足りぬ。

——その期限は遠くない。おそらくは呪いがかかった刻限より一月以内。

俺は思い出した。日記は、虹竜の月の1日で途絶えている。ということは、……虹竜の月のうちに、どうにかしなければいけないということだ。

どうにかする手段はあるか？ と問うたら、世界樹はこう返した。

——機人化せよ。

……俺に深王みたいになれって言うのか。

結局、それって深王と同じじゃないか。記憶を失って人間外になって、フカビトを倒すための手足になれってか？

——そこまでは期待せぬ。

——我が人間に持ちかけるのは、共闘の提案だけだ。操り人形にするようなことはせぬ。

——深王の場合、長い戦いで深く傷つき、それを機械でサポートしているからあなっている。だが、そこまでの機人化は要せぬ。

——要は、汝が呪いをかけられた時と違う物になればよい。呪いの効果は、それである程度薄まろう。

ある程度、ね。

——それ以上を断言はできぬ。呪いは薄まるが、消えてなくなる

わけではない。

……俺はツスクルの方を見る。

ツスクルは、俺に向かって小さく、しっかりうなずいた。
なるほど。世界樹だけなら信用しないが、ツスクルが効果ありと判断したならそれも手か。

——人間よ。それだけでどうにかなると思うな。

——より一層努力せよ。汝が呪殺を回避することが、魔との戦いで有効打となると信ずる。

そう言って、世界樹は沈黙した。

深都に帰って、深王に機人化の件を願い出ると、彼は素直にうなずいた。

少しの時間をもらうが、確実に、そして安全に機人の身体を授けよう。

そう言って、深王は俺の手を握った。そなたの願い、成就するを余も願うぞ、と。

——覚悟は決まった。

人の道を、踏み外す。それで、俺は運命に立ち向かうことを誓った。

・素兎の月、19日

意外と機人つてのも悪くない。

そんなことを思ってみた。機械化された箇所は取り外し可能で、そこを義肢で埋めれば人間そっくりになれる。日常生活に支障が出ないのはありがたい。おかげで、これまで通り酒場などにも出入りできる。

巷では、16階で白亜の森への転移装置が見つかったということが噂になっていた。ということは、たぶんいくつかのギルドは既に白亜の森の中で、姫様を守るために行動中ってところか。

深王に確認してみるとたしかにその通り。いまは深都の兵達に白亜の森の探索を任せつつ、様子を探っているところなんだとか。俺たちにも、その手伝いをお願いしたい、と言われた。

……そう言われると断れない。機人化の恩もある。それに、おそらく白亜の森には、「幼なじみ」がいるはずなのだ。

進路は決まった。白亜の森へ行こう。

・素兎の月、20日

16階到達。

機人としての調子はと言われると……だいぶすばしっこさが減ったな、という印象が強い。その代わり、異常なまでに打たれ強くなった。

おかげで、的としておとりになるのにはそこそこ適している印象。けどやっぱ遅い……もうちょっと早くならないものかなあ。

・素兎の月、21日

16階の奥への通路を確保して撤退。

おおよそこまでは予定範囲だ。明日には転移装置にたどり着けそうだな。

・素兎の月、22日

転移装置の前では、激しい戦いの跡があった。

たぶんここで、どこかのギルドと激しい戦いがあったのだろう。

そして、その末にこうなった。いま俺たちが見ているのは、その残滓だ。

ともかく先を急ごう、と思ったときだった。部屋の奥から、ぬるりとへんな貝殻が出てきたのだ。シン——東方の、強力な幻獣だと、

ツスクルが言った。おそらくは海都側と深都側、どちらかが戦力として持ち込んだものが、そのまま残ったのだろう。

で、当然襲われて戦闘になって、勝利。

さすがにこの程度の魔物にはいまさら苦戦しない。介護陣形で周辺を固め、ウルフハウルで防御を崩し、五輪の剣と乱れ竜の陣で順当に戦って勝利。……あれ。俺役に立ってなくね。

まあ、ともかくも白亜の森に到達。幼なじみの後を追おう。

ナシツフテ世界樹日記－11

・素兎の月、24日

いきなり日数が経っているのは、もちろん航海したからですよ？
というわけで、港から連絡があって、以前発注した帆がようやく
できたらしい。そこで、これを使って北と西の通商路を一気に開拓
してやろうということで、まずはアーモロードから出発。ウガリー
トの海流を迂回して北へ行き、大海磁軸に到達。
さあ、待ってろよ大陸。

・素兎の月、28日

北の玄関、アイエイアに到着。

アイエイアは港を荒らす化け物に脅かされていたが、俺たちは偶然にもその化け物を迂回する航路を見つけたらしい。おかげで超感謝された。

とにもかくにも、これでアーモロードは正式に北の大陸との交流を再開した。それを祝してということで宴会に呼ばれたり、世界樹に來たがっていた冒険者の一行と挨拶を交わしたりしていたら、一気に時間が経ってしまった。……限られた時間なんだけどなあ。いいんだろうか。

特筆すべきこととしては、イルミネという北の強力な呪術使いと知り合いになったことだろうか。彼女に呪いのことを相談してみたところ、実にあっさりした答えが返ってきた。殺されるのが呪いなら、殺されなければ解けるんじゃない？ という。

……いや、それは因果が逆転してるだろ。呪いで殺されるんだから、解かなきゃ死ぬ。そう思ったのだが、イルミネの言うところによればそれは違うそうさ。

この呪いの真の対象はあくまで幼なじみであって、俺じゃない。

つまり、この呪いは殺してしまう呪いであって、死んでしまう呪いじゃないわけだ。ということは、俺が幼なじみに殺されなければ、呪いは解ける。

以前の俺なら、生身だったために呪いに抗することは難しかっただろう。ムロツミの例を見ればわかるように、樹海内部の因果律にほとんど介入できなかった俺だ。でも、機人化によって呪いの影響を受けにくくなったいまなら、あるいは。

急速に現実味を増した呪いへの対処法。俺はイルミネに深く感謝し、海都に来たときにはできる限りの恩返しをすることを約束した。のだが、相手はひらひら手を振って、たいしたことしてないからべつにいいよ。と言う。横には相棒のマイトという銃師がいたのだが、こっちも肩をすくめて無反応。淡泊だなあ。冒険者も極めると、これだけどっしり構えた感じになるってことなんだろうか。

そういうわけで帰還。さて、次は西だな。

・虹竜の月、6日

ちよつとベントラとかいう巨大勇魚に絡まれてたせいで遅れたが、無事ウガリートに到着。

これで、海都は西へも玄関口を持ったことになる。以前から、冒険者は世界樹に集うためになんとか苦心して海都に来ていたものだったが、その頃とは比べものにならないくらい人の流れが増えた。有能な冒険者もどんどん入ってきて、どんどん世界樹を開拓するようになった。ずいぶん変わったなあ。

まあ、素人も増えたみたいだけだな。ギルド登録所のおっさんが愚痴ってた。

・虹竜の月、8日

海賊が大挙して大海磁軸を荒らすってんで防衛戦に狩り出される。

今回はカロネード砲という新式の砲塔を積んでもらったので、強大な海賊船相手にも十分な立ち回りができた。おかげでなんとか守ることができて満足。

・虹竜の月、10日

満足じゃねえよ。海賊、思いっきり囷だった。本隊は大海磁軸ではなく、アーモロードそのものを攻撃することを目標にしていたのだ。

んで、かろうじて間に合って、かろうじて撃退。あーもうしつこい連中だな。アジサイ、おまえ昔は仲間だったろどうにかしろよ、と言ったのだが、俺がいたころはあんなじゃなかったと言われた。どーもこいつが抜けてから、変なふうに知恵を付けちまったみたいだなあ……こりゃ、対策が必要か？

・虹竜の月、12日

ウガリート周辺で海賊の大掃討作戦を決行。

結果、奴らの基地はズタボロになり、大半が投降した。どうやら新しいボスとやらがかなりの過激派だったらしいが、そいつは攻められて後がないとわかると自殺しちまった。やれやれ。まあ、これでしばらくは海賊もおとなしくなるだろう。

……ところで。クロスジャンケ、海都側で戦いに参加していたんだが。海賊としてそれはいいのか？ と聞くと、あんな三下と馴れ合う気はねーっつーの。という答え。いずれあたしたちが海を掌握してやるから、それまで待ってろと豪快に笑われた。……まあ、こいつらは野放しでもいいか。

・虹竜の月、16日

本当はもう、樹海に入らなきゃいけない頃なんだが、なんで俺は使いつ走りみたいに航海しているのだろう……

や、まあ、付き合い長い酒場から、指名つきで依頼が来ちゃったんだからしょうがない。しょうがないんだけど。でもなあ。なんでウガリート近海からスキを取りつけてきてアユタヤに届けろなんていう、面倒な任務なんでしょうね？

そんで、まだうろろしていた海賊の残党とどんぱちやったりしながらスキ入手してアユタヤへ。それだけでこんなに時間がかかった。解せぬー。もう二度とこんな無茶はやらん。

・虹竜の月、17日

白亜の森、探索初日。

……なんか怖いカマキリとかいたけど、がんばって倒したよ？

いや、マジ死ぬかと思ったけど。

あいつ斬り攻撃効かないのな。メテオを頼りにするしかないか……

……困った困った。

え、ナチュラルに倒しに行くのはなぜかって？ そりゃ……レンに聞いてくれ。

・虹竜の月、18日

無事18階へ到達。羊の怪物に苦戦しながらなんとか進み、中間地帯的などころでいったん撤退。

つかレンさん。お願いだから撤退を許してください。いくらなんでも毎回羊と戦ってたら死ぬる。

・虹竜の月、19日

……羊4匹撃破。奥への通路を確保して撤退。

マジで一瞬のためらいもなく突撃しやがった……よく生きてたなあ俺たち。レンさんマジばねえっす。

つか次あたりカマキリの大群が来ると日記に書いてある場所なんだが、本気で行くの？

・虹竜の月、20日

本気で行きやりました。はい。

死ぬかと思った。主に俺が。いや、だって、招鳥十雲隠で囨になるの俺よ？

まあ、夜だったのが幸いした。機人化したいまの身体だと闇の中でもぜんぜん苦にならない。ついでに行動の遅さはナナナに先陣の指示を与えられるようになってからおおむね解決した。……初手だけ防げないんだよなー。どうやっても。それさえ防げれば完璧なんだけど。

さて、そういうわけで19階到達。次はどんな無茶させられるんだろうね？

・虹竜の月、21日

あ……アホだ。アホがいる。

レンの奴、明らかにもう無茶なレベルの妖狐相手に、邪魔だどけと言わんばかりに突撃しやがった。んで勝利。たまたまナナナが与えた一撃が頭に当たって相手がひるんだ隙にどうにかしたが、あれがなかったらどうなったか……こえー。マジこえー。

……で、突貫の結果として20階まで到達。なんだこの早さ。

・虹竜の月、22日

また突貫した結果、かろうじて妖狐を倒し、カマキリを倒したと

ところで体力が尽きて帰還。無理にも程がある。つか、こんな苦労したなんて日記には書いてねーぞ……

レンは涼しい顔で、真っ向勝負しないのはできないときだけだ。そしてできないのは実力が足りないときだけだ。我々は実力があるのだから実力で勝負しなければならない。と言っている。いや、まあ、その覚悟はすごいと思いますかね……なんつか、後ろを振り返らない人だよなあ。このひと。

・虹竜の月、23日

残った羊とカマキリを蹴散らし、どうやら最深部と思われそうな場所への道を確保して撤退。

……たぶん、明日が決戦になるんだろう。

世界樹の言った刻限も間近。逃げることはできそうにない。

なら、戦う。

そして顔も覚えていない幼なじみを、どうにか救い出してやるんだ。

・虹竜の月、24日

あんなこと昨日書いておいてアレだが、ツスクルの提案によって一時的に休養を取ることにした。

なんでも、決戦に向けて自分の術体系を組み直したいんだと。タイムリミットまであと少し。ちょうどいいので、俺達も少しだけ休養を取ることにした。

とか言っていたら、なにやってる行くぞとレンに首根っこ掴まれて樹海に放り込まれた。解せぬ。

レン曰く、白亜の森の毒樹の枝材が高滋養の薬の原料になるということで、それを取りに行くから手伝えと。まあ、仕方ないか……

せつかくだから、俺達もスキルを鍛えよう。

というわけで鍛えていろいろ取って帰還。疲れた。

・虹竜の月、25日

まだツスクルの調整に時間がかかっているということで、今度こそ休息を取ることにした。

港に出て、そうして浜辺を歩く。日記によれば、ツスクルは本来、このあたりで記憶を失っているはずだった。それが、どういう縁か因果が変わって、俺達と共にいる。

——ふと。心にひらめくものがあつた。

俺は、ムロツミを救えなかった。それを見て、呪いの効果でなにもしなかったと思っていたけど、それは違う。

ツスクルは少なくとも、なんらかの形で運命が変わっている。それに、ムロツミだって、生き残る人間が逆になっている。

呪いによって、救われなかった者を救うことは、できるはずなのだ。

だとすれば。

俺は、あと他に、誰を救えたのだろうか——？

・虹竜の月、26日

ツスクルから、もう行けると言われたものの、彼女が疲れたままなのはよくないだろうということでもう一日休養を取ることにした。

昨日のアイデアは、まだ頭の中にくすぶっている。

俺の手で、なにかを救えるというのなら。

この呪いは、それほど悪くないのかもしれない。そう思った。

だったら、もし。

もう一度やり直せたら。俺は、さらに悪くないことができるんじゃないだろうか。

それは、とても魅力的な可能性に思えた。

ともあれ、決戦は明日。

万全の態勢で、まずは呪いを解けることを証明しよう。

・虹竜の月、27日

日記に書き残すタイミングはいましかないので、少ない時間を使って書いている。

結論から言うと、俺は新しい呪いを受け、これからおそらく時間をさかのぼる。姫様に伝えられた刻限からすれば、あと一時間ほどか。

望んだ通りになったとも言える。努力と、僥倖のおかげだった。

詳しく説明しよう。20階、最奥の地で待ち受けていたのは、クジュラさん率いる冒険者の一団だった。

そのうちひとりが幼なじみであることは既に想像がついていたが、相手もどうやらこちらには気づいていたらしく、嘘、なんでイシャスちゃんが、とモンクの女の子が言った。……かわいいじゃねーかマイ幼なじみ。なに忘れてるんだ俺。

どうやら、彼女は呪いのことを自覚していて、それによって俺が死ぬことを避けるためにいままで俺を無視していたらしい。だから俺が来たことは相当な衝撃だったんだろう。逃げて、と言う彼女に、しかし俺はかぶりを振った。

——ここでおまえを倒せば、呪いは解ける。だからそうする。

反論しようとした彼女の身体が、がくんと停止する。呪い、とツスクルが言った。どうやら、俺を殺させるべく呪いが本格発動したようだった。上等。それを止めるためにこそ、いまここに俺はいる。残りの冒険者は状況を掴みかねているようだったが、クジュラさんの一喝で場は落ち着いた。状況がなんであろうと、グートルーネ

姫を殺すためにやってきた刺客はこいつらで間違いない。撃退せよ、と叫ぶ。見たところウォリアーとバリスタの彼ら、そして幼なじみが、俺たちに向かって襲いかかってきた。

戦闘が、始まった。

即座にナナナが指示を出す。第一目標はクジュラさんだ。ショーグンのクラスは苛烈な攻撃威力を持つが防御に乏しい。一気にたたみかけろ――乱れ竜の陣。だがその攻撃をクジュラさんは受けきった。直後に幼なじみの回復がクジュラさんに入る。後衛のバリスタはレインフォール。前衛のウォリアーはランページ――つてこれじゃレンが危ない！　と思ったのだが、ぬかりなくアジサイがフォロ―に入る。そしてツスクルの全体術式があたりを叩く。もうこうなったら指揮もなにもない。乱戦になった。

強烈なクジュラさんとウォリアーの連撃に、俺は招鳥と雲隠でなんとか対抗する。レンの五輪の剣とツスクルの術式がうなる。ナナは目標を幼なじみに変更して、少しでも相手の防御力をカットする作戦に出た。結果としてこれは一定の効果を挙げた。アジサイはダークエーテルと回復役で立ち回った。

――勝敗を左右したのは、結局は手数の方だったのだろう。人数で上回っていたことに加え、レインフォールよりツスクルの術式のほうが発射速度が速い。防御力は相手の方が高かったのだが、俺がいたことでこちらの弱点である薄さもカバーできた。やがて体力が尽きたバリスタが倒れ、幼なじみが倒れた頃には、趨勢は決していた。

それでも、クジュラさんは最後まで止まらなかった。

タフなことに定評のあるウォリアーまで倒れたのに、必死で食いしばって立っていた。五輪の剣を受け、術式の直撃を食らい、乱れ竜の陣による連撃をまともに食って、それでも耐え抜いた。

――だが、それにも終わりが来る。

最後に、刀を地面に突き立てて杖のようにしがみつinaがら、クジュラさんは吠えた。吠えて、そして、倒れた。

俺たちの勝ち、だ。

それと同時に、霧が晴れるように過去の記憶が蘇ってきた。
おびただしい屍の山、そこに佇む白亜の森の姫、そして立ち向かう俺たち。

ジロニアが倒れ、シ・フォセが倒れ——それでも、まだ俺たちは諦めなかった。

最後に、俺の影縫から幼なじみの棍棒が相手の急所を直撃し——
息絶える直前、姫君は呪いを放ったのだった。同じ苦しみを、あなたたちも味わいなさい、と。

——なぜ、あなたは立っているのですか。

姫様は……いま、ここにいる姫は、言った。

その身体から、おびただしい量の血が噴き出した。

人を呪わば穴二つ。呪いを返され、姫は本来の死を迎えようとしているのだと、ツスクルは言った。

おそらく、深王も今頃、今際の刻を迎えようとしているだろう。

呪いは逆転し、本来の運命が再現した。

だが、姫様はなおも諦めていなかった。

最後の力を振り絞って、姫様はその力を全開にした。すさまじい力の前に、傷ついていた仲間たちはそれでも立ち向かった。

強力な氷の呪詛に、まず最初にナナナが膝を屈した。それで手数が足りなくなっただけでジリ貧になり、ツスクルとアジサイが相次いで脱落。だがその余波か、レンの目が赤く輝いた。この状態のショードグはすさまじい力を発揮すると知っている。俺は——最後に残ったありったけのハマオをレンに叩き込み、叫んだ。いけ、と。一言。最後の力を振り絞ったチャージからの五輪の剣が刺さり、介錯、という一言と共に、姫様は地面に崩れ落ちた。

それでも。それでも姫様は、足掻き続けた。

——まだ。まだです。もう一度だけなら、呪詛が撃てます。
ボロボロのツスクルが止めた。そんなことをしても、あなたに救

いがなくなるだけだと。

苦しみが伸び、死が身体をむしばむ状況で数ヶ月待たなければいけない。そんな状況が、さらに続くことになる。その後に呪いが成就したとしても、あなたの命はもうないのだと。

だが、それを俺は止めた。

——なるほど。じゃあその呪い、今度はぜんぶ消してやろう。

俺たちが呪いを乗り越えたように。姫様も今度は救ってやる。だから姫様。俺に呪いをかけてくれ。

……ツスクルは、ありえない。と言ったが、止めはしなかった。レンもナナナも。またやり直そうぜと、笑って言ってくれた。姫様は……俺のことを、変わった人ですね、と言って笑った。

このような化け物を、救ってなんになると言うのですか。

そう言われたので、俺はこう返した。

そいつは、救った後で考えよう。

そんなわけでやり直した。

この日記、持って帰れるのかなあ。つーかこの日記が呪いの影響下から逃れたのがなぜなのか、いまいち俺もわかってないんだが。まあ、いいや。なかったらなかったで、どうにかなるだろう。

じゃあ、また始めからやり直そう。

今度は、すべてを救うんだ。

ナシツフテ世界樹日記－12

・皇帝の月、4日

なんかおぼろげながら記憶残ってますよ？

機人化の影響か、とも思ったが、どうやら幼なじみも覚えているらしい。いやまあ、肝心なところは日記見ないとわかんないんだけど。でも、だいたいのは覚えている。

これは都合がいい。ギルド登録所に問い合わせたら案の定、アーカイスの記録があった。それだけじゃなく、やっぱり記憶が微妙に残っていたナナナと出くわし、合流した。

んで、3人でとりあえず作戦会議しようと酒場に行ったらツスクルがウェイトレスやっていた。解せぬ。

ツスクル曰く、呪いによって戻る時刻のさらに前に呪いの自身への影響を察知したらしく、一足先に海都に来てたのだとか。レンの消息を聞いたなら、そっちはアーモロードの外を任せている、だって。んで、ついでに追加情報。調べた感じでは、俺たちみたいに姫様と直接会った人間以外は記憶を持っている者はいないようだ。元老院のぼーさんもそうだった。深王やクジュラさん、オランピアさんは……どうなんだろう。まあ、樹海で会いそうな気がするから、そのときに確かめればいいか。

ナナナにはレンと同じで、外回りを任せておいた。日記の情報と記憶をつなぎ合わせれば、かなり効率的に探索が進むだろう。早いうちにできる限りの仲間になってくれそうな人間を集めておきたい。あと、幼なじみの提案で、幼なじみのほうの仲間たちをギルドに引き入れよう、ということになった。あのウォリアーとバリスタか……名前は、アイノテとワインナーと言うらしい。アイノテはエトリアの古参で、ツスクルとも面識がある相手。相棒がいて、ネイピアの宿と契約してアイテム工房を開いているのだとか。ワインナーは海の用心棒から冒険者に転身した人間で、海賊とも顔が利くん

そうな。

そんなわけで一日が終了。明日からがんばろう。

・皇帝の月、5日

呪いによって巻き戻らなかったのはどうやら日記だけではないよう
うで、装備品や道具などが大量にギルド登録所に預けられていた。

んで、その中にめちゃくちゃ多額の金があって、うひゃー大金持
ちだとほくほくしていたら幼なじみがイシヤスちゃーん新しい盾買
ってきたよ見てみてってまたこのパターンかよ！　もういいんだよ
そんなネタは！

あ、今日アイノテとワインナーに会いました。アイノテはちよっ
と前に怪我したらしくて、まだ身体が本調子でないと言っている。
ワインナーのほうは絶好調のようだが、まだ未熟さを感じた。まあ、
俺たちが会ったのって半年後だしなあ。その頃までには腕利きにな
ってくれるだろうから、焦らず行こう。

・皇帝の月、6日

……残った金額ぜんぶナナナに押し付けるってどうなんですか幼
なじみさん。ねえ。ねえ？

これで人を雇って探索すればずっと早くいろんなところまで到達
できるよって……いや。そりゃそうなんだけどさあ。俺たちはどう
するんだよ。所持金ゼロで。

早くもこの懐かしいノリに慣れつつある身体を引きずって、とり
あえず樹海へ。2階へ進み、クジュラさんとオランピアさんに会っ
てきた。両方とも記憶はなさそうだが、オランピアさんには自分が
機人であることと、フカビトの呪いにかかっている旨を率直に伝え
て、協力を要請した。相手はだいぶ驚いたようだが、そういうこと
なら深王にお伺いを立ててみると言ってくれた。助かる。

・皇帝の月、7日

周囲のなにもかもを蹴散らして爆進。4階でクジラさんに止められるまで進んでようやく帰還。

まあ、この辺で苦戦するはずもない。なんか昔の日記だとオオヤマネコとか鳥におびえてた形跡があるんだけど、ご冗談でしょうって感じた。攻撃なんざ当たらないし当たっても痛くないし。なんでこんなんに苦戦していたんだろう？　ぶっちゃけ1人でも行けるよな？

・皇帝の月、8日

ぶっちゃけ1人でも行ける、と言っていたら、幼なじみにじゃあ行ってきた、と言われた。解せぬ。

……またこの賭けかよ。ナルメル1人退治の賭け。10000エンくらいは儲かるからがんばってねイシャスちゃん！　とにっこり笑顔で追い出された。ちくしょう。

で、死ぬ気で出発してなんとか制圧しました。途中の鹿がけっこううっとおしかったけど、まあ、到着してしまえばたいして怖い相手でもない。

そういえばムロツミに会ってねえな。まあ、これだけ速攻で行けば当然そうなるだろうが。

元老院からはものすごい絶賛された。これほど早く4階の試練を突破した冒険者はここ100年で見たことがない、だって。……年がばれるぞ。ばーさん。

・皇帝の月、10日

ナナナからヘルプ。航海に当たっているいろいろな邪魔している魔物がいるので、主要なだけでいいから退治するの手伝ってくれだとか。しょうがねえ。やるだけやるか。

で、まずは近場の灯台に巣くってた鳥を、有志と協力して撃破。これでアーモロード周辺の航路はかなり安全になるだろう。

・皇帝の月、14日

バダビアに足を伸ばし、現地の冒険者たちと協力して魔物を撃破。これも前回と同じような展開。これで南側の航路がかなり安定する。それにしても、レンとツスクルは以前にも増して強力になってるな。どうやら、今回のことを察知して以来、ずっと修練に明け暮れていたらしい。おかげで、並の冒険者では及びもつかない強さになっていた。

・皇帝の月、18日

今度はアユタヤでサメ討伐。これも楽勝で撃破。レンの介錯が冴える。

ただ……やっぱアイノテとウィンナーは即戦力とは行かないな。特にウィンナーは打たれ弱い。と言ったら、イシャスちゃんそれは装備代をけちっているからだよと幼なじみに諭された。うるせえ。誰のせいで金がないと思ってやがる。

・皇帝の月、24日

大海磁軸を発見。その足ですぐにシバに到達して、海流を操る魔物を撃退。

そうそう。ジロニアと合流を果たした。相変わらずすぐ血を吐く相手だったが、記憶はやっぱり多少残っているそう。協力を約束

してくれた。今度機会があつたら頼もう。

・皇帝の月、26日

ふたつ目の大海磁軸に到達。

港のおっさんからは、なんでそんな速度で探索できるんだと言われた。そりゃ……まあ。ぶっちゃけ、ズルしてるからなあ。記憶もあるし装備も充実しているし。とはいえ、害にはならないだろうからまあ、そのへんは任せてよ。と言っておいた。
さて、次はダマバンドかな。

・笛鼠の月、2日

ダマバンド到着。封印が解けようとしている三首竜に挑み、再封印に成功。

これでかなり海都の交易範囲は広がったが、ま、もののついでだ。北と西との交易路を確保する仕事をやってから、樹海に戻ろう。

・笛鼠の月、4日

みつつ目の大海磁軸を確保して撤退。

あとはアイエエアとウガリートだな。さっさと行ってしまおう。

・笛鼠の月、8日

アイエエア到着。北との通商路を確保して撤退。

もう港のおっさんからは神仏の類みたいな感じの扱いを受けた。

まあ……ズルしている身としては少々心が痛むが、いいや。そのままにしておこう。

次はウガリートだな。

・笛鼠の月、12日

ウガリートに到着して撤退。

これでおおむね、いまの海都に対して俺たちが復旧できる交易路の大半は制覇したことになる。勝利の塔や遺跡やトルトゥーガ島などの一部の行ってない場所はナナナに任せ、俺たちは樹海探索に戻ることにした。

とりあえず、まずは深都を目指そう。

・笛鼠の月、13日

6階まで進出したところ、オランピアさんと再会。

彼女は、深都で王と会う許可はもらったと言ってくれた。おかげで、無難に進むことができそうだ。ケトスや深都と事を構える必要もなく。これはありがたい。

というわけで、海流を止める海珠をもらって撤退。明日からは7階だな。

・笛鼠の月、14日

うっかり道を間違えて古代魚地獄の中に放り込まれたときの絶望感と言ったら。

いやあ……呪いがね。痛いんだよねあれ。もうちよつと早く行動できればいいんだけどなあ。

というわけで撤退。くそう。

・笛鼠の月、15日

深都に到着。

深王と面会し、事情を説明する。深王はすでに事情を聞いて知っていたはずだが、それでも驚いたようで、一日考える時間をくれと言った。

それで宿に案内され、泊められていまに至るわけだが……さて。これからどうするか。

深王と姫様を助けると言ったのはいいものの、方策にはたいした心当たりがあるわけでもない。

ただ、ひとつだけ。手がかりになってくれそうなものがある。

――フカオ。

あの、フカビトの王子だかなんだかという、あいつなら、呪いの性質についても熟知しているはず。

なら、そこを当たるのが、まずは近道だろう。

……ちゃんと教えてくれるか、それは賭けだけれど。

・笛鼠の月、16日

深王からは、フカオと会う許可と、それから冒険者を深都に立ち寄らせる許可を頂いた。

元老院にそれを報告したらものすごい喜ばれた。こっちはこっちの都合でやったことなだけどな……まあ、喜ばれて悪い気はしないので、いいか。

それで多額の報奨金をもらってほくほく……なんか嫌な予感がして幼なじみを捜したら案の定いない。慌ててネイピア商会に行ったが遅かった。みてみてーイシヤスちゃんワインナーさんの新しい鎧だよー……あのなあ。うん。新しい鎧。それはいいんだ。残り所持金26エンで。どーすんだよこれから。

・笛鼠の月、17日

金がないということは樹海で金を稼がなければいけないというこ

とだ。というわけで、フカオくんに会いにれつつごー。

……なんでアリの巣に迷い込んでるの俺たち。解せぬ。

はい死ぬ気で倒しました。マジでどうしようかと思ったけど、ころうじて。ツスクルが周囲のアリを焼き尽くしてくれたおかげだなあ。つーかツスクル強いなあ。俺はただがんばって敵を引きつけて避けてただけだったけど。

そんなわけで撤退。くそ。次こそは。

・笛鼠の月、18日

蛇を蹴倒し竜をぶちのめし、やってきた10階の奥で、俺たちはフカオと会うことができた。

フカオは、俺のことをしばらく興味深く見つめていたが、で、なんの用だって？

と聞いてきた。

なので、俺はふたつの日記を見せながら、状況を説明した。呪いを解くためになにをすればいいか教えてくれ、と。

フカオは肩をすくめて、

そもそも、呪いで誰かが救えるなんて初耳なんだけどね。

と言った。……いやあ。俺だって半信半疑だけど。

でも、俺は俺自身を救うことができた。なら、それ以外も救えるんじゃないのか。

と言ったら相手は苦笑して、

その日記の内容を信じればそうだけど、僕には信じられないな。なので、ちょっと実験させてもらえるかい。

と言った。

フカオの言う実験とは、要するに俺たちが運命を変えられるか、実際に試してこいという話だった。

なにを変えるかは君たちに任せるよ、と言われた。……うーん。

そんなこと言われても、具体的になにを変えればいいか――

ムロツミ。

ピンときた。あのふたりを助けられれば、運命を変えられるまたとない証拠になるだろう。

どうすれば変えられるか。要するに、直接護衛して守りきればいい。のだが、四六時中見張っているわけにもいかない。

ただでさえ、アガタは単独で行動することが多いんだし、足取りもつかみにくいし……待てよ。

要するに、あいつらが死んだのはいつも6階の、深海魚の巣のはずだ。

なら、あいつらがあそこに寄りつかないようにすればいい。

寄りつかないようにするためにはどうすればいいか？

用があるのはどうせ一度だけだ。そのタイミングだけ守ってやれば、行けるんじゃないか？

方針は決まった。

明日、ムロツミにコンタクトを取る。そうして、6階の例の場所までの護衛を申し出よう。

断られたら断られたで、こっそりついていけばいい。どうせ、あいつらは情報さえ得ればぜったいあそこに行きたがる。だから、こっそり守りければそれでいい。

ともかく、やってみよう。たぶん、俺たちにならできるはずだ。

・笛鼠の月、19日

ムロツミ見つからねええええええええええ。

考えてみれば、今回の俺たちとムロツミの連中には直接面識がない。だからコンタクトの方法もない。ついでに言うアイノテとワインナーは奴らの顔を知らないわけで、いきなり調査は暗礁に乗り上げた。

……暗礁。

ならアレだ。知ってる奴を呼ぼう。というわけで港で航海の指揮をしていたナナナを呼び寄せて依頼。自称ジャーナリストのナナナは、よっしゃー任せとけ半日で探し当ててやるって言って出ていった。……大丈夫かなあ。

なお、今日初めて知ったが、ナナナの師匠はアイノテと昔同じギルドだったらしい。カチドキというらしいが、だいたい似たような性格のお調子者だったと。……類は友を呼ぶ、と言ったら抗議された。それだと俺まで一緒になるだろうって。いや、でも、なあ？

・笛鼠の月、20日

ナナナから連絡があって、ムロツミは既に6階に向けて出発しただあああああ！ あのマ鹿ども！ なんでこんなタイミミングで無茶やるんだあああ！

というわけで必死に追いつがる。ワニを蹴散らし古代魚を蹴散らし、やっとたどり着いたその場所で、アガタとカナエが大量のフカビトに囲まれて……おい。なんでフカビト出てきてんだここに。解せぬ。

はい死闘になりました。そしてかろうじて勝利。ツスクルの連星術と、ワインナーのレインフォールが超強力で、おかげで見る見る相手が減っていった。

それでも、大物は俺たちで引きつけるしかなかった。雲隠と招鳥で俺はみんなをサポート。幼なじみは回復を担当。強敵への一撃はアイノテの斬撃。……驚いた。急造パーティーのわりに俺たち、けっこうバランスがいい。

最終的には体力もかなり尽きてきたところでなんとか敵殲滅終了。アガタとカナエに無茶すんなマ鹿と一喝し、帰還。三回目にして初めて、ムロツミを守りきった瞬間だった。

――さて。

これで、フカオの奴は納得してくれるかねえ？

ナシツフテ世界樹日記―13

・笛鼠の月、21日

フカビトは、呪いを成就させるために使わされたんだろうね。フカオは言った。その顔には、好奇の表情が浮かんでいる。

それを撃退した――つまり、力尽くで、呪いの成就を妨げたわけだ。機人化のおかげもあるだろうが、それにしても人間の力というのは素晴らしいな。

……そんな感想はいいんだっての。それより、姫様のほうを助ける手段はないのかよ。なんか知恵出せ。知恵。

言うと、フカオは肩をすくめた。

――そりゃあ、簡単だ。グートルーネがフカビトの力を得て呪いを行使したところからこの因果は始まっている。

なら、フカビトでなくせばいい。

それだけだと、彼は言った。

……どうやってだよ。と言うと、フカオはあくびをして、

世界樹に聞けば？

と言ってきた。……なるほど。そりゃ合理的ですな。

でも姫様まで機人化しろって言われたらさすがに実行不可能だぞ……と思うのだが、フカオには別の算段があるらしい。

白亜の供物。

伝説にある、世界樹が大異変の際に降らせたという奇跡の産物だ。それがあれば、あるいは奇跡が起こるかもしれない。

元々、魔と世界樹は同格。ならば、魔にできることは世界樹にもできる。魔が歪めた因果を正すことも、世界樹にはできる可能性がある。ある。

一応、目標は立った。白亜の供物ね。できる限り調べて、やってみよう。

・笛鼠の月、22日

動員できる全員を使って、白亜の供物についてありったけの情報を入手しようと試みるも、不発。

なんだかナナナの奴も忙しそうで、微妙に頼りにならないんだよなあ。……まあ、本来は港の取り仕切りを任せているわけで、あんまり働かせるのも悪いって言えばそうなんだけど。

知識において比肩ないツスクルも、白亜の供物についてはろくに知らないそうだ。

というか、ツスクルのほうはどちらかというと、この解決策にも疑問があるという。彼女曰く、力で解ける呪いなら、さらに大きな力で解けばいいのでは、と。

さらに大きな力ってどういうことだよ、と聞くと、彼女は、呪いの根源は「魔」と呼ばれるなにかにある。なら、「魔」を倒してしまえばいい。

と、言う。……魔、か。フカビトを統べる、世界樹の宿敵。

そんなのに勝てるのか、と聞いたが、ツスクルは笑って言った。

大丈夫でしょう。私とレンは一度、そのような存在が人に倒されるのを見ている。

そうでしょうアイノテ、と言うと、横で剣を磨いていたアイノテは、まあな、とうなずいた。

——かつて、エトリアにて。彼の地の樹海を統べる恐るべき生き物を、アイノテは仲間たちと一緒に撃破したという。

俺にできたんだから、おまえにできないって事はないだろう。そう言っ、アイノテは笑った。

……そんなインスタントな話でもないと思うんだけどなあ。

ともかく、ツスクルによればさらに力を得る手段を用意した方がいいと言う。彼女曰く、この海のどこかに、宙に浮いた樹海が存在するという。その力を得れば、あるいは。

まあ、なんだっていい。いまはできることをしよう。調べ物の合

間にそういうのを探すのも悪くない。

・笛鼠の月、23日

空中樹海の話ナナナにしたら、心当たりがあると言われた。

なんでも、第三の大海磁軸からアイエイアに向かう途中の航路で、どうしても通り抜けにくい海の難所があるらしい。強力な海流と渦潮に守られ、あたりに海賊まで出沒するその海域の中で、宙に浮く島を見たという船乗りが多いんだとか。

……なるほど。もしかすると、そこになにかがある、か。

まずそこに行ってみよう。間違ったら間違ってたで、難所の海図を作る作業には意味があるだろうし。

・笛鼠の月、25日

回り込んで行こうとしたら渦潮に飲み込まれて撤退。くそー。

・笛鼠の月、27日

今度は海賊とドンパチやってたら食料の備蓄が尽きて撤退。ぐぬぬ。なかなか進展せぬ。

どうせならアイエイアのほうを拠点としてやってみるか？

・天牛の月、3日

アイエイアに立ち寄った俺たちを待っていたのは、怒濤の勢いで攻め寄せてくる恐るべき魔物の姿だった。

スキュレーとかいうそいつは、大異変以降ずっとこの街の付近を荒らし回っている魔物だという。俺たちが航路を開発したせいで港がよく使われるようになって、それに刺激されて出てきたんだろう

か。ひどく迷惑な話だ。

で、老兵士グラウコスと、たまたま天体を観測しに来ていたカストルとポルックスの兄弟、そしてなぜかいたペイルホースの連中と一緒にになってがんばって戦い、かろうじて撃破。ツスクルの雷撃がすべてだった。相手の攻撃は基本的に俺とグラウコスが呼んだ剣虎が引き受け、そうして余った時間を使ってツスクルがひたすら雷を叩き込む。しばらく強固に抵抗していた魔物、スキュレーだったが、最後には悲鳴を上げて海中に没し、それ以降出て来なかった。

図らずも、北の海路の安全を確保してしまった俺たちだったが、本題はちつとも解決してねえ。空中樹海。そいつを探さないと。

・天牛の月、5日

がんばって海流に乗って進んだ先が見慣れた大海磁軸だったときの絶望感といったら。

くそー。負けねえぞ。

・天牛の月、7日

海流をかき分けかき分け、ようやくたどり着いたそこに、空中に浮く樹海があった。

不思議なことに、そこにたどり着くと俺たちの頭に、声が響いた。要約すると、三竜とやらを倒してきたら相手してやってもいい。以上。ということらしい。なんだその三竜って。と思ったが、ツスクルには心当たりがあるそうだ。曰く、偉大なる赤竜。曰く、氷嵐の支配者。曰く、雷鳴と共に現れる者。この3つの巨竜のことを言うらしい。

……また厄介な、と思ったが、言わないでおいた。そのまま放置しておいても害になるわけじゃなし。もし時間が空いたら挑戦するのでもいいし。

で、その三竜ってどこにいるのと聞いたたら、ツスクルが水晶玉をのぞき込んで一言。アーモロードの樹海。マジですか。解せぬ。

……唐突にはち合わせとかしたらやだなあ。そんな強力そうな魔物。

・天牛の月、8日

帰港してナナナからわかった情報を聞いたところ、どうやらあの樹海にはエルダードラゴンという強大な竜がいるらしい。その竜は人間に興味を持ち、試練を与え、その試練に打ち勝ったものに莫大な力を授けるそうなの。

なるほどなーと聞き流しつつ深都の方に顔を出す。こっちには白亜の供物について聞いておかなきゃいけない。深王に直接当たってみたところ、自分の記憶にはないが、かつてそれを手に入れようとしていたことがあるとオランピアから聞いたことがあるという。そのオランピアからは、供物のカケラだという粉のようなものを渡された。

深王はかつて、これを集めていたそうなの。だが、戦いで傷つき、記憶を失うに従って、それもなくなくなった。

——記憶を失う前。

つまり、妹姫のことを認識していた頃ということだ。

だったら、なにかしら使えるかもしれない。俺たちは、ありがとうくもらっておくことにした。

その代わりに深王から依頼。クジュラさんがゲートキーパーを突破して深層に移動したので、追ってほしいとのこと。

いいだろう。彼にも、聞きたいことがある。

・天牛の月、9日

突然だがワインナーが切れた。

いやもう、唐突に。うしゃーおいら影が薄いでごわすなんとかしてくれイシャえもーん！ ……ヤバい。あまりの目立たなさに無理やりキャラ立てしようとして失敗した感が壊れた口調からにじみ出ている。このままだと爆発しそう。

仕方ないので今日はワインナーのキャラ立てを考える会というところで、みんなが集まって作戦会議。で、要するになにがダメかという、使えるでも使えないでもないその微妙なポジションにあるんじゃない？ という事になった。

参考までに、試しに一騎打ちをした結果。俺×…雲隠に相手が対抗できないので楽勝。幼なじみ○…レインフォールと通常攻撃で押し切れる。アイノテ×…なにもする前にブレイドレイヴで瞬殺される。ツスクル×…惜しいタイミングだがやっぱりエーテル圧縮術式に勝てない。レン×…なにもする前に五輪の剣でryアジサイ○…こいつは単体戦闘能力が弱すぎる。ナナナ○…こいつに負ける戦闘職などいない。ジロニア×…やっぱり前陣迫撃砲術の圧倒的な火力が痛い。シ・フォセ○…お互い通常攻撃がメインなので、火力でごり押せる。

……うーん中途半端。特に、キャラが被りがちなツスクルに能力で惨敗しているのが痛い。と言ったらすげえ落ち込んだ。……まあ、ジャイアントキルもあるし、明日があるさ明日が。と言ったのだが、やっぱりワインナーは納得いかない模様。私もすごい力が欲しい！ と叫んだところ、ツスクルがぼん、と手を打った。

—なら、いい考えが私にあるのだけど。

というわけで、しばらくワインナーはツスクルと修行することになった。さて、どうなることやら。

・天牛の月、10日

レインフォールなんて諦めてメテオを覚えろってどういことな

の……

や。まあ、使わなかったけどさレインフォール。どうせダークエーテルが必要なら最初から消費が大きいのがいいってのもわかるけどさ。でもぶっちゃけ、ワインナーの器用さじゃメテオなんて満足に威力が出ないんだけど？

と言ったが、ツスクルによれば彼女の作る秘薬を毎日飲み続ければ威力が出るのは時間の問題らしい。……そんなもんなんですか。まあ、いいや。

といってスルーして探索に出ようと思ったら幼なじみが、みてみてイシヤスちゃんワインナーさんの新しい弩砲だよーって……なあ。おまえそれいくらしたの？ 割引券使って15万エン？ 貴様ああああああ！ 800エンしか残金ねーじゃねーか！ どーするんだよマジで！

・天牛の月、11日

まあ、とりあえずワインナーはいいだろう。新型弩砲を使えば通常打撃で十分な威力があり、エーテル圧縮パラージの威力はすさまじいものになる。悪くはないんだ。メテオが死んでるだけで。

問題は俺たちのほうで、素で金がありません。というわけでクジュラさんを追いがてら金策の旅に。進めるだけ進み、14階の奥まで進んで撤退。

さて……クジュラさんはどこまで進んだのかねえ？

・天牛の月、12日

今日も進めるだけ進み、16階の奥までの道を確保して撤退。

これだけ進んでもいないっていうことは、やっぱり転移装置まで行ってるっばいな……ちよつと出遅れすぎたか？

・天牛の月、13日

クジユラさんは、転移装置の修復作業をしている途中だった。
なにやってるんですか、と聞いたら、アマラントスの花を探しに
来たら深都の兵に追われて、さしあたりここからなら帰れるかと思
って、と言う。……あー。そういえば最初の日記に書いてましたね。
そんな花のこと。

で、おまえはどちらの味方だ、と言われたから、どちらの味方でも
ないです。と答えた。姫様を人間に戻すために白亜の供物を集めて
ます。とも答えておいたのだが、それがどうやらクジユラさんの
には気になったらしい。

——それでこのくだらない諍いが収まるなら、俺も協力しよう。
そう言って、クジユラさんはなにやらお椀のようなものをくれた。
なんでも、これは姫様から下賜されたもので、かつて白亜の供物を
手に入れようとしていた頃に集めたものだとか。

これだけあれば、あるいはどうにかなるかもしれない。またフカ
オに相談してみよう。

・天牛の月、14日

深都に戻ったら、深王は不在だった。

自ら、クジユラさんの追撃に向かったのだとか。……うわーなん
か嫌な予感がする。と思ったが、とりあえず言わないでおいた。代
わりにオランピアさんから、フカオの牢へ入る鍵を譲り受け、10
階へ。

フカオは、相変わらずふてぶてしく不遜な態度で、しかし俺たち
を歓迎してくれてはいるようだった。

集めたものを見せると、フカオは満足げにうなずいた。

それだけあれば、僕の力で白亜の供物は再現できる。

そう言って、彼はお椀に粉を入れ、しばし不可解な操作をすると、

やがてお腕には白いぷるんとした何かが詰まって現れた。

——それを持っていくといい。グートルーネと、それからついでに機人の王も、助けられるだろう。

フカオは、そう言ってから急に、俺の腕に手を伸ばした。

印を付けておく。グートルーネが人に戻れば、僕はフカビトの王に戻る。それを止められるのは君だけだ。

そう言って彼が手を離すと、そこには見慣れない印が確かに付けられてあった。

……止めるって。なにするんだよ。

と聞いたのだが、フカオは黙って答えない。

しょうがないから、代わりにべつのことを聞いた。前々から気になっていたこと。なんでおまえ、姫様の名前知ってるの？

答えは期待してなかったのだが、意外にもフカオは素直に答えた。

——だって、彼女は僕の、たったひとりの友達だから。

ともかく、白亜の供物は手に入った。

白亜の森へ急ごう。そこに姫様は、そして深王もいるはずだ。

・天牛の月、15日

唐突だがアイノテが腹壊してダウン。

なんか酒場で度胸試しに食ったものが悪かったらしい。仕方ないのでピンチヒッターとして、ジロニアをお願いしてみたところ快諾した直後に血を吐いた。解せぬ。こいつの芸風も変わらん。

そんなわけで17階をあっさり踏破。次は18階だな。

・天牛の月、16日

18階の奥に行こうとしたところを、強大な竜に阻まれて失敗。なんだあれ。日記にはあんなもん書いてなかったぞ？ と言った

ら、ツスクルが教えてくれた。あれは氷嵐の支配者。三竜の一つだ。
と。

……なんでそんなんが。ええい厄介なと思いつつも、迂回して行ける道はないのであった。仕方ない。腹くくって戦うしかないか。

・天牛の月、17日

し……勝利。ぐふっ。

いやあ。マジやばいつてあの竜。タフなことタフなこと。攻撃そのものはほとんど封殺したんだが、こっちの攻撃が通らない。ジロニアの術で防御バリアーを毎回はがしてやらないとどうにも。

攻撃はショックアームズを使ったワインナーの砲撃と、ツスクルの術が主力。幼なじみは回復専念。肝心の俺は、招鳥十雲隠で逃げの一手。あの竜の攻撃をぜんぶ引き受けてぜんぶかわすだけの簡単なお仕事でs……簡単じゃねーよ！ マジ怖かった。誤射一発で死ぬんだぜ？

まあそれでもなんとか勝利。そして即撤退。もう体力がまるでありませぬ。なんかツスクル曰く、竜を倒したことで我々の力の限界値が引き上がったらしいのだが、それを確認する余裕もない。あー疲れた。

なお、今日以てアイノテが戦列に復帰。ジロニアの代わりに戻ることになった。……竜を華麗にかわしやがったなこいつ。いいけど。ジロニアがいなければ竜に勝てなかったのは事実っぽいし。

・天牛の月、18日

19階を探索中。

招鳥十雲隠の威力を再確認。いやあこれすげえ強いわ。道を歩いてるでかい妖狐がザコになる。

おかげでさくさく進み、20階への通路を確保して撤退。いよい

よラストかな。

・天牛の月、19日

同じ戦法がカマキリにも効くことを確認。

俺が怖いことを除けば無敵だなこの戦法。というわけで無難に20階の奥に移動。そろそろ深王に追いつけるんじゃないだろうか。

・天牛の月、20日

白亜の森の奥で、俺たちはいまにも戦闘を開始しようとしている深王と姫様に出会った。

あいやその戦闘待たれよ、と言って割り込んで説得開始。まずはなにも言わずにこの白亜の供物を召し上がってくださいな。そう言ううと姫様は素直に従い、深王も最初は渋っていたが、やがて諦めて口にくれた。

——そうして、姫様はフカビトから人間に、深王も機人から人間に戻った。

とりあえず後のことはふたりでどうにかしてもらうことにして、俺たちはいったん帰還した。

……が。ツスクルが言うには、これで終わりではないらしい。

なんでも、俺にかかった呪い。これがまったく解けてないんだとか。なんだ。と言ったのだが、ツスクルにはわからないという。姫様は確かにフカビトではなくなったので、フカオが嘘をついていたという線はないと思うのだが。はて？

・天牛の月、24日

なんで日数が飛んでいるかと言うと、もちろん港に（ry

今回はウガリートの海竜が急に暴れ出して交易に差し障りが出る
んでどうにかしてくれという依頼。なんだなんだ。三竜の次は海竜
かよ。と思ったがとりあえず直行してみたところ、たしかにやばそ
うな竜に襲われていた。こりゃあダメバンドの三首竜どころの話じ
やないぞ……

んで、がんばって撃破。一緒に戦ってくれたのは酒場常連の姫系
（笑）とおっさん、それと海都から派遣された兵士とその案内の海
賊。あと西側からいまさらやってきたという冒険者のスクワイヤさ
ん。……正直みんな役に立たなかった。最終的には、俺が前衛で招
鳥十雲隠で粘っている間にツスクルとワインナーがなんとかする方
向に。解せぬ。この戦法怖いから嫌いなんだけど。

ともかく、なんとか脅威は除かれた。ウガリートのひとたちに超
感謝されつつ港を後に。港で小耳に挟んだ噂によると、いろんなと
ころでもめ事を解決してきた結果、俺たちアークアイスは交易の守
り神ってことになっているらしい。守り神で。ちよっと派手に活躍
しすぎたかなあ。

・天牛の月、25日

ともかく、呪いを解かなきゃなんともならんということでツスク
ルに頼んで占ってもらった結果、フカオがああな牢獄を出て16階に
いることがわかった。

……なんでそんな面倒くさいところに。と思ったが、ともかくあ
いつにもう一度聞いてみるしかないか。望みは濃いのか薄いのかわ
からないが、行動しないことには始まらないしな。

んで、16階の指定されたポイントに行き、大量のフカビトに襲
われていったん撤退。解せぬ。あんな量いままでどこにいたんだ。

・天牛の月、26日

がんばってがんばってがんばって進み、奥への通路を確保して撤退。

いままでほとんど現れなかった、巨大フカビトが大量に現れるようになったことにちよつと危機感を覚える。やばいなー。なんか本気で危ないことが起こっている気がするなあ。

・天牛の月、27日

16階、神殿の奥。なにかを祭っていたとおぼしき巨大な空間の中に、フカオはいた。

おい。どういうことだ。呪いは解けてないぞ。と聞いたのだが。解けるはずもない。グートルーネのフカビトとしての成分は、既に僕が吸収した。

と言った。……おいおい。聞いてないぞそんな展開。

フカオは祈るように、上を向いて述懐した。かつて、ある姫君と友になったこと。その友情と、フカビトとしての使命との間で揺れ動いたこと。

使命ってなにさ。と聞いたら、もちろん世界樹と海都を滅ぼすことさ。と答えが返ってきた。

だがそれも終わり。姫は人間に戻り、僕はフカビトの王に戻った。全能なる父、異海の母たる座に戻ったのだ。

だから、僕は迷いなく使命を果たす。……まずは、その邪魔になりそうな君たちから、滅ぼさせてもらうよ。

そう言ってフカオは――泣きそうな、笑い顔を見せた。

戦いが始まった。

すさまじい勢いで、火や氷や雷が荒れ狂い、打撃や斬撃や突撃が入り乱れる。その攻撃に、俺たちは防御重視で立ち向かうことになった。基本はツスキルが攻撃を与えるに任せ、残りはほぼ全員で補助に回る。危なくなったときに備え、幼なじみは全力で回復。俺は攻撃の引きつけ役。

嵐のような敵の攻撃だったが、鉄壁の防御を抜ききることはできなかった。ゆっくり、ゆっくりと形勢はこちらに有利になっていき、やがて放ったツスクルの強力な雷が、相手に突き刺さってすべて終えた。

俺たちの、勝ちだ。

——負けた、か。

フカオはそう言って笑った。なぜだか晴れやかな面持ちだった。だが、これもまた定めなのだろうね。人間との友情を求めた僕の、避け得ない定めだ。

さあ、とどめを刺してくれ。イシャス——そうすれば、呪いは解ける。

そう言ったフカオに、俺は背を向けた。

もう、こいつに用はない。情報は揃った。

おい、どこへ行く？ と聞くフカオに、俺は投げやりに答えた。
いや。だっておまえ、使命とやらで海都を壊さなきゃいけないんだろ？

そいつは困るからさ。使命とか与えてるクソ迷惑な「魔」とやらを、ぶちのめしてこようと思って。

フカオは狼狽したようだった。そんなことができるわけではない。だいたい僕を放っておいたら回復して必ず人類に仇なすぞ。それでもいいのか。

俺は言った。うるせえ黙れ。

元から、俺は今回こそぜんぶ救う気でここにいるんだ。ぜんぶだ。姫様だけじゃない。深王だけでもない。ぜんぶだ。その中にはおまえも含まれている。

なあ、フカオよ。人間であつたグートルーネ姫さまと、おまえは友達になれたんだろう？ ならさ、フカビトと人間は、共存していいはずなんだ。

それを神が許さないってんなら——やってやるさ。神殺し。

フカオはぽかんと俺を見ていたが、やがてクククと笑った。
ひどい傲慢さだ。人間なぞが、あのお方に敵うものか。

俺は答えた。元より、謙虚でいようなんて思っていねえよ。樹海を切り開き、自然を屈服させ、大海原を征服する人間の営みが、傲慢でないはずがない。

フカオは言った。そんな傲岸不遜な、君はいったい何様だい？
だから俺は、とっておきの答えを返すことにした。

——冒険者、さ。

そんなかつこいい答えをして帰ってきたら、幼なじみがみてみて
イシヤスちゃん新しい短剣だよってうわあメモエ泊まる金がギリギリ
じゃねーか！？　なんで俺毎回こんなに追い込まれるの！？
と聞いたら、幼なじみは冒険者だからだよ、と答えた。解せぬ。

ナシツフテ世界樹日記－14

・天牛の月、28日

てんやわんやでがんばっているうちに、深王と姫様は海都を離れてしまったらしい。

まあ、寂しいがこれも運命だ。100年もの歳月は、彼らには重すぎたんだろう。いったん離れて暮らすというのも、悪いことじゃない。

また、出会える日を夢見て。さようなら。

というわけで、俺はさっそく残ったオランピアから魔の情報を聞いてみた。

なんでも、白亜の森の転移装置が魔の住処に繋がっているらしい。マジかよ。海都ピンチじゃん……と思ったが、封印してふたをするために清浄な白亜の森を利用しているのだ、ということ。つまり、白亜の森に行けばいいんだな。ということであれっつごー。

……キモい。なんか樹海なのにタコの足とか生えてる。ときどきぴくぴく動いてる。これは精神に来るわー。

まあ、とりあえず探索は明日からということ、世界樹が用意してくれた樹海磁軸を確保して撤退。ちょっとだけ金稼いでおいたんで今日も泊まります。なにこのギリギリ人生。

・王虎の月、1日

すげえ苦戦しつつ、21階の地図を作成していく。大変だが、これが済めばずっと楽になると信じて。

……楽になるといいなあ。

魔獣はやっかいなのばかり。うかつに長時間戦っていると強敵乱入あり。もう勘弁してください。

というわけで撤退。くそー。

・王虎の月、2日

えー唐突だが酒場の依頼で横やりが入ったので今日はべつのお仕事です。

まあ、たいした用件じゃないらしいけど。ちょっと雷鳴と共に現れる者を倒してこいって無茶言うなあああああ！ 誰だたいした用件じゃないって言った奴！

依頼主はリンドブルムさんと言って、ある国の姫君が夜な夜な竜の夢を見てうなされるといので、元凶を退治しにきたのだとか。で、1人で行ったものの返り討ちにあっていま治療中。……無茶も極まらないわ。1人で竜なんか倒せるかよ。

で、やってきました。撃破。

なんか敵の攻撃がびしびし当たって無闇に痛かったが、まあ撃破できたから文句は言うまい。主砲はやっぱリツスクル＆ワインナー。……最近、アイノテの影がみるみる薄くなってる気がする。強いはずなんだけどなあ。

そんなわけで依頼も果たし、リンドブルムさんも満足したようになにより。明日はまた探索に戻ろう。

・王虎の月、3日

なんかアイノテが地味なんですけどー。とレンに相談したら、それはパーティ構成のせいだろう、とぴしゃりと言われた。

……まあ、確かに。うちのパーティ、後列が火力で前衛が防御つてのがはまってるから、前衛火力のアイノテは地味に浮いてるんだよな。

そのへんはぼちぼち考えていくべと思って今日も探索。樹海の端の端まで行き着いたと思ったらそこに箱があって、開けてみたらそ

ここにあったのはネイピア商会の割引券。……何故に。あの商会、実はかなり謎な存在だよな……

ともあれ中間地点を確保して撤退。まあ、構造さえつかんでしまえばさほど21階は怖くない。見た目がキモいけど。

・王虎の月、4日

変な化け物に乱入くらってひどい目にあったりしながらも、なんとか22階到達して撤退。

こうして歩き慣れてくると、この樹海もそれほど脅威でもないな。たしかに敵は手強いが、無理な感じではない。

ちなみに22階はなんか入ってすぐ目の前に下り階段があったが……うわー畏くせえ。いいのかなあこっち行つて。

・王虎の月、5日

なんか行方不明者が出たとかいう話で、搜索を手伝わされることに。

場所は11階。なんでも、よくわからない地図を片手に探索に行くと言っていた遠国の冒険者が、朝になっても戻ってこないのの様子見てこいとのこと。まあ、こういうときは持ちつ持たれつなんで行くことにした。

そしてその結果偉大なる赤竜と戦うはめに。解ーせーぬー。なんだこの展開。

脅威の咆吼を必死でかいくぐりつつ、がんばって撃破。やっぱり火力はツスクルが一番だな……というか、実はアイノテよりジロニアのほうが安定するんじゃないかこのパーティ。と言ったらアイノテがなんかしょんぼりしていた。……悪いこと言ったかなあ。

とはいえ気づいたら、俺たちはもう三竜をぜんぶ退治していたのだ。うわーい。これエルダードラゴンにも挑戦しなきゃいけない

いのかなあ。やだなあ。

ちなみに行方不明の冒険者とやらは、エルダーのお告げで赤竜の居場所を探知したはいいものの、それを宝の地図と勘違いして、がんばって掘り出そうと右往左往していたとのこと。食われなくてよかったな……

・王虎の月、8日

港に行ったら、ウェアルフとかいう剣士が竜退治に来ました！とか言ってたので、三竜はもうぜんぶ退治しちゃったよと言ったらすげえがっくりきてそのまま動かなくなってしまった。……悪いことしたかなあ。でも、あいつひとりで竜退治行く気だったんだろうか。そりゃ死ぬよ。

まあそれはともかく、ふたたび船で行ってきました空中樹海。

エルダー曰く、俺たちは試練を受ける資格を得たので、いつでも来なさいという。いつでも、ということは、いまでもなくともいいらしい。……ほっ。とか言ったら幼なじみから飛び膝を食らった。覇氣がない、だそうな。解せぬ。

帰ってウェアルフに相談したら、エルダーについてのいろんな伝承を教えてくれた。特に攻略法を。ふむふむ、基本は縛りをとにかく欠かさないこと——おい。それうちのパーティ無理。どうしろと。

・王虎の月、9日

ウェアルフと相談したいろんな経緯から判断するに、どうも戦力が足りないらしい。決定的に問題なのは、やっぱり装備が整えられないこと。

というわけで金稼ぎにいい案件ない？ と酒場で相談してみたら、大喜びでいろいろ紹介された。海を渡ってやってきた怪物の足取り

調査とか、エルヴアルが道楽で狩りたいと言っている怪物の退治とか、漁協からの魔物討伐依頼とか——おい。なんか危険なのしかないんですけど？ と聞いたら、トップギルドなんだからそのくらい当然でしょ、と返された。え、俺たちトップなの？

自覚がなかったのでえらい驚いた。いや、たしかに言われてみればだいたいいろいろやらかしたのは事実だけれども。オオヤマネコにおびえてた生活が嘘のようだ。成長したんだなあ。

・王虎の月、10日

海を渡ってきた怪物、アルルーナは、白亜の森に逃げ込んでいたらしい。

それで、俺たちがどうにかすることになったわけだ。……勘弁してほしいが、まあ仕方ない。幸い、やつがばらまく病原菌の特効薬はすでに深都で開発済み。怖いのは直接魔物と戦うだけだぜー！ ということで突貫。

死ぬかと思いました。

……電撃と冷氣は反則だろう。なんというか、幼なじみがあてずっぽうで放ったフリーズガードが二回当たらなければ負けてたと思う。幼なじみは素直にえらい。呪いによってアイノテが二回吹っ飛んだりしたが、まあ無難に勝利。

賞金も大量にもらって大満足。これでしばらくはしのげるかな。

・王虎の月、11日

エルヴアルの友が逃したという怪獣、クラーケン。傷つくと再生する厄介な特性の持ち主で、倒すには次々足を切っていくしかないのだとか。

というわけで狩り決行。13階の、エルヴアルの友が仕掛けた檻を解放して戦い、影縫の隙にバインドカットで撃破。うわーい。

タフな相手だったなあ。久々にアイノテ大活躍。というか、アイノテが活躍できないのって実はバインドをメインに戦わないうちの構成のせいなんじゃ……とか思った。すげえ威力出たもんな。

そんなわけでこの依頼も無事終了。ふう。

・王虎の月、12日

海都漁協の言によると、樹海の5階あたりに巨大なイソギンチャクが住み着き、漁の邪魔になって困っているらしい。そういうわけで行ってきました。んで撃破。こっちが弱っているそぶりを見せるとそこにつけこんでくるらしいという情報を事前にもらっていたので、わざとロケットパンチで身体を五体満足でなくし、イソギンチャクが俺を狙ってくるのを雲隠でかわし続けてたら楽勝でした。なんだよ弱いじゃん。

そんなわけでこの依頼終了。そうとう儲かった。が、あいかわらずエルダー攻略の目処はまだ立たず。もうちょっと全体的な強化が必要かなあ。

・王虎の月、13日

とりあえずできることからしよう、ということで樹海探索再開。そしてアイノテ以外全員石化して帰還。いやあ……マジやばかったわ。アイノテは気合いで石化しなかったみたいだがそれがなかったら全滅だった。

とりあえず、23階は鬼門ということがわかった。近づかないことにしよう。

・王虎の月、14日

落とし穴のせいで無条件に23階に行かなければいけないとわか

ったときの絶望感と言ったら。

仕方ないので、やっかいな石化獣を率先して探し出して狩ることに。壁にある目玉に近づくと近くに警報みたいなのが響く仕掛けになっているっぽいので、そこを避けて移動して先手必勝で叩きまくる。なんとか勝てたけどこっちもボロボロになって撤退。あーもう、もうちょっと楽にいろいろ行けたらなあ。

・王虎の月、15日

22階を探索。ところどころで落とし穴に落ちまくりながら、なんとか中間地点ぱいところまでの道を確保して撤退。

なんかまた23階への道が見える……嫌な構造だなあ。

・王虎の月、16日

まあどうせ落ちるからということで、23階のかい魔物を率先して討伐して回って終了。

最近、ワインナーのメテオがシャレにならない威力になってきた。メテオ連発してるだけで敵が落ちていく。事故で幼なじみが倒れたアイノテが倒れたりしなければもうちょっと安定するんだが。

・王虎の月、17日

今度は22階にも巨大な竜が始めた。

で、まあ撃破して回って体力尽きて撤退。なかなか進まない……まあ、いちいち倒して回っているから当然っちゃそうなんだが。戦法はアイノテメイン。メテオも強いが、やっぱこういう確実に攻撃の大半を引きつけられる敵を前にすると狂戦士の誓いからのチャージブレイドレイヴが光る。

・王虎の月、18日

22階をさらに周り、序盤の地点とのショートカットルートを保って撤退。

これで次回からは大幅に楽ができる。はず。

・王虎の月、19日

22階を探索しきり、24階まで一気に進出。んで撤退。

途中、ケセラランパサランの青いのか赤いのか黄色いのか見かけたが、ありやいったいなんだったんだろう？ ぜんぶ自爆しちゃったけど。

・王虎の月、20日

距離感と方向の狂いまくる24階を探索したものの、羊二匹に相次いで襲われて撤退。

あの量は勘弁して欲しいわ……石化がなくても、羊の二連突進に幼なじみが耐えられない。

あそこは回り込んで行くしかないかなあ。もしくは不意打ちで一匹倒すとか。

・王虎の月、21日

血路を開き、25階の階段への道を確保して撤退。

最後のほうはひどく悪質だった24階だが……これは迷宮の主の性格を現していそうで地味に嫌だ。

あー、この先に待ってる相手はどんななんだろうな。うっかり倒すとか宣言しちゃったけど軽率だったかな。

・王虎の月、22日

近寄っただけで吹っ飛ばされました。解せぬ。

ということでしたん撤退。退けー退けー戦術的撤退じゃー。と
いうか無理。あれ無理。

マジでどうしたものかな……悩む。まったく死角がないし……せ
めて戦いになるアテがあればいいんだけど。どうしたらいいのかな
あ。

・王虎の月、23日

レンに相談したら、それはエルダーの試練をどうにかするしかな
いだろう、と言。

エルダー……かあ。たしかに、人間を越えた力を授けてくれると
いうかの竜王なら、なんとかしてくれるかもしれない。試練を越え
れば、という条件付きでだが。

こちらの戦力はあんまり整っているとは言えないが、それでも主
力としてアイノテのバインドカットがある。後は俺の影縫以外に縛
り担当がもうちょっといけば……いける、かもしれない。

……樂觀的かなあ。とりあえず、アジサイに声をかけてみよう。
あいつは銃専門だけど突剣に持ち替えてもらって、ハンギング使っ
てもらおう方向で。それでそこそこ健闘できるかもしれない。

あとは、ずっと音沙汰がなかったシ・フォセにも連絡を取ろう。
やっぱりビーストキングは頼りになる。打たれ弱さを幼なじみにカ
バーしてもらえば、なんとかなるのでは。

・王虎の月、24日

シ・フォセに連絡を取り、協力について快諾を得た。うん……や
っぱいいやつだなあシ・フォセ。おしとやかで、それでいて頼りに

なる。最強だなとか言ってたなら、幼なじみにイシヤスちゃんは昔からああいう子が好みだよねと言われた。うるせえ一般論だ一般論。それはともかく、やっぱ全戦力を強化する必要があると思うんだよね。というわけで、鍛錬にいい方法はないかとレンに相談したら、北の大地でいくつか仕事があるからそれをこなしたらどうかと言われた。……へー。考えてみてもいいかも。

・王虎の月、27日

北の大地に行って、鍛錬開始。

地元の酒場に寄って仕事を斡旋してもらう。スキュレー退治の名声のおかげでわりといい仕事を斡旋してもらえたみたいだった。ありがたい。この期に北の大陸を観察しつつ、修行に励むとしよう。

・王虎の月、28日

鍛錬初日。

アイエシア近郊の魔物狩りをメインに。案外手強い敵が多くてためになる。……まあ、ほとんどメテオで一掃だけど。ツスクルとワインナーのコンビが最近凶悪すぎて怖いです。

・素兎の月、1日

油断してたら野良の飛竜に狩られかけた……解せぬ。

で、近場にいた冒険者の協力を得てなんとか撃退。嘘。実際はおんぶにだっこでなんとかしてもらった。つかイルミネとマイトなんですけどね具体的には。あいつらマジでつえー。イルミネが呼ぶ輝く狼が前衛でがんばってる間にマイトが銃撃でジ・エンド。銃撃ってあんなに強いんだ。どこぞのアジサイとは大違いだな……

・素兎の月、2日

今日も鍛錬。

今日はアイノテの命中強化を中心に。強敵相手にこれがあるとな
いとじゃずいぶん違うしな。

あとは幼なじみの打たれ強さを強化。そんなに強くないんだから
前線に出てこなければいいのに……と思うのだが、どうも守られる
のは性に合わないらしい。仕方ないから鍛えてやるか。

そんなこんなで今日も一日が終了！。

・素兎の月、3日

ヴィクトリア姫と再会した。

昔、灯台やアユタヤの港で共闘した仲だ。それなりに楽しく会話。
お供を連れていないのでなにごとかと思ったら、ベンジャミンが二
階から転げ落ちて骨折したんだとか。……そのけがの内容はフアラ
ンクスとしてどうなのか。

そんでお見舞いにいったらなぜかネローナがいた。こいつは昔、
アルバイトしていた酒場の常連なのでよく知っている。こっちは相
棒のアーウラが風邪ひいたので手持ち無沙汰なんだと。なんか暴れ
られる案件持ってこいやおらーと脅された。凶暴だなあ。

・素兎の月、4日

今日は幼なじみのスキル発動速度を中心に鍛錬。

どうにも、遅い気がしたので……まあ、後攻発動にも悪くない点
はあるんだが、やっぱりけがの状態を見てから回復できたほうが安定
度は増すから。思い切って早くしてみるとうことにした。

なお、今日はキリカゼさんと会った。相変わらず主の命令で無茶
なものを探しているのだとか。大変だなあ。

・素兎の月、5日

酒場の常連コンビ、ボーグマンとトーマのおっさんが北の大陸に来てしていると聞いて、会いに行ってみた。

そしたら、なんでも俺たちを捜していたという。え、なんで？と聞いたら、珍しい竜に会うならぜひ連れて行ってくれ！とトーマがぎらぎらした目で言った。……お宝目当てかい。いいけど。でも正直、シャレにならないほど強大な相手なんだけどなあ。おっさん、ちゃんと立ってられるのか？

・素兎の月、6日

今度は海賊クロスジャンケのリーダー、ザビィが、竜退治に参加させると詰め寄ってきやがった。

なにがあった、と聞いたら、あたしたちが支配する予定の海でドヤ顔してるのが気にいらねえ……すげえ理由だな。らしいけどさ。というか、なんで俺たちが竜に挑むのはこんなに知れ渡っているんですか、と言ったら、え、ヴィクトリア姫が触れ回ってたよ？と一言。解せぬ。

鍛錬のほうは、相変わらず幼なじみの速度まわりを中心に。だいぶ早くなってきたようだなにより。

・素兎の月、7日

今日も鍛錬。かなり強くなってきた気がする。

この分なら、明日一日オフを入れて、それから挑みに行ってもいいかな。とか思えてきた。検討してみよう。

などと考えつつ鍛錬をこなして帰ってきたら、ジロニアと再会。なんでも、竜退治と聞いて手伝いにきてくれたらしい。それだけで

はなく、わざわざ武器を槌に変えてきていた。いまではもう、前陣迫撃砲術よりアームブレイカーのほうが役に立つだろうって。すげえ。よくわかってる。

そんなわけで今日も終了。

・素兎の月、8日

オフということでみんな休息中。俺は戦闘で使うであろう薬の買い出しに。主にメディカ系とアムリタ系を。

竜に挑戦するという話を聞いて、ヴィクトリア姫やキリカゼも手伝ってくれる気になっているらしい。この辺は素直にありがたい。旧知の仲の冒険者が力を結集すれば、軍隊ひとつぶんくらいの力は出せる！ はず。

……旧知って言っても、ナナナとかはぜんぜん使わないけどな。あいつは最近交易と探索のパトロンとして大成していて、ジャーナリストとしての志とかもうどうでもいいかも、とか言い出している。ちよっと近々気合いを入れにいったほうがいいかもしれん。

・素兎の月、10日

挑戦！ というわけで、空中樹海にふたたび到達。

エルダードラゴンは、俺たちを待ちわびていてくれたようで、歓迎するぞ人間よ。と言ってくれた。

それで、我を打倒しうるほどの力を集結できたのか。と聞かれたから、俺は答えた。そりゃ、やってみないとわからん。違う。と、エルダーは笑って。

戦闘が始まった。

すさまじい猛攻に、相手の手数を制限することで対処する。ボーグマンとシ・フォセが主力。あと俺とキリカゼが足担当、ジロニア

とネローナが腕担当、アジサイとザビーが頭担当で、攻撃担当はもっぱらアイノテ。幼なじみは回復特化。ツスクルは……ちよつと耐久度が足りない感じなので、今回はサポートに回ってもらうことに。レンも同様。

そんな陣容で、何度か崩されたもののなんとか立て直す。幼なじみのリザレクトでネローナが立ち上がり、俺が攻撃を引きつけて瀕死のアイノテを守り、ヴィクトリア姫の加護があたりを癒し、残り全員でなんとか相手の行動を制御しきる。やがて攻撃は弱々しくなっていく、ついには相手の翼は力を失い、エルダーは力なく大地に横たわった。

俺たちの、勝利だ。

そんなわけで、樹海の魔を倒せる力をくださいと言ったらエルダーは笑った。

すでに貴様らはそれを身につけているであろう……

——え、どゆこと。と聞いたら、要するに、エルダーを倒すのに力をつける課程で自然についた力が俺たちの新たな力であって、それを身につけた以上我ができることはもうなにもない、だとか。いいこと言ってる——ように見えて詐欺だろこれ！ 力寄せ力ー！ と詰め寄ったら気圧されたっぽいエルダーは、じゃあちよつとだけおまけして強くしてあげますね、と言って強化してくれた。らっきー。

……なんか最後だけ口調が違ったのが気になったけど。ひよつとしてあの竜、キャラ作ってる？

ナシツフテ世界樹日記－おわり

・素兎の月、13日

海都に戻って、あれ？ と気づいた。俺、機人化してくない？
どうもツスクル曰く、エルダーの力っぽいという。その力によって、おそらく「魔」に最適な力を持つ生き物に変容させられたのではないか。……なんかそれはやっぱり人間じゃないものにされたってことか、と聞いたが、ツスクルは首を振った。

エルダーにしろ世界樹にしろ、人間の身を人ならざるものに変える技は、彼ら自身の眷属とする以外にはない。

機人化はぎりぎりそれに近い技だが、今回はそれではない。そもそも、眷属化には彼ら自身に相応のリスクを伴う。フカビトの力を分け与え、弱体化した真祖などはよい例だ。

今回の場合、逆に白亜の供物を手に入れて人間に戻った深王の例のほうが近いのだそうだ。つまり、人間に戻ったということ。だから、その力はまぎれもなく、俺自身の力でしかあり得ない、という。

……そうなんだー。と、途中から完全に聞き流すモードで聞いていた俺だったりする。まあ、人間であろうとなかろうと大差ない。要はなにができてなにができないかだ。さしあたり機人の堅さと敏捷性は失われたが、たいしたリスクにはならない。むしろ、めっちゃくちや力が出るようになったのがびっくりだ。と思ったら、ならウオリアーに転職したら。と言われた。

え、なんで。と聞いたら、要するにエルダーが適切と判断した形が力が出る形態なら、ウオリアーの技術を学んだほうがいいでしょう、という話らしい。

ふむ。じゃあそれも視野に入れて……アイノテから教わればいいかなあ。なんだかよくわからんけど。

・素戔の月、14日

ウォリアーの技術を学ぶことでギルド登録所の道場を借りに行ったら、無理やり新入生研修にたたき込まれた。解せぬ。

研修教官であるフランクスのロッドテイル曰く、貴様らはトツプのギルドなんだから後進に範を示す義務があるとのこと。気づいたら俺だけじゃなくて知り合い全員集められてた。……いやー。すげえ手回し。俺このおっさん苦手なんだけどなあ。

で、戦ってみた。やっぱ前と同じで多元抜刀を全部パリられてへこんだが、また分身してちまちま殴っているうちに肉弾をまともに食らってロッドテイルは道場外まで吹っ飛んだ。うむ、合格だ！と焦げながら言う姿は、ちょっとすげえと感心したりもした。根性あるなあおっさん。

後は歓迎組み手とやらを。最初は積極的に来た新人冒険者たちだったが、気がついたらアイノテとかレンとばかりやらされる羽目に。なんでこんな強い連中とばかり……と言ったら、レン曰く、逆にいまの俺だと私たち以外は弱すぎて相手にならないから、なんだそう。そんなに強いかなあ俺。

なお、幼なじみはナナナと一緒に縁側でお茶飲んでだべってた。貴様らはもうちょっと働け、と言ったのだが、一対一だとわたしたちは役に立たないから、と言われてしまった。まあそうだけども……：ツスクルとかワインナーとかは逆に、ちょっと火力が強すぎて演舞以外やらせてもらえない羽目に。まあ、こんなところでメテオ撃たれたら大惨事だしな。そこは仕方ない。結局、シ・フォセとかジロニアとかアジサイあたりがいちばん教官としては働いていた。特にシ・フォセは、あいつ教官に向いてるんじゃないのか。モロ体育会ノリのロッドテイルより適任だろう。

そんなこんなで一日が終了。なんの進展もない日だったけど、けっこう楽しかった。冒険者って楽しいんだなあ。とか思った。

・素兎の月、15日

25階の主に近づけないのはやっぱり同様。

なんとかならんかなアレ。まず戦わせてもらえないんじゃ話にならないし。ということで、少し資料をあたることにした。まずは深都に行って、オランピアさんの許可を得て世界樹の資料庫をあさることに。

そしたらついでだから大掃除を手伝って、と駆り出された。解せぬ。

まあ、これも積もった恩義の返しどころなんだろう。そう思って、資料庫を掃除。ここは100年もの間、世界樹と深王が交信してきた知識の蓄積場だ。機人化も先端技術も、ぜんぶここに資料がある。こんなところに俺を入れてもいいのかなあ。部外者だぞ俺。と言ったら、オランピアさんは機人化した人間が部外者とは認識していない、と答えた。いや、その機人化は解けちゃったんだけど、言ったが聞く耳持たないらしい。どうやら、一度機人化したらオランピアさんの中では機人のようだ。うーむ。よくわからん。

うなっていたら、声をかけられた。最近、よく夢を見る、と。

——夢、ねえ。それって、オランピアさんみたいなひとでも見るんだ。と言ったら、即座に否定された。生まれてから最近までこんなことはなかった、と。だいたいデバッグ中のデータを誤って読み込むような真似、人間の非効率的な脳みそもあるまいしするわけがない、とムキになって反論までされた。……いやあ。非効率ですいません。

で、オランピアさんは俺に対して、こう問いかけてきた。夢の中で私はあなたに、すべての冒険者の死を背負うつもりか、と聞いた。そしてあなたは、それはすべての生きている冒険者が背負うべきものだと答えた。これはあなたの考えで間違いないか。と。

……ふむ。言われてみれば、俺の脳にもそんなことを言った記憶がある。あれはいつのことだったか。もう細かいことは覚えていない。

ただ、それを言ったときといまの俺では、少し考え方が変わった
なと思った。

すべての生きている冒険者が背負うのなら、俺も背負っているこ
とには違いない。

その言葉を言った頃の俺は、たぶんあんまり自分で冒険者って自
覚がなかったんじゃないだろうか。だから、どっか他人事みたいに、
俺が背負うんじゃない、と言った。でも本当なら、オランピアさん
の言葉にはシンプルに答えればよかったんだ。——もちろん。それ
が冒険者だ。って。

そう告げると、オランピアさんは初めて——たぶん、最初に出会
ったときからいままでで初めて——少し優しげに、ほほえんだ。

本当に強くなった。あなたなら、世界のすべてをひっくり返すよ
うな奇跡でも、起こせるかもしれない。

そう、彼女は言った。

そして今日は深都で一泊。オランピアさんからは、情報が手に入
り次第連絡するという確約を得た。期待して待とう。

・素兎の月、16日

海都に戻ったら、元老院に呼び出された。

で、なにごとかと思ったら、いま俺たちがやっている「魔」の退
治、それに一枚かませろという話らしい。特にクジュラさんは強く
それを求めてきた。フカビトのときと同じく、どうやら元老院はこ
の手の話を指をくわえて見ているつもりはさらさらないらしい。加
えて、相手は俺たちに姫様の件について恩義を感じているようだっ
た。

なので、こちらにも「魔」の情報を求めたところ、王家の秘密図
書館を開放してもらえということになった。今日はそっちの探索
で一日を使うことに。

それで、探索を手伝ってくれたクジユさんと、いろいろ話をした。特に、姫様を助けようとした件について。彼もどうやら、このループ現象の中の記憶を取り戻したようで、俺が深王と戦ったり姫様を討ったりしたことを、ぼんやりとだが覚えていたようだった。

クジユさん曰く、人には相応の器量がある。器量に外れたことまでは望めない。だから彼は姫様を守るために深王を斬るつもりだったし、それ以上を求めようとはしなかった。

だが、俺たちは違った。一度は敵対した深王や一度は討った姫様を助け、それどころかわかりあえないはずのフカビトまでも助けようとしている。その差がどこから来たのか、彼なりにずっと考えていたそうだ。生まれ持った宿星の差か、それとも別の何者かの守護か。

だから俺は、それは冒険者とそうでない人間の差ですよ、と答えた。

冒険者というのは、高望みする生き物だ。すでに知っていること、わかっているもの、踏みならされた道を歩んでいるだけで満足しない、できない。だから冒険をする。だから未知を求める。

だから——できっこないなんて思わずに、さらに上を求めようとするんでしょ。いいことか悪いことかはわかりませんけどね。

そう言うと、クジユさんは笑った。

なるほど。俺は樹海についてはここで知識を得て潜るだけだったからな。冒険者では所詮、あり得なかった、ということか。

そういうクジユさんの瞳は、いままでになく朗らかだった。

肝心の探索は、少しだけ「魔」についての資料も見つかったものの、決定打に至る情報は得られず。

まあ、まだ呪いの期限は一ヶ月以上ある。気長にやろう。

・素兎の月、17日

今日はナナナが海都に、ツスクルが深都に行って、それぞれ手伝ってくれるとのこと。

なので、今日は休み。久々になじみの酒場に顔を出して、アジサイを酔いつぶして遊んだりしてた。アイノテもつぶそうとしたんだが、あいつは強い……しようがないからワインナーに手を出そうとしたところ、幼なじみに棍棒で殴られた。女の子酔いつぶすとは不埒なり。だと。なんだよー悪いかよー男のロマンだろーと言ったら女の敵めーとぼかばか殴られた。痛い痛い。こいつもけっこう馬鹿力になったよな……最初からその気はあったけど。

ちなみにジロニアは酔いつぶれる前に血を吐いて病院行き。変わるねーなー。

・素兎の月、18日

少しずつわかってきた事実。「魔」はその本拠で、触手をのばして周囲の力を吸収しているらしい。

触手の数は8本。ということは、8人で抑えかかれはどうにかなるってことだ。8人で……そして、その隙に中央を叩かなきゃいけない。

俺たちの総数は10人。だから2人で叩くしかない。ひとりは俺が行くとして、もうひとりは誰が……と思っていたら、幼なじみが言った。わたしが行くよ。

——言うとは思っていた。考えてみりゃ、最初は樹海に入ったのはこのふたりだったんだ。それに戻るだけ。か。

だから、俺は笑って言った。行こうぜ相棒。一緒に、冒険者になるんだ。

準備は万全。

星の海からやってきたというふざけた「魔」を、この世から放逐する準備は整った。

さあ、——お祭りの始まりだ。

・素兎の月、19日

25階の中央に鎮座するそいつは、最初は触手の固まりにしか見えなかった。

その身体から無辺の鬼気が漂い、近づいただけで人間を昏倒させかねないような場を形成している。

だが、その場も急速に薄れていった。8人が、それぞれ戦っているのだ。

だから、俺たちも行かないと。

死んだような触手は、すさまじい力を放出して俺たちを苦しめようとしてきた。

だがそれを幼なじみが弾く。磨きに磨いた、盾術を駆使してパーティを守る。

そうしているうちにあつという間に分身した俺は、多元抜刀一閃。ほとんどなにもさせないまま、勝負を終えた——そのときは、そう思った。

だがそれは本体じゃなかった。触手の束がばらけた、そう思った瞬間、その触手の本体とおぼしき暗黒の球体が、空から音を立てて落ちてきた。

滅星者、名状し難き神。「魔」と呼ばれたそいつは、ぎょろりと中央のなにかを動かして、おぞましく■■■■した——

そこから本当の戦い。

強烈な攻撃と分厚い防御に、しかし俺たちはひるまなかった。幼なじみのサポートは完璧。相手の防御の隙を突いて俺も準備を進める。狂戦士の咆吼を上げ、突撃の陣形を敷き、薬で力を底上げし、力を溜めて、相手の防御がゆるんだ一瞬の隙を突いて、多元抜刀！

——その、一撃で、勝負がついた。

これで終わりだ。

全部、終わったんだ——なにもかも。

・素兎の月、20日

フカビトの真祖、フカオは、馬鹿だね君たち。と言って、それ以上は語らなかった。

呪いは、完膚無きまでに消え去った。ツスクルのお墨付きだ。今後なにが起こるとしても、それは悪い方向には行かないでしょう——そう言ってもらえた。

深都はお祭り騒ぎみたいだった。まあ、100年も苦戦していた相手がついに倒れたんだから、それはそうだろう。そう考えてみると、よく倒せたなあ俺たち。と他人事みたいに言ったら、幼なじみが笑った。言い出したのはイシヤスちゃんだよって。……いや。まあ、そうなんだけどさ。

海都のほうは今日も変わらず。フカビトたちが人間と停戦を求めてきたという話で、元老院は対応に追われていた。まあ、邪魔しいほうがいいだろう。

俺は——そうして、なにもすることがなくなって、こうして日記を書いている。

考えてみれば、この日記も変なもんだよな。呪いに関係なく時をさかのぼって。まるで、俺たちを助けてくれるために、最初から用意されたみたいだ。というのは、さすがにうがちすぎか。

それにしても、冒険者としてやることがなくなってしまった。海も、おおむね探索し尽くした感がある。エルダーなんてすげえのも倒しちまった。樹海は、気づいたら制覇していた。これ以上の冒険を求めるなら、アーモロードから外に出るしかない。

……言い出しそうだなあ。幼なじみ。また俺を無理やり冒険者に

したみたいに、無茶言っで連れ出すんだろう。

そして俺は、それになんとかついて行くんだろう。そういう人間だ。そういう人間になるって、自分で決めてる。

だから、胸を張っていこう。

外から幼なじみの呼ぶ声が聞こえてきた。

さて、次はどんな冒険に駆り出されるのかねえ？

それはまた、べつの機会に。

ナシツフテ世界樹日記、完

ナシツフテ世界樹日記―あとがき

というわけでまたこんにちわ。アイノテ、イルミネに続く世界樹日記シリーズ三作目、「ナシツフテ世界樹日記」です。

前回のイルミネが二年近く書くのにかかった代わりに、今回はスビード重視で書き上げました。縛りプレイとしてもたいした縛りではなく、一周目航海不可、二周目以降は周回ごとに一人以外全員引退して開始、毎回キャラクターを大幅入れ替え……と、まあこのくらいで。航海不可はグラウコス師匠のスキュレー道場に師事できなくなる他、お金が大量に足りなくなるので、そこそこ楽しい縛りでした。

一方で、やっぱり気楽にやり過ぎた点は反省しないといけません。イシヤスは機人化したまま終えるべきだったか……と反省を。この点はいへん反省してます。もうちょっと無茶するべきでした。

ただ、世界樹IIIはシノビという少人数クリアに適した人材がいるため、自分のお気に入りである少人数プレイの縛りとしての難易度が下がってしまったのが残念。いまは世界樹初代のパラディンバードなしプレイをやっているのですが、それが終わったらシノビ禁止少人数プレイでもやってみようかな、と思っています。でも世界樹IIのパラディン、ガンナー禁止少人数プレイのほうが先かな？

物語の内容としては、ヒロインである幼なじみの名前が一度も出てこないのが特徴。まあその答えは「ナシツフテ」なんです。最初書き始めたときは特に話の筋を決めていたわけでもなかったのですが、後々この、名前を出していないことが重要な伏線に。意図したわけでもないのに不思議ですね。個人的には、実はループ物と言われる最近流行のジャンルにはあまり多く手を出していないので、今回の作品がループ物としてどう評価されるかはよくわかりません。こんな感じで書いていいのかな？ と、手探りで書いたものなので

……

全体的に、イルミネほど物語っぽく書いてはいませんが、それでもいちおうきちんと起承転結を付けられたと思っています。読んで満足していただけの方がいれば幸いです。

では、今回はここまで。

また世界樹の新作が出たらお会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3151w/>

ナシツフテ世界樹日記

2011年10月9日15時45分発行